

救急搬送データから見る
日常生活事故の実態

令和3年

東京消防庁
防災部防災安全課

目 次

データ・用語	1
第1部 令和3年の概要	
1 年別発生状況	2
2 年齢層別搬送人員	2
3 月別・時間帯別搬送人員	3
4 事故種別ごとの搬送人員	4
5 発生場所別搬送人員	4
6 初診時程度別搬送人員	5
第2部 種別ごとに見る事故	6
1 ころぶ	8
2 落ちる	10
3 ぶつかる	12
4 ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む	14
5 切る・刺さる	16
6 はさむ・はさまれる	18
7 やけど	20
8 かまれる・刺される	22
9 おぼれる	24
第3部 年齢から見た事故	26
1 年齢区分から見た事故	
(1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故	27
① 0歳～5歳	27
② 0歳	31
③ 1歳	33
④ 2歳	35
⑤ 3歳～5歳	37
(2) 6歳～12歳（小学生）の事故	39
(3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故	42
(4) 19歳～64歳の事故	45
(5) 65歳以上（高齢者）の事故	48
① 65歳以上（高齢者）	48
② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）	52
2 年齢層別での比較	
(1) 年別搬送人員での比較	55
(2) 事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較	57
(3) 時間帯別での比較	59

第4部 初診時程度（死亡・重篤）から見た事故

1	年別発生状況	62
2	月別搬送人員	62
3	事故種別ごとの搬送人員	63
4	時間帯別・事故種別ごとの搬送人員	64
5	発生場所・年代別の搬送人員	65
6	事故種別ごとに見る死亡・重篤事故	66
(1)	ものがつまる等	66
(2)	おぼれる	67
(3)	落ちる	68
(4)	ころぶ	69
(5)	切る・刺さる	70
(6)	ぶつかる	71
(7)	はさむ・はさまれる	72
(8)	やけど	73

データ・用語

日常生活事故

救急事故のうち、運動競技事故、自然災害事故、水難事故、労働災害事故、一般負傷に該当するものをいう。

分析データ

平成29年～令和3年中の救急搬送データ（救急搬送したもの）における日常生活事故に該当するデータ

初診時程度

- ・死亡・・・初診時死亡が確認されたもの
- ・重篤・・・生命の危険が切迫しているもの
- ・重症・・・生命の危険が強いと認められたもの
- ・中等症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
- ・軽症・・・軽易で入院を要しないもの

関連器物

受傷原因に直接または間接的に影響があった器物のことをいう。

事故種別

- ・落ちる・・・倒れた際に高低差の移動を伴って受傷したもの
- ・ころぶ・・・倒れた際に高低差の移動を伴わず受傷したもの
- ・ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む（ものがつまる等）・・・食物または、食物以外のものを飲み込んで受傷したもの（目・耳・鼻へ異物が入ったものを含む）
- ・ぶつかる・・・人と人、人と物との衝突により受傷したもの
- ・はさむ・はさまれる・・・物体間または物体内に挟まれたもの
- ・やけど・・・高温の液体、気体等により受傷したもの
- ・切る・刺さる・・・刃物や鋭利物等により受傷したもの
- ・かまれる・刺される・・・動物や虫などにかまれた、刺された等により受傷したもの
- ・おぼれる・・・浴槽、プール、河川等で溺れたもの

年齢区分

- ・乳幼児・・・5歳以下
- ・小学生・・・6歳以上13歳未満
- ・中学生・高校生・・・13歳以上19歳未満
- ・高齢者・・・65歳以上
- ・前期高齢者・・・65歳以上75歳未満
- ・後期高齢者・・・75歳以上

東京消防庁管内

東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

第1部 令和3年の概要

1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、日常生活における事故により平成29年から令和3年までの5年間に676,355人が救急搬送されています。令和3年中は、123,445人が救急搬送されています（図1-1）。

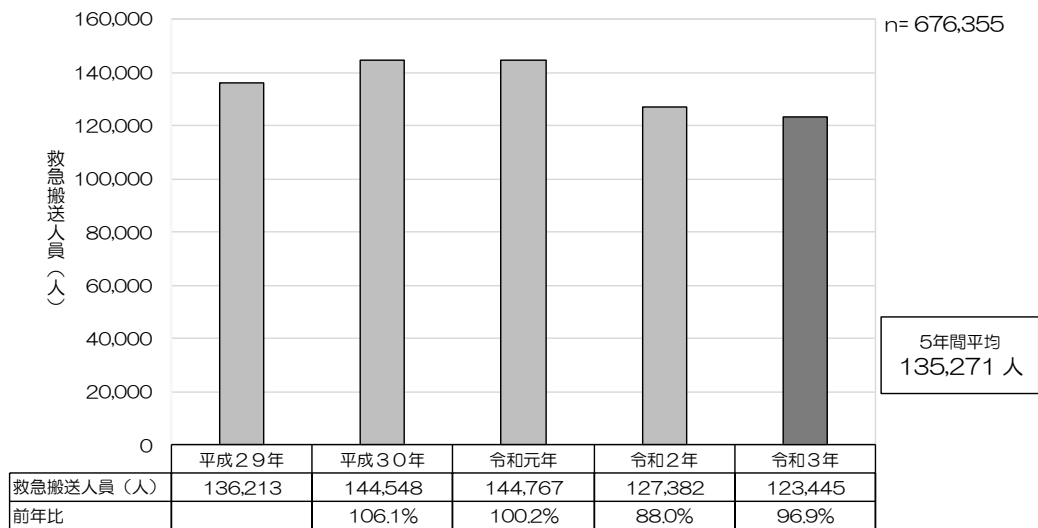


図1-1 年別の救急搬送人員

2. 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別の救急搬送人員を見ると、乳幼児と高齢者に多く発生しています（図1-2）。

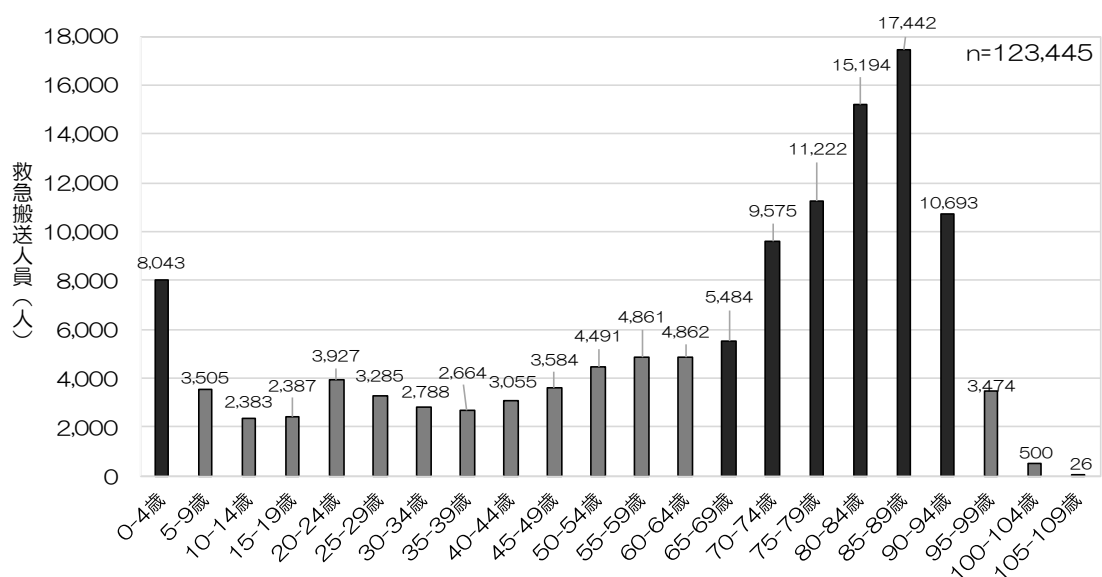


図1-2 年齢層別の救急搬送人員

3. 月別・時間帯別搬送人員

月別に見ると、12月の13,150人が最も多く、次いで11月に11,939人が救急搬送されています（図1-3）。

時間帯別で見ると、9時から20時台までは6,000人以上が救急搬送されています（図1-4）。

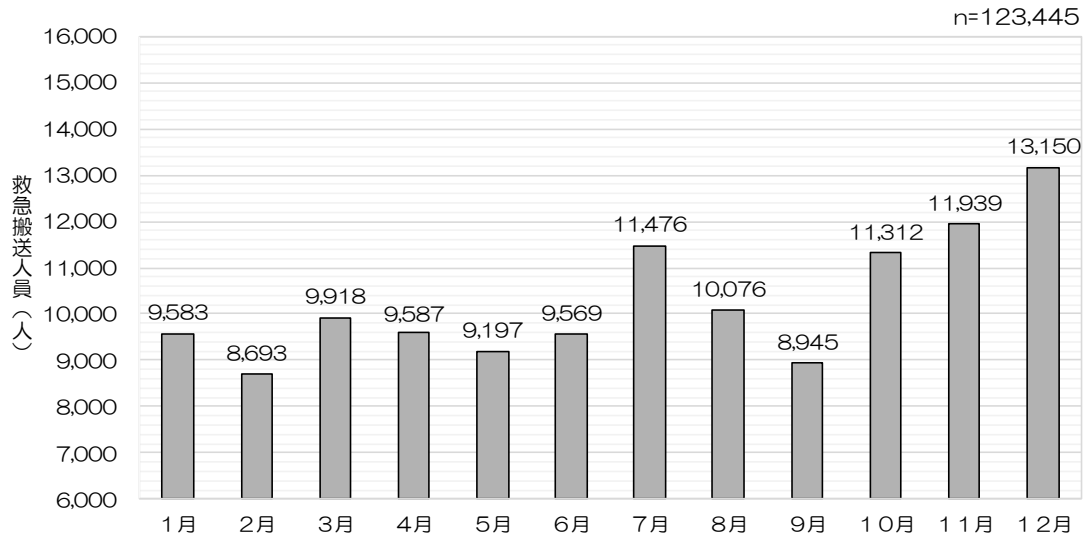


図1-3 月別の救急搬送人員

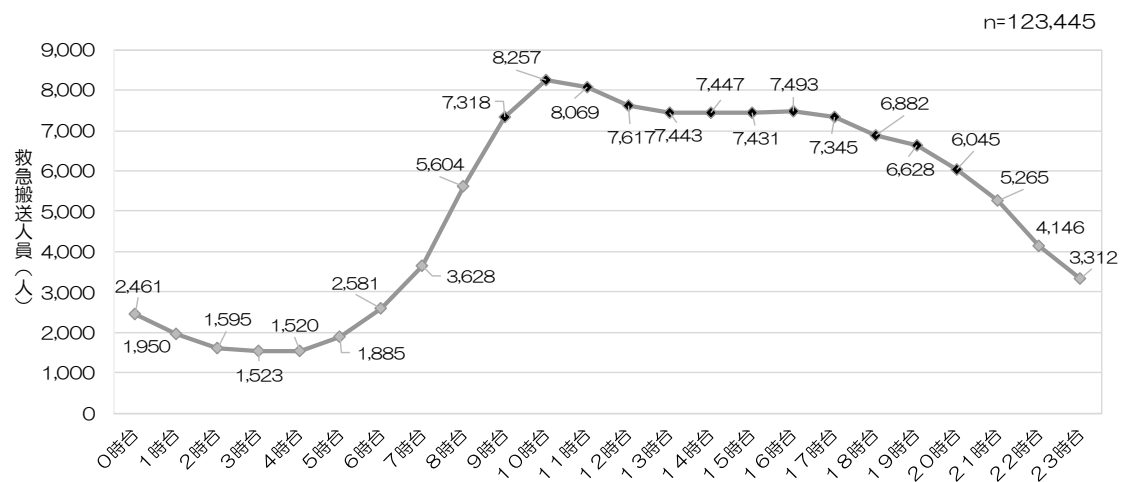


図1-4 時間帯別の救急搬送人員

4. 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が全体の約6割を占め最も多くなっています。
 なお、事故種別ごとの概要については第2部で取り上げています（図1-5）。

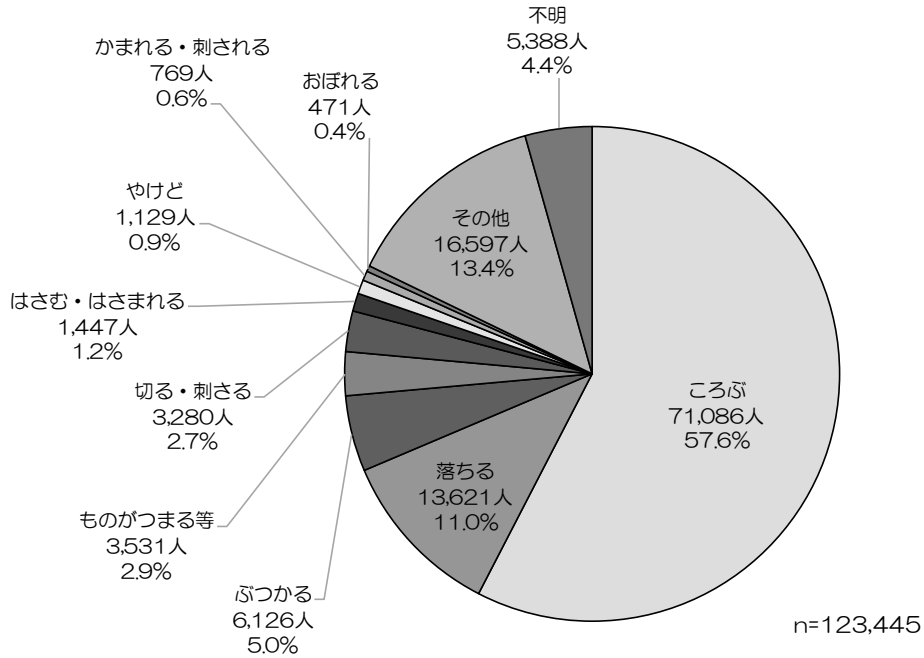


図1-5 事故種別ごとの救急搬送人員

5. 発生場所別搬送人員

発生場所別に見ると、半数以上が住宅等居住場所で発生しています（図1-6）。

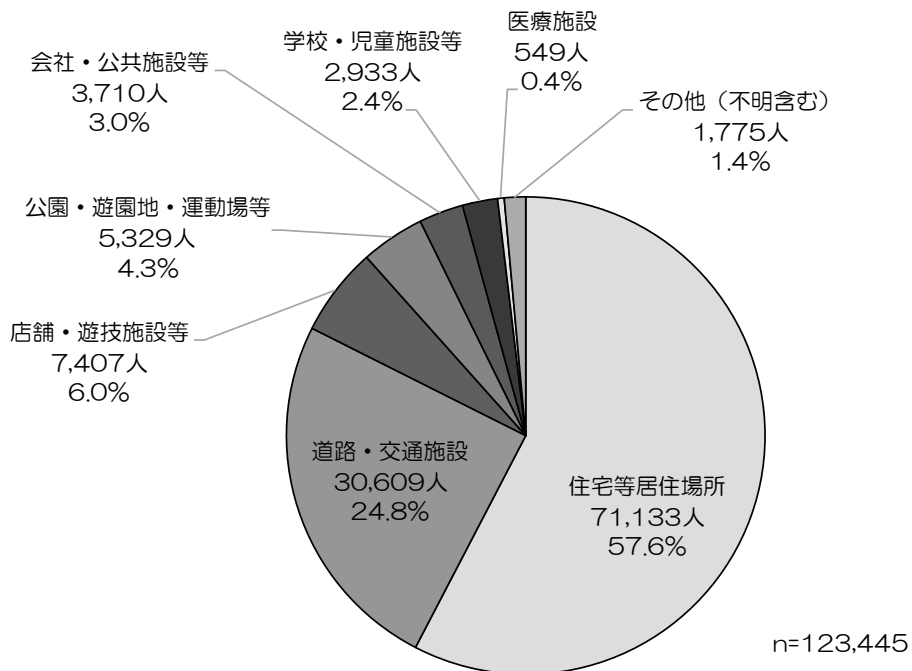


図1-6 発生場所別の救急搬送人員

6. 初診時程度別搬送人員

救急車で搬送された人の初診時程度を見ると、3割以上が入院を必要とする中等症以上で、生命に危険を及ぼすような事故も発生しています（図1-7）。

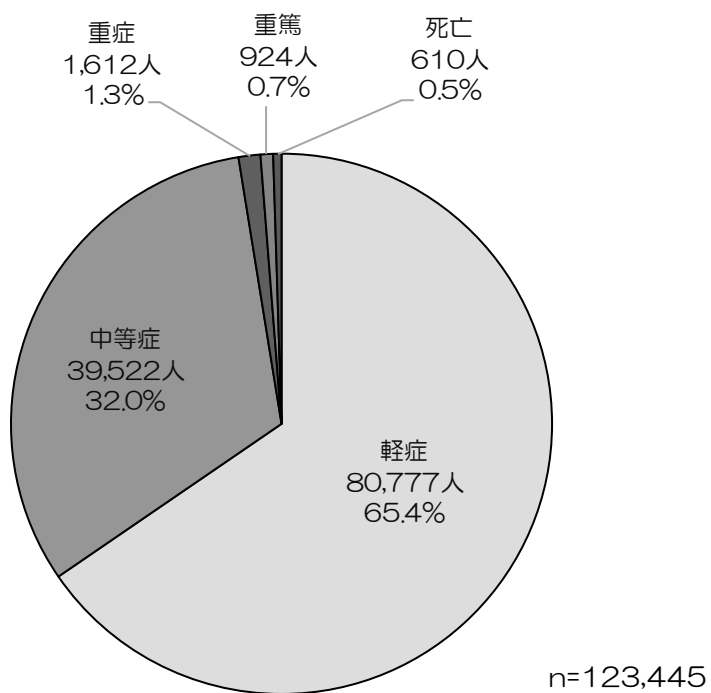


図1-7 初診時程度別の救急搬送人員

第2部 種別ごとに見る事故

ここでは、日常生活における事故を「ころぶ」「落ちる」「ぶつかる」「ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む（ものがつまる等）」「切る・刺さる」「はさむ・はさまれる」「やけど」「かまれる・刺される」「おぼれる」の種別ごとに取り上げています。令和3年中で最も多いのは「ころぶ」事故で、全体（※その他、不明を除く）の7割以上となっています（図2-1）。

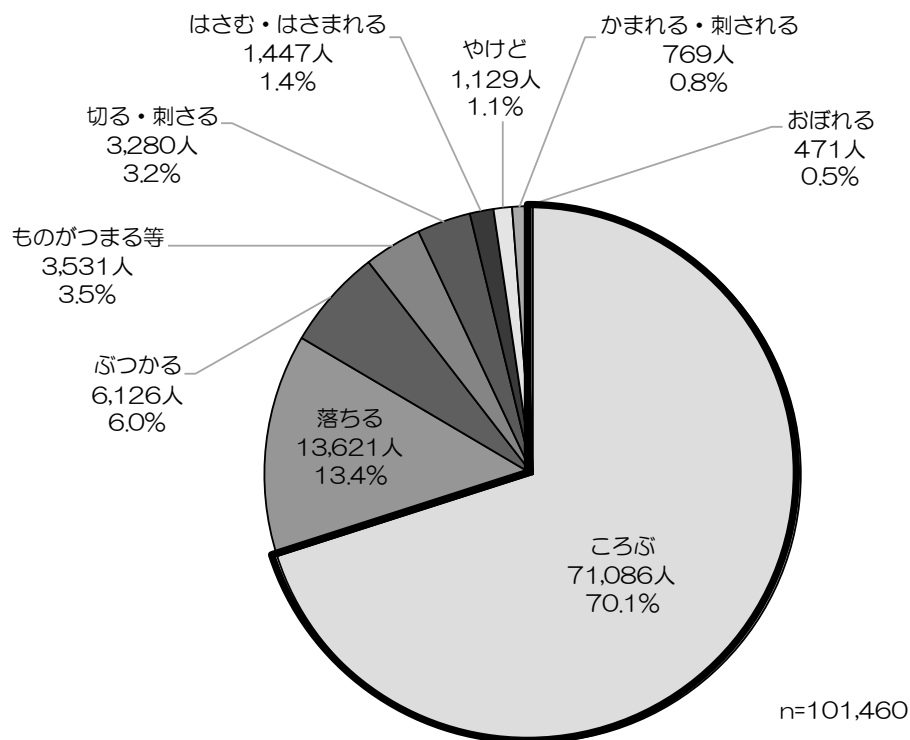


図2-1 事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

種別ごとに見ると、事故は年代によって特徴があります。乳幼児は他の年代に比べ、ものが詰まったり、ものを誤って飲み込む事故の割合が多く、また、やけどの割合も多くなっています。10代ではぶつかる事故の割合が多くなっています。また、高齢になるにつれて「ころび」事故の割合が増えています（図2-2、図2-3）。

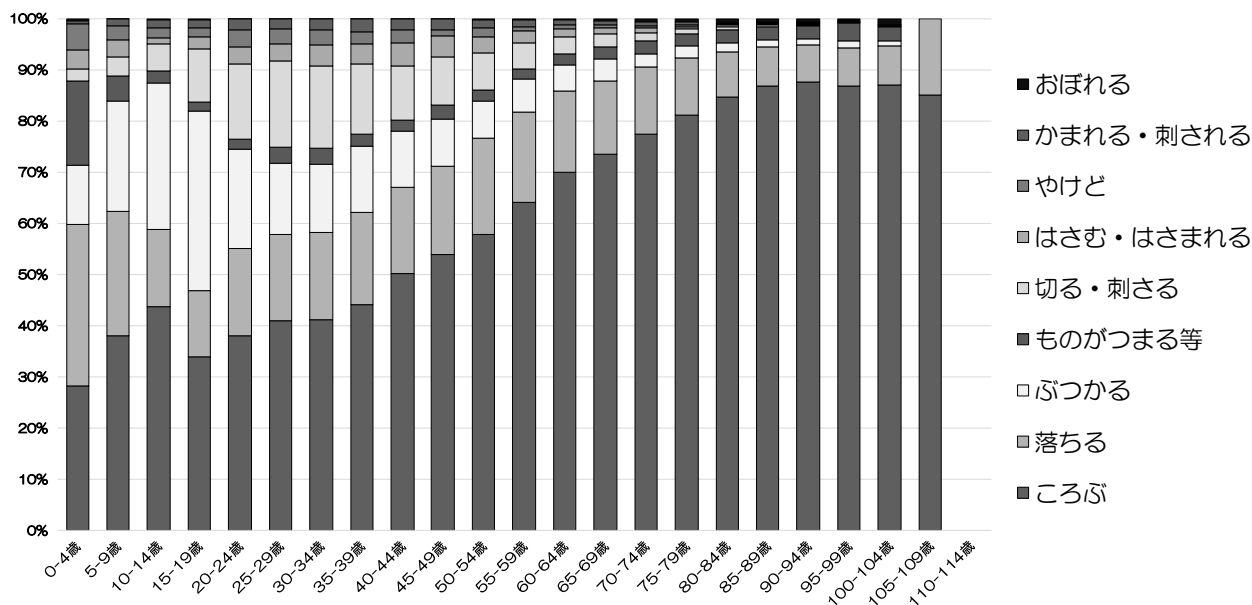


図2-2 年齢別の事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

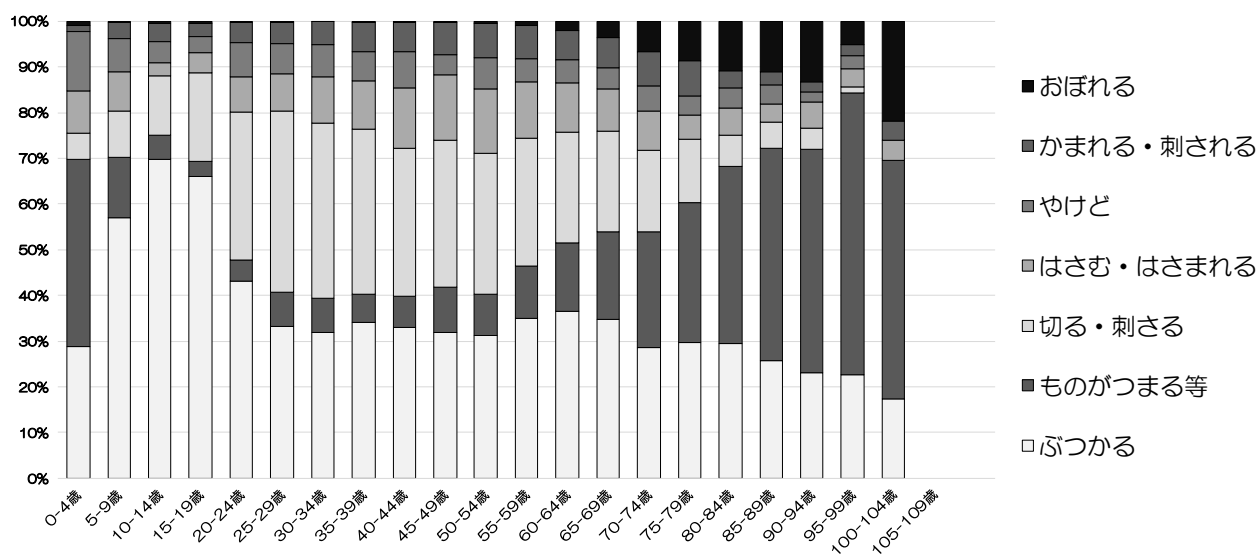


図2-3 年齢別の事故の種類別構成割合（ころび、落ちる、その他、不明を除く）

1. ころぶ

(1) 年別搬送人員

「ころぶ」事故は日常生活における事故の中で最も多く、令和3年中は71,086人が救急搬送されています（図2-4）。

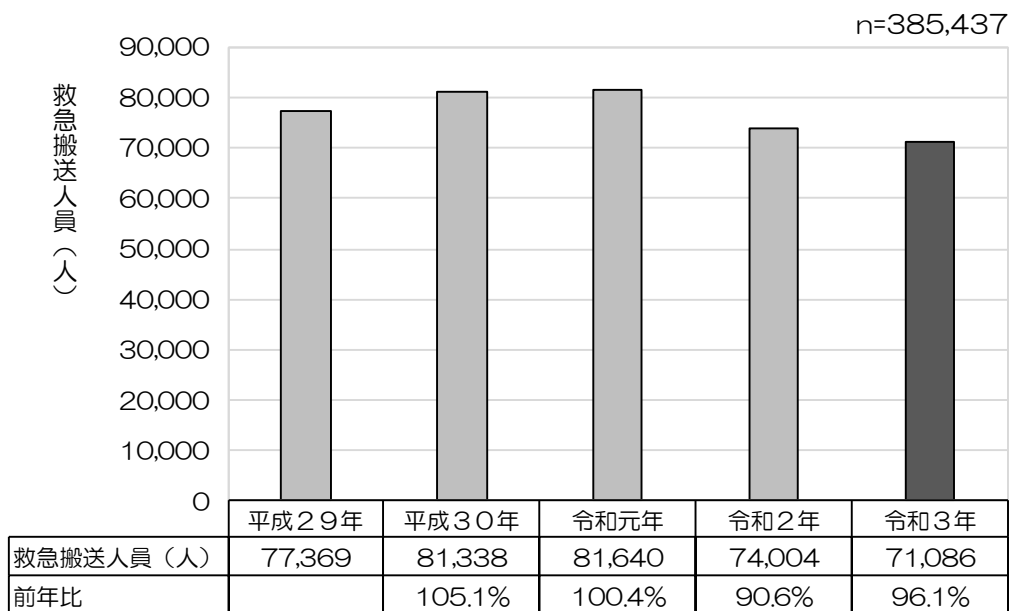


図2-4 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、65歳以上の高齢者が多く救急搬送されています（図2-5）。

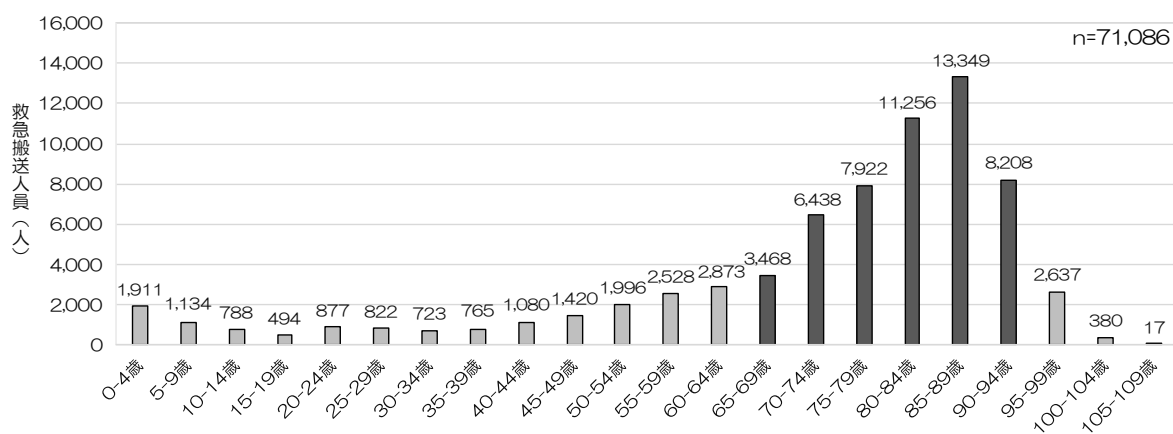


図2-5 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く、次いで道路・交通施設となっています（図2-6）。

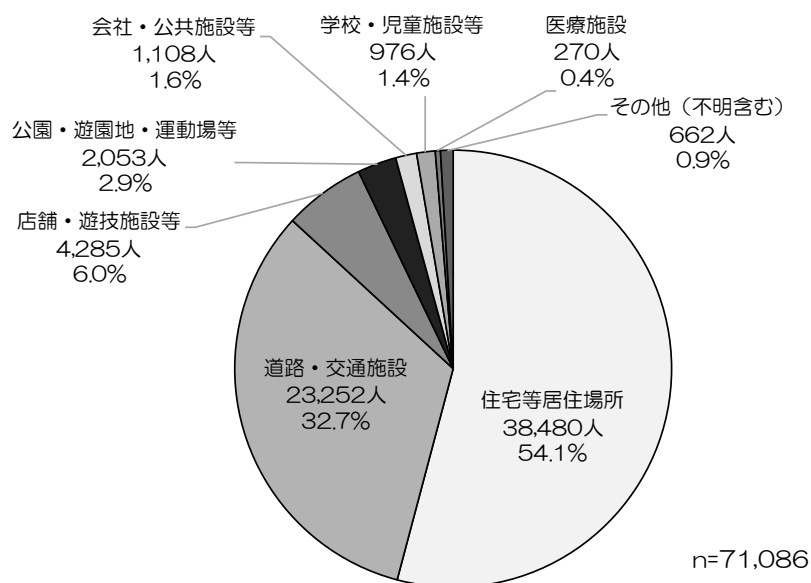


図2-6 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図2-7）。

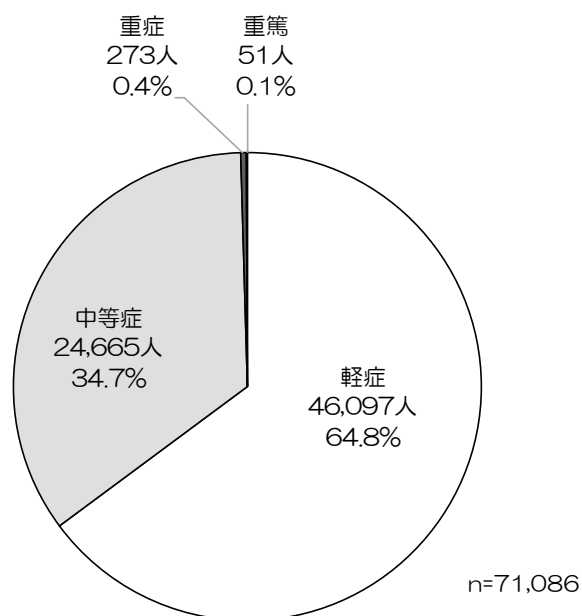


図2-7 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 ころぶ】

自宅のトイレ内でマットに足を滑らせて転倒した（80代 中等症）。

2. 落ちる

(1) 年別搬送人員

階段や脚立などから「落ちる」事故で、令和3年中に13,621人が救急搬送されています（図2-8）。

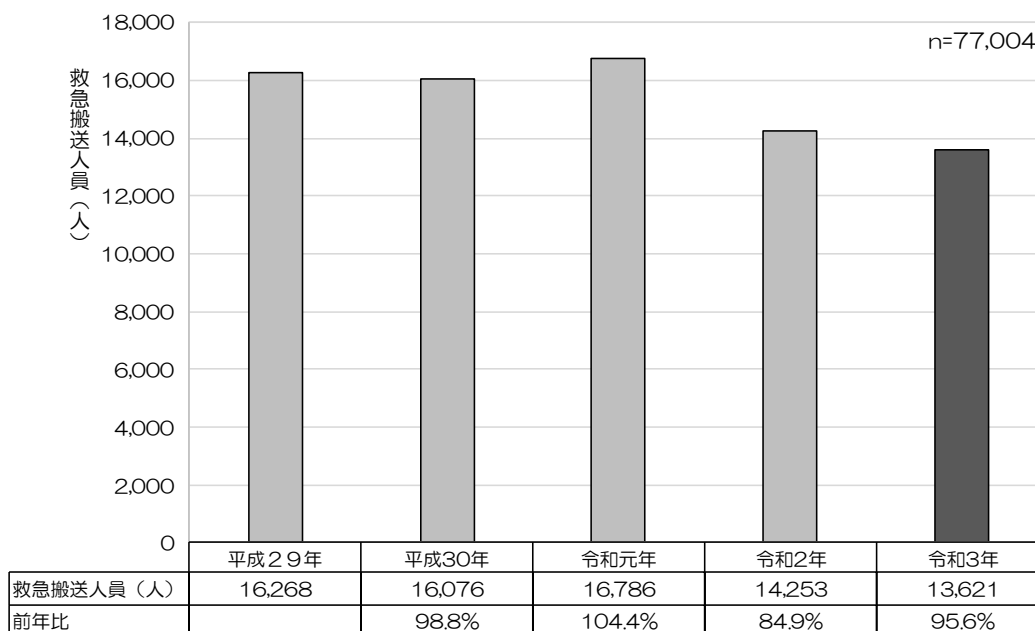


図2-8 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、2,147人が救急搬送されています（図2-9）。

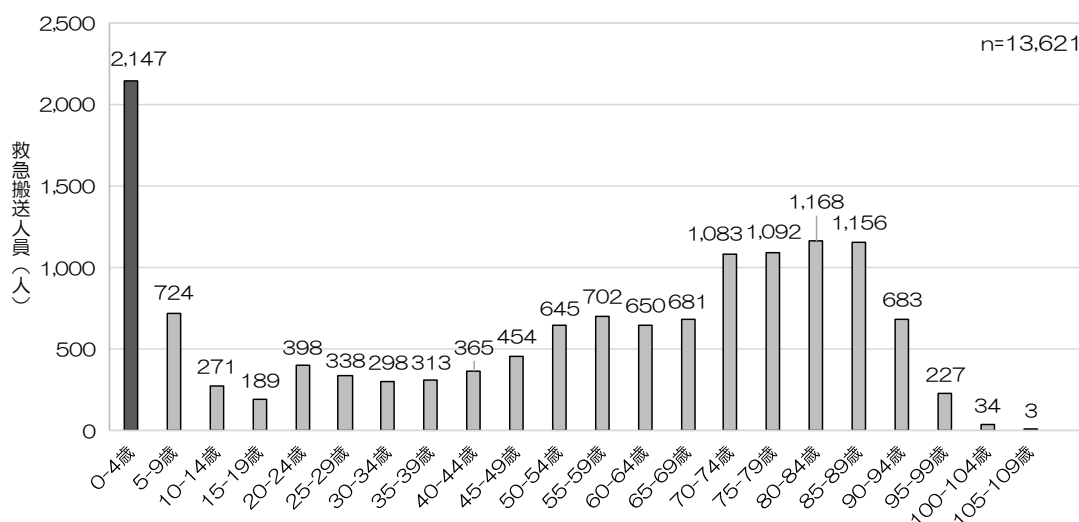


図2-9 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く 6 割以上となっています。次いで、道路・交通施設、店舗・遊技施設等で多く発生しています（図 2-10）。

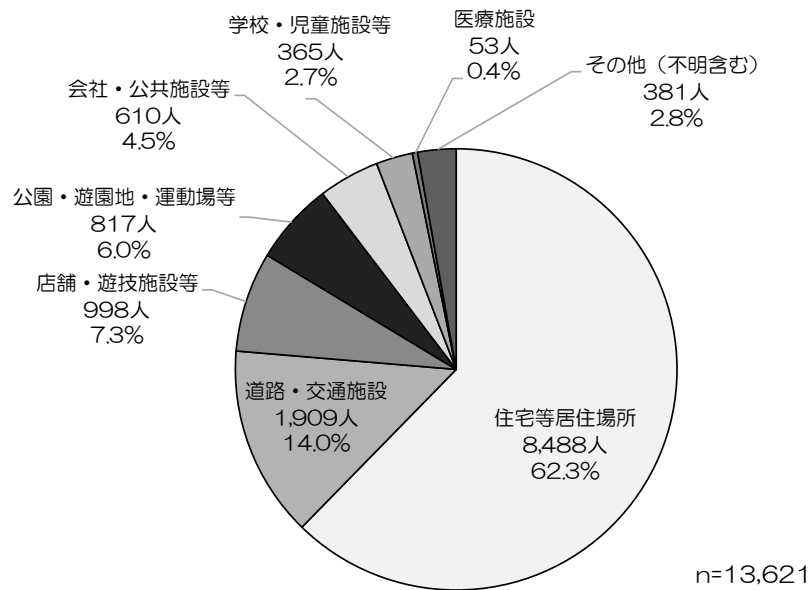


図 2-10 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図 2-11）。

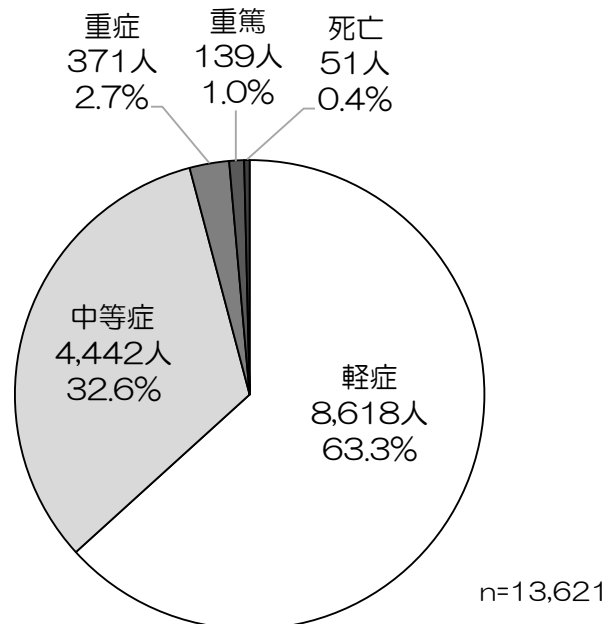


図 2-11 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 落ちる】

2段ベッドの上で兄弟と遊んでいたところ、誤って床に転落した（4歳 中等症）。

3. ぶつかる

(1) 年別搬送人員

飛んできたボールに「ぶつかる」事故や、走っていて人やものに「ぶつかる」事故で、令和3年中に6,126人が救急搬送されています（図2-12）。

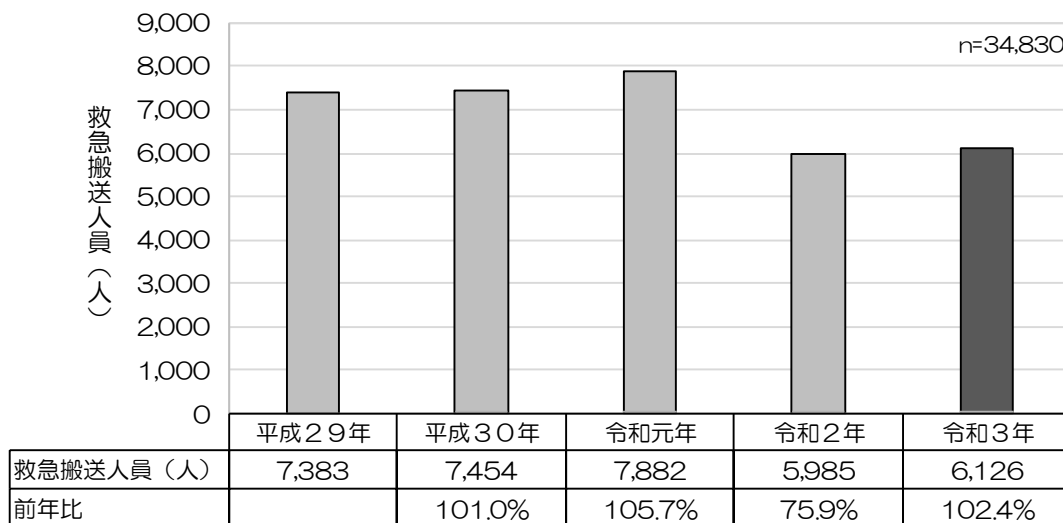


図2-12 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層別（5歳単位）では、最も多いのは0歳から4歳までとなっており、加齢とともに減少する傾向が見られます（図2-13）。

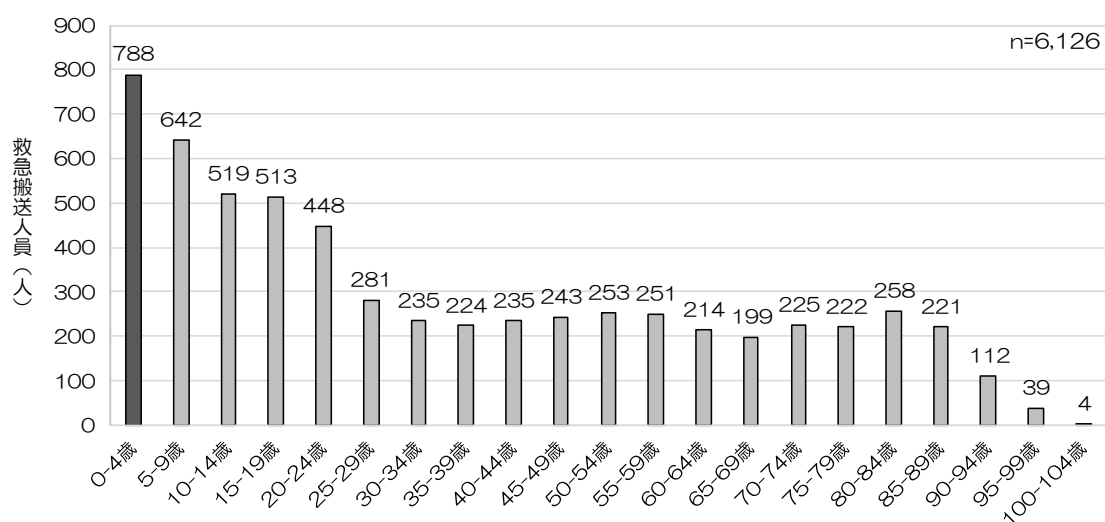


図2-13 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く、次いで公園・遊園地・運動場等や道路・交通施設での事故が多く発生しています（図 2-14）。

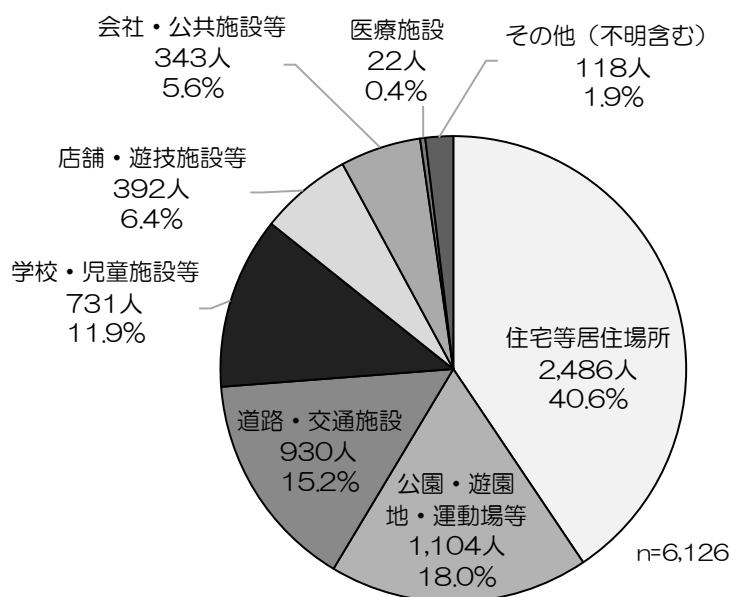


図 2-14 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、全体の8割以上が軽症ですが、重症や重篤、死亡と診断される事故も発生しています（図 2-15）。

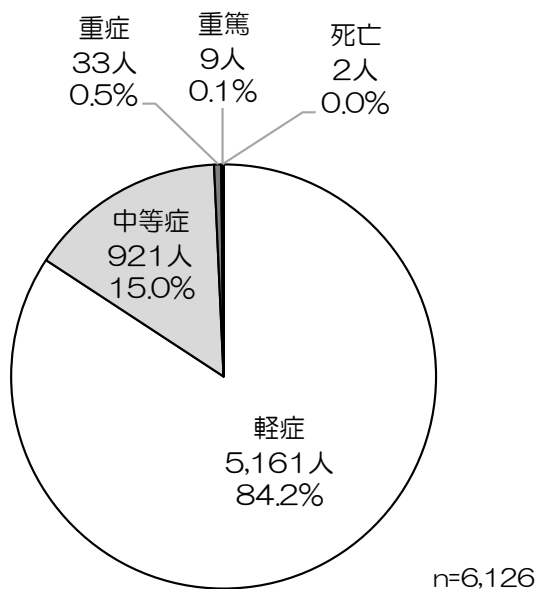


図 2-15 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 ぶつかる】

サッカーの試合中に、相手チームの選手と接触した際に肘が当たり受傷した（10代中等症）。

4. ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む

(1) 年別搬送人員

食べ物を喉につまらせたり、たばこや玩具などを飲み込んでしまう事故により、令和3年中は3,531人が救急搬送されています（図2-16）。

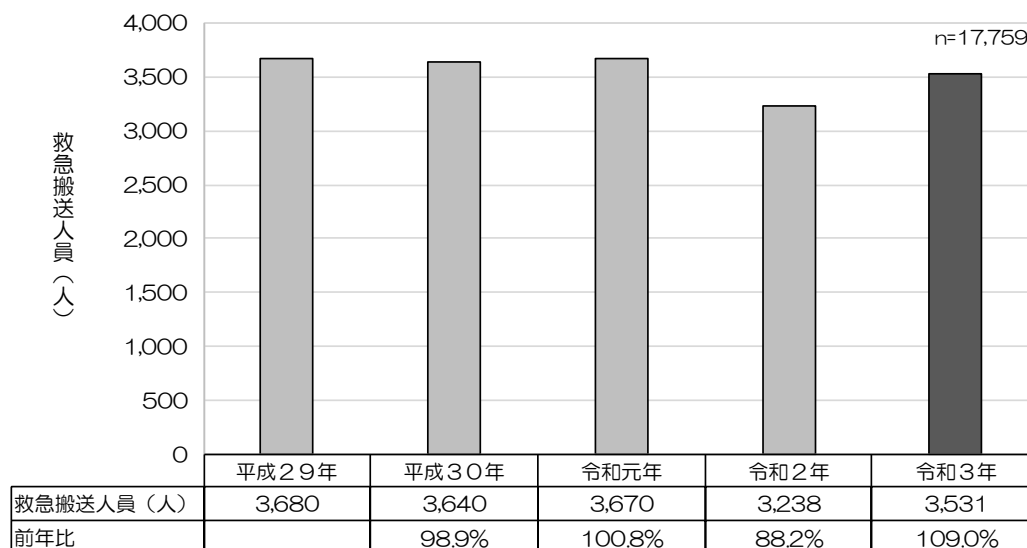


図2-16 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、1,117人が救急搬送されています（図2-17）。

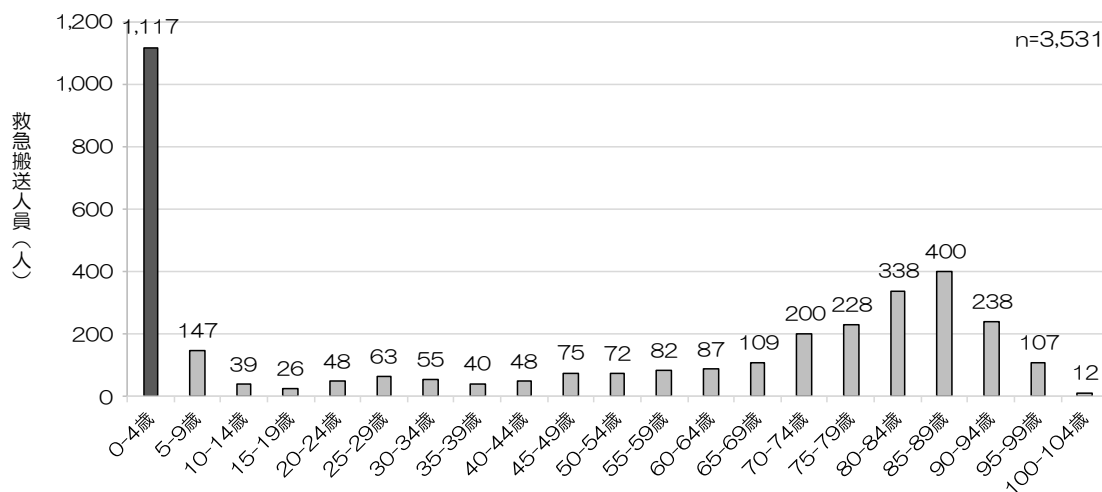


図2-17 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が9割以上と最も多くなっています（図2-18）。

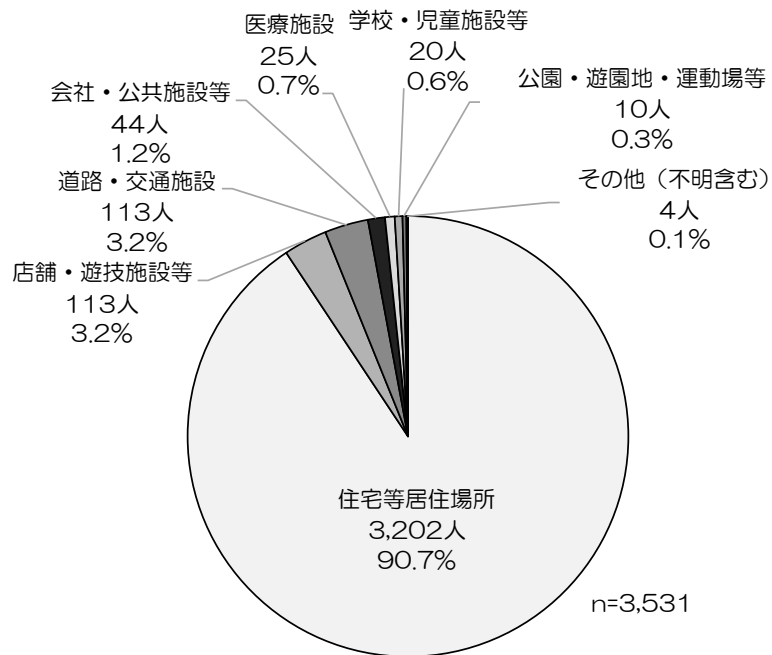


図2-18 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図2-19）。

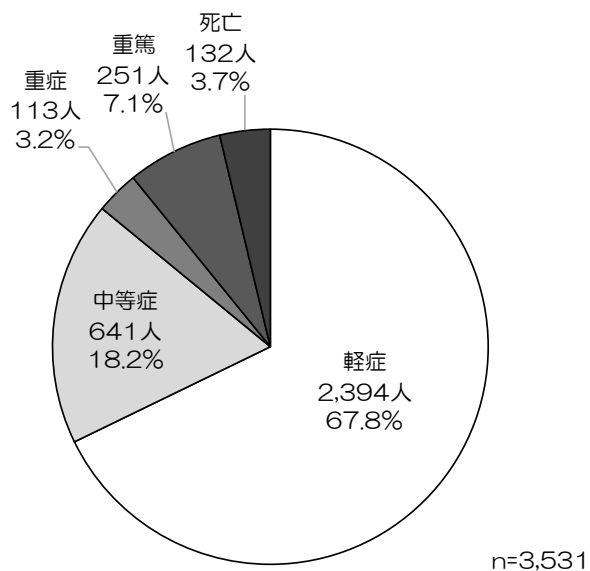


図2-19 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 ものがつまる】

餅を食べていたところせき込み始め、意識を失った（80代 重症）。

5. 切る・刺さる

(1) 年別搬送人員

刃物で切ったり、何かが刺さったりする事故で、令和3年中に3,280人が救急搬送されています（図2-20）。

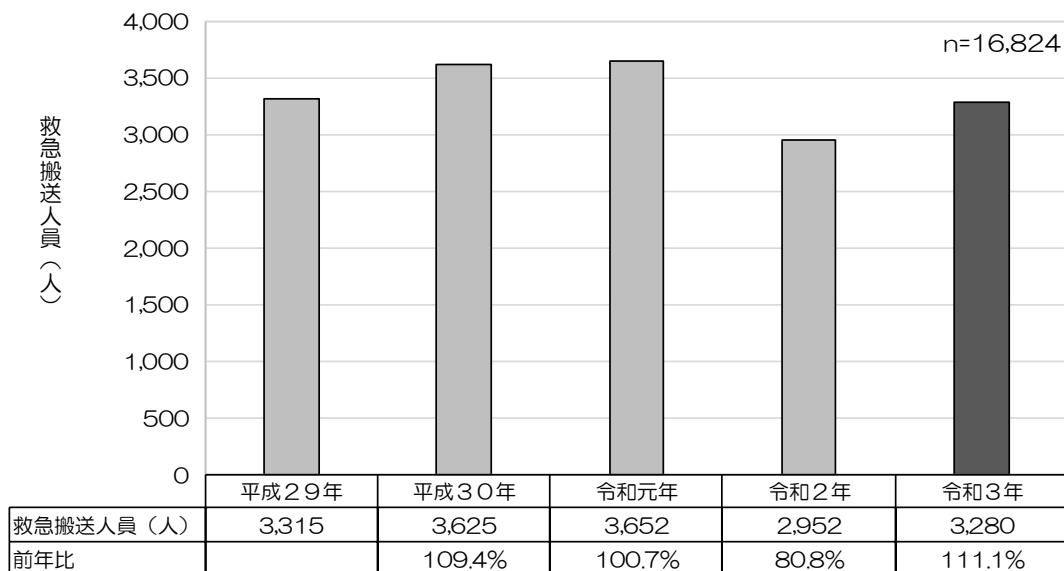


図2-20 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、20代での救急搬送人員が多くなっています（図2-21）。

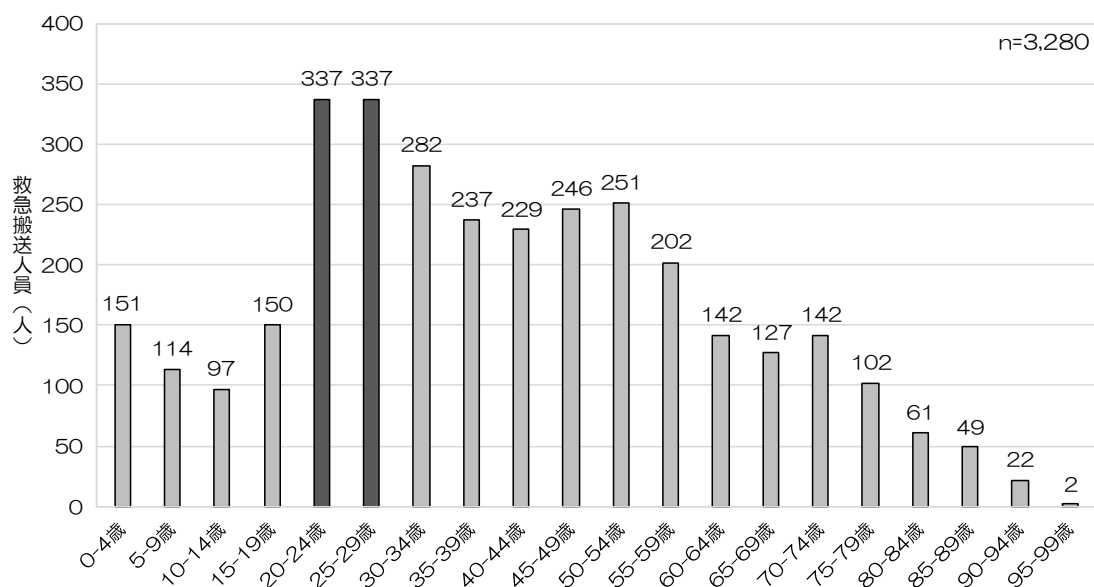


図2-21 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く約7割を占めており、次いで店舗・遊技施設等、会社・公共施設等が多くなっています（図2-22）。

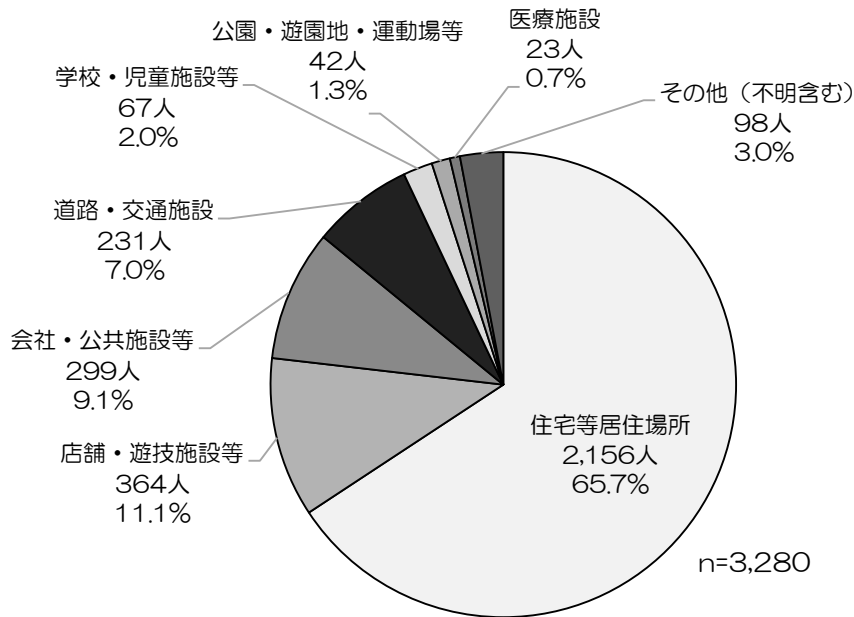


図2-22 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、全体の1割以上が中等症以上と診断されています（図2-23）。

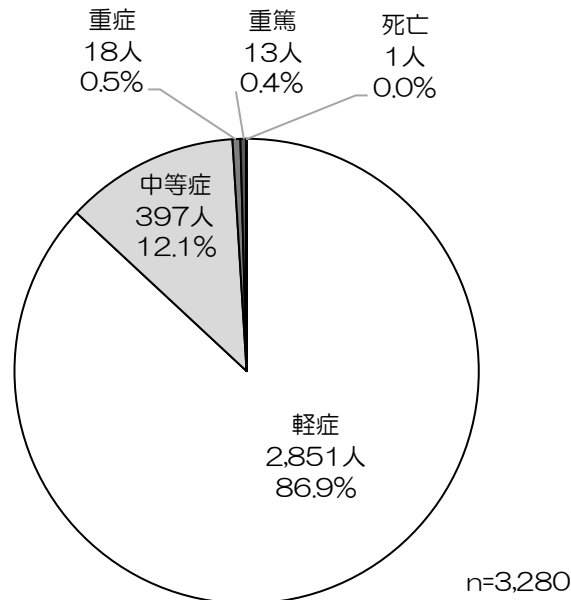


図2-23 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 切る】

食器をシンクに入れようとした際に転倒し、持っていた皿が割れてその破片で手を切ってしまった（50代 中等症）。

6. はさむ・はさまれる

(1) 年別搬送人員

ドアや機械、鉄道車両の戸袋などにはさまれたり巻き込まれたりする事故で、令和3年中に1,447人が救急搬送されています（図2-24）。

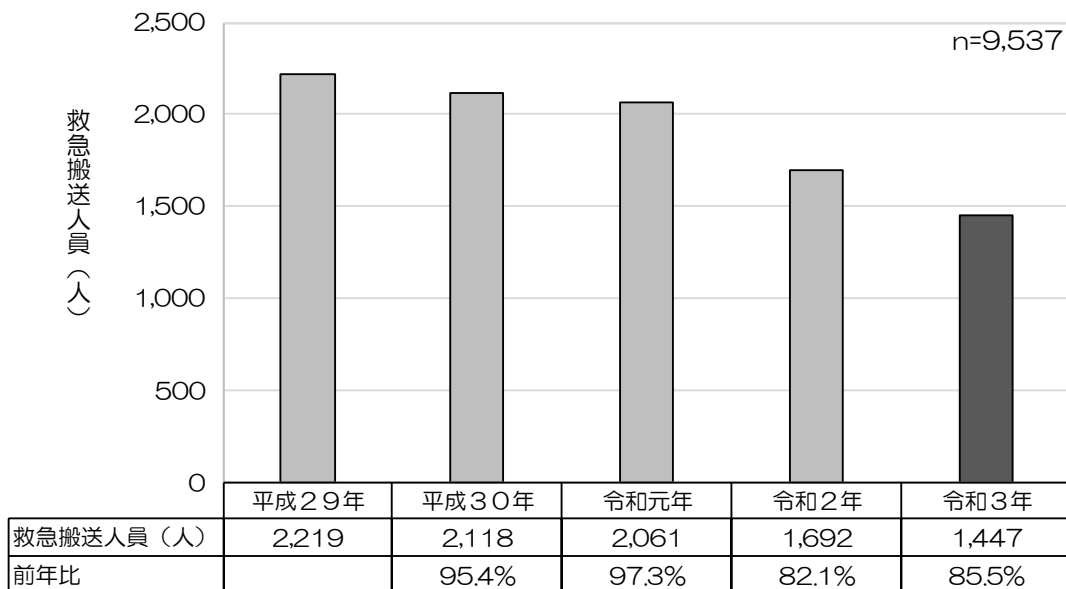


図2-24 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く255人が救急搬送されています（図2-25）。

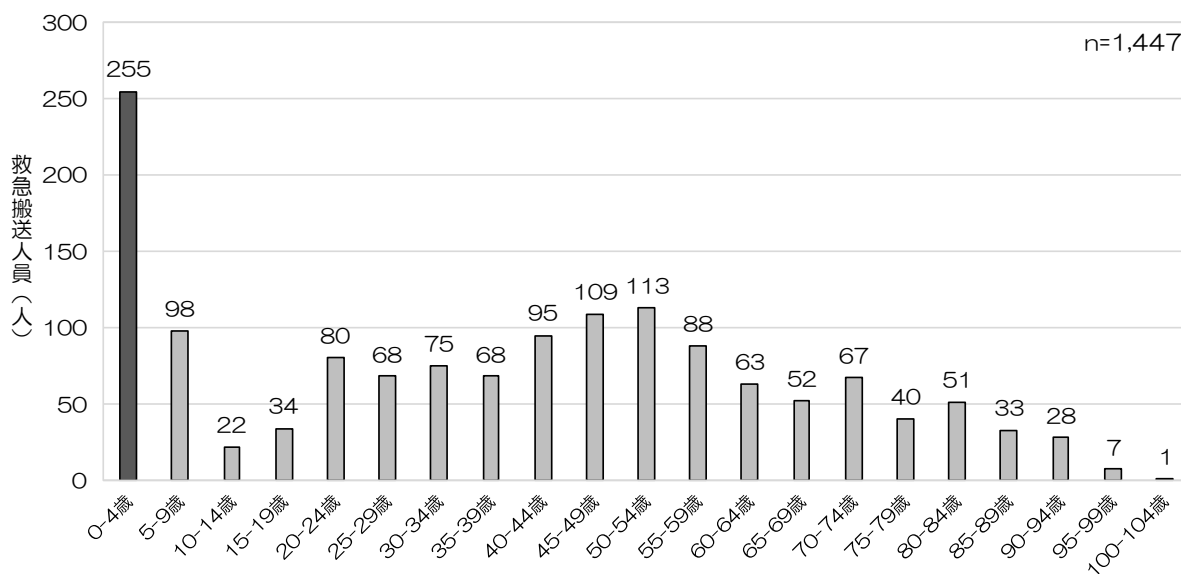


図2-25 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が約4割と最も多く、次いで会社・公共施設等や道路・交通施設でも多く発生しています（図2-26）。

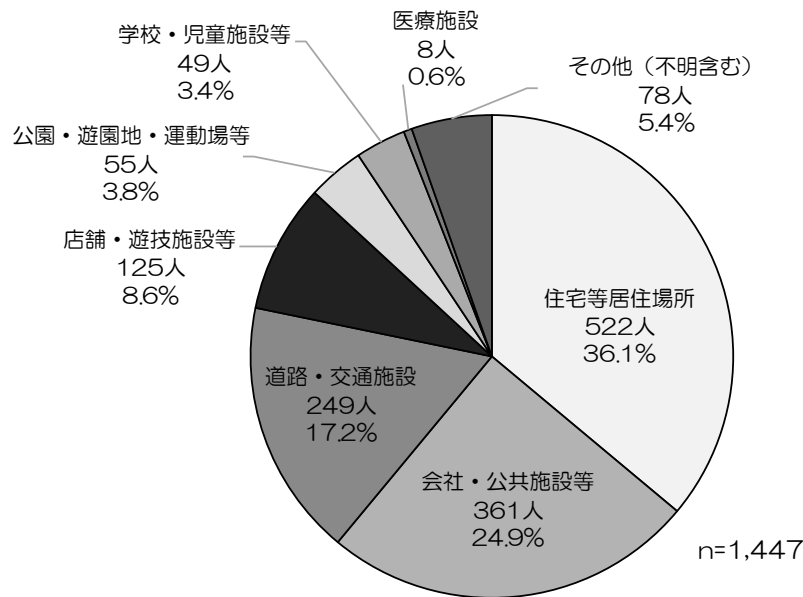


図2-26 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、3割以上が中等症以上と診断されています（図2-27）。

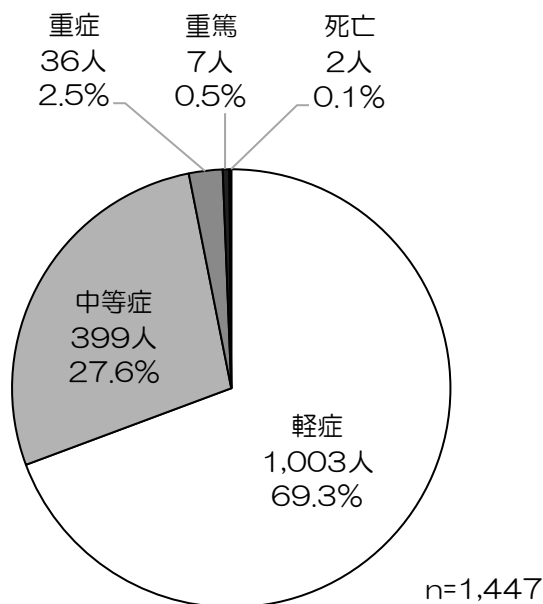


図2-27 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 はさまれる】

自宅でベランダの窓を閉めたところ誤って自身の指を挟んでしまい受傷した（40代中等症）。

7. やけど

(1) 年別搬送人員

熱湯や天ぷら油等によるやけどで、令和3年中に1,129人が救急搬送されます（図2-28）。

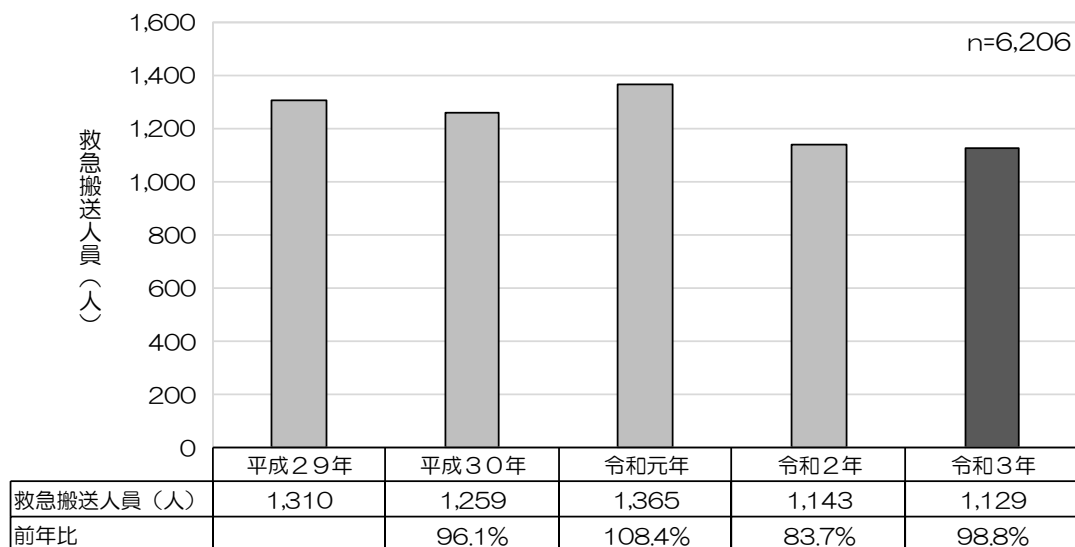


図2-28 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、352人が救急搬送され、全体の3割以上を占めています（図2-29）。

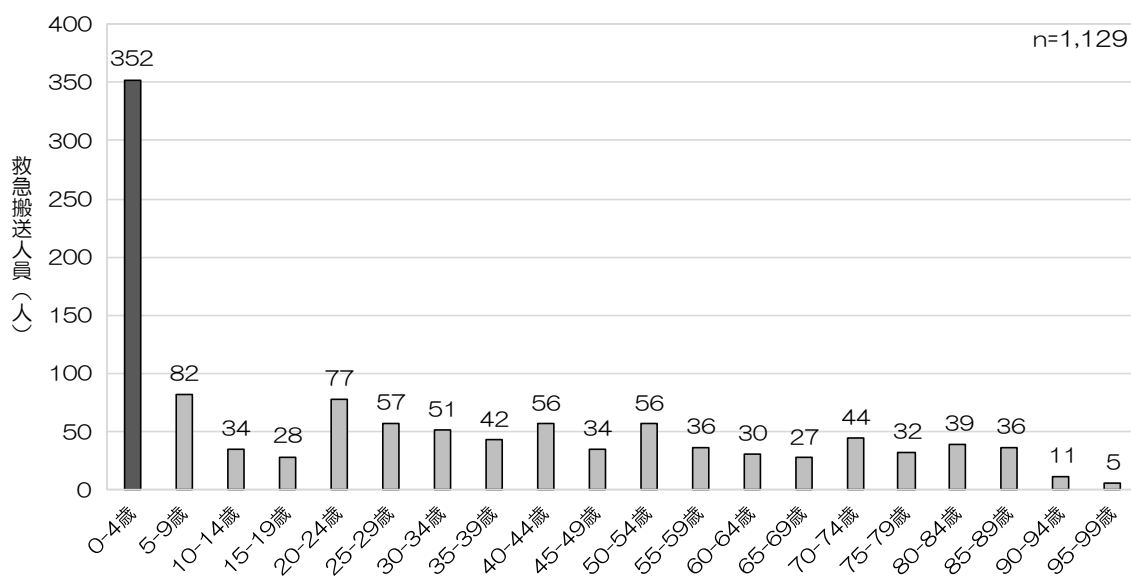


図2-29 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所の割合が最も多く、8割以上となっています(図2-30)。

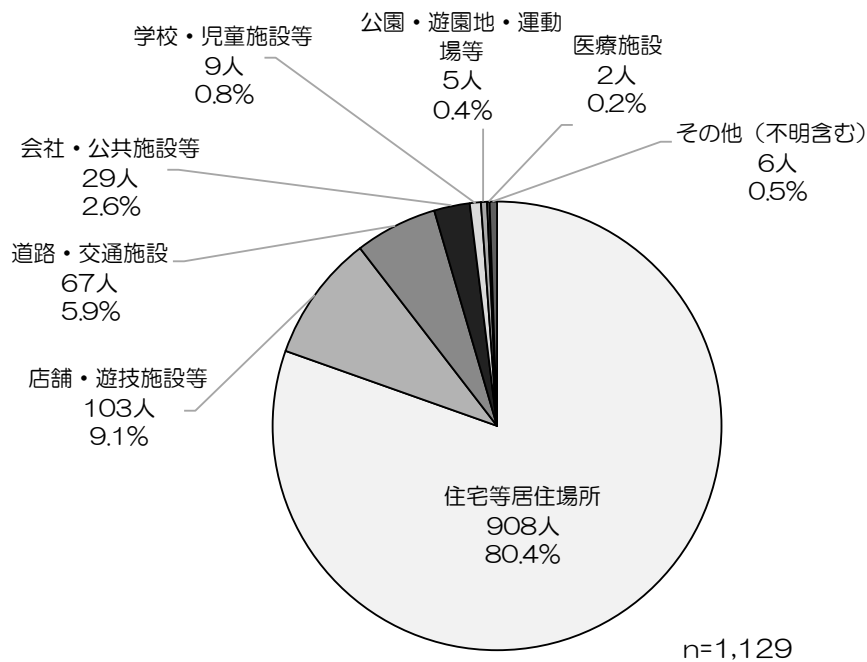


図2-30 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、2割以上が中等症以上と診断されています(図2-31)。

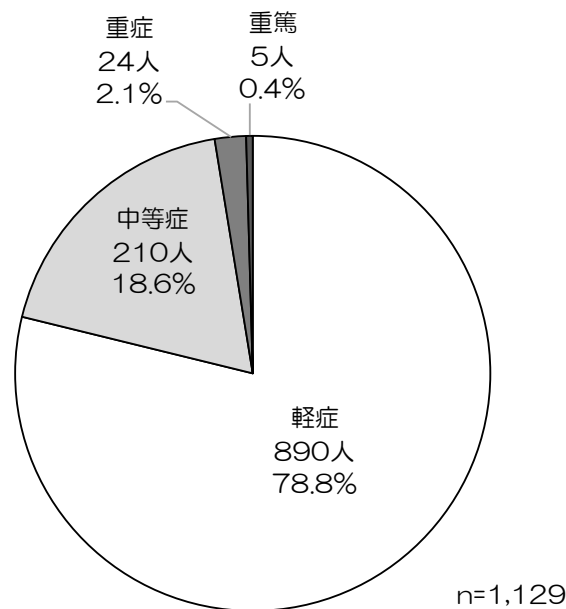


図2-31 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 やけど】

テーブル上に置いてあったカップ麺を倒してしまい、熱湯が体にかかってやけどした(1歳 中等症)。

8. かまれる・刺される

(1) 年別搬送人員

犬にかまれる、蜂に刺される等で、令和3年中に769人が救急搬送されています(図2-32)。

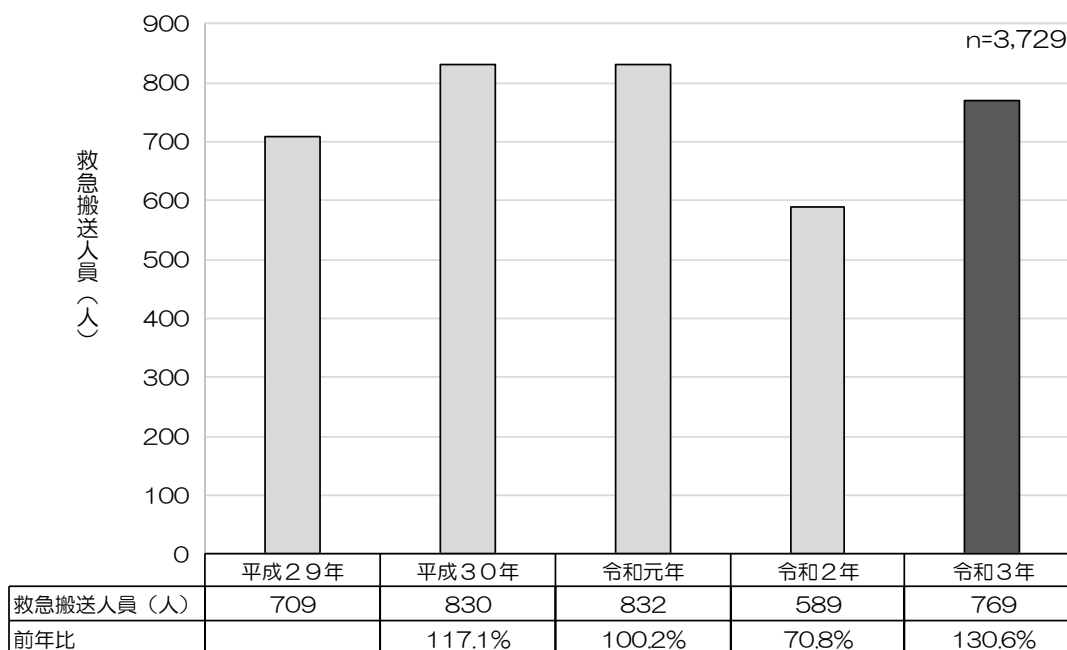


図2-32 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層(5歳単位)別では、50歳から54歳までが60人と多くなっています(図2-33)。

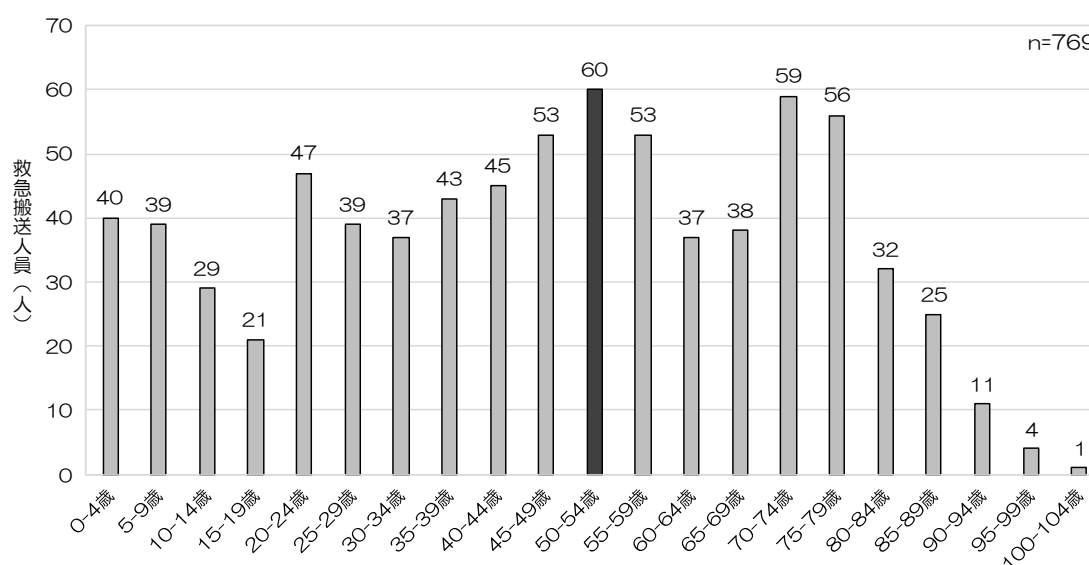


図2-33 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が多く、次いで道路・交通施設が多くなっています（図 2-34）。

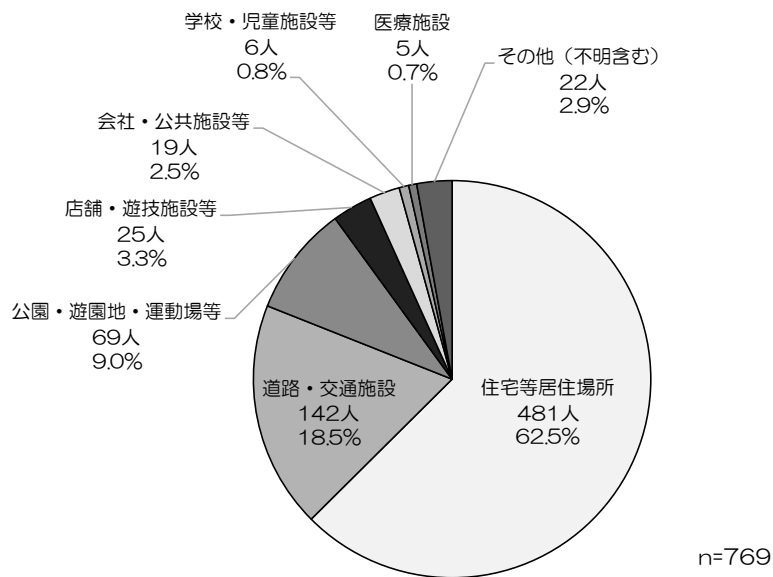


図 2-34 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、軽症が9割以上を占めていますが、中等症以上と診断される事故も発生しています（図 2-35）。

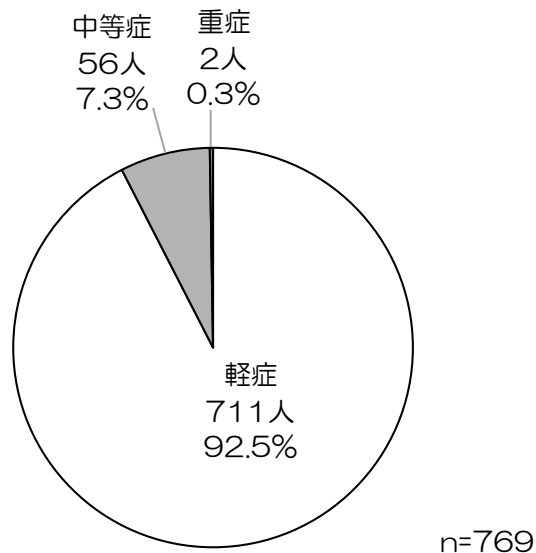


図 2-35 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 刺される】

洗濯物を取り込んでいたところ、服に紛れていた蜂に刺された（50代 中等症）。

9. おぼれる

(1) 年別搬送人員

浴槽や海、河川等での事故で、令和3年中は471人が救急搬送されています（図2-36）。

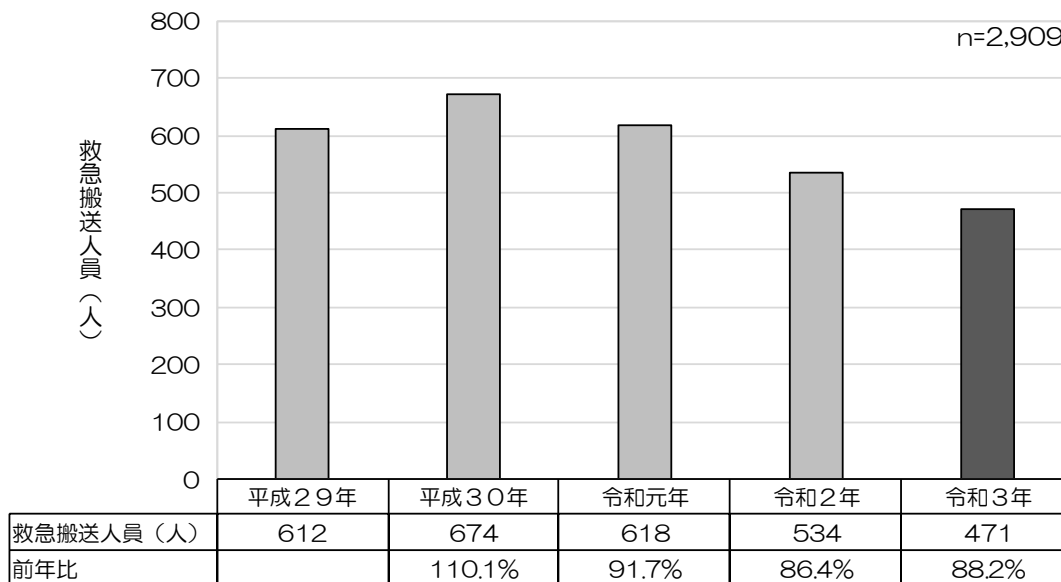


図2-36 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、乳幼児、高齢者に多く発生しています（図2-37）。

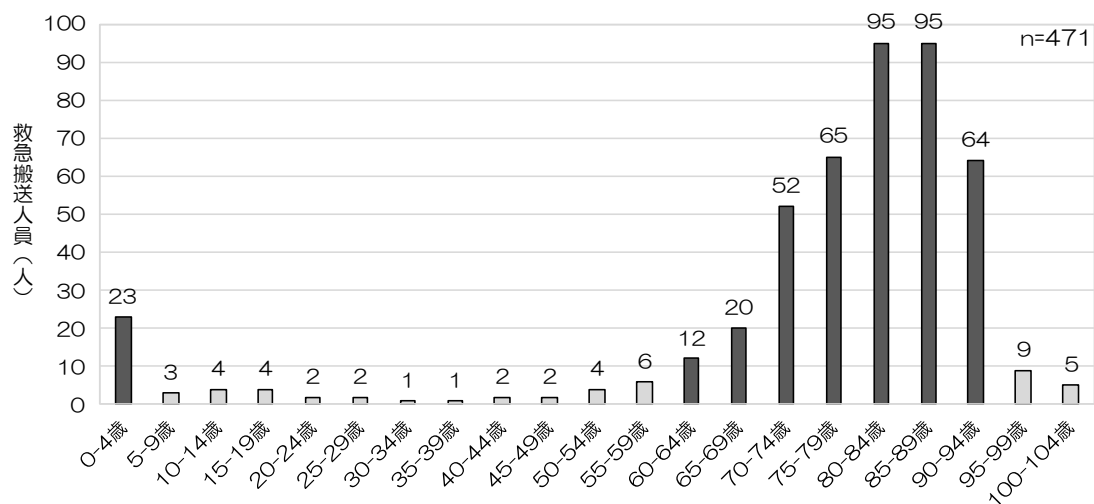


図2-37 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が約9割で最も多くなっています(図2-38)。

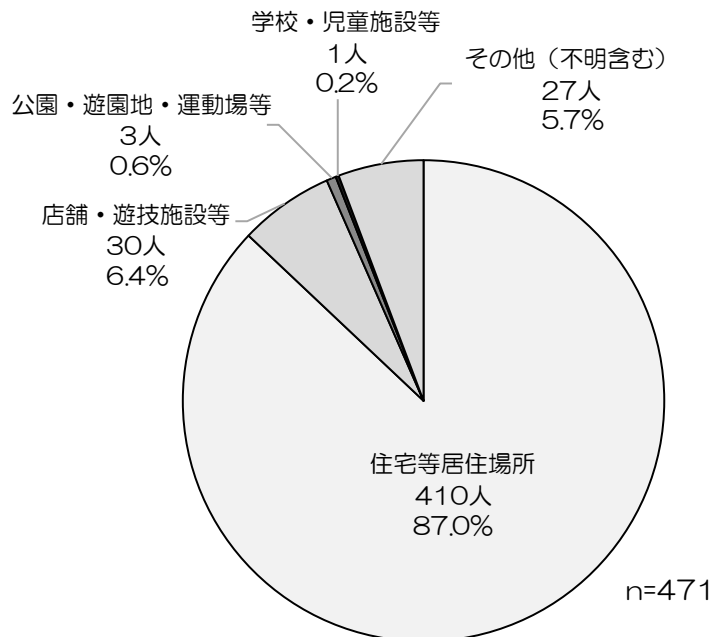


図2-38 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、9割以上が中等症以上と診断されており、さらに約8割が重篤又は死亡と診断されています(図2-39)。

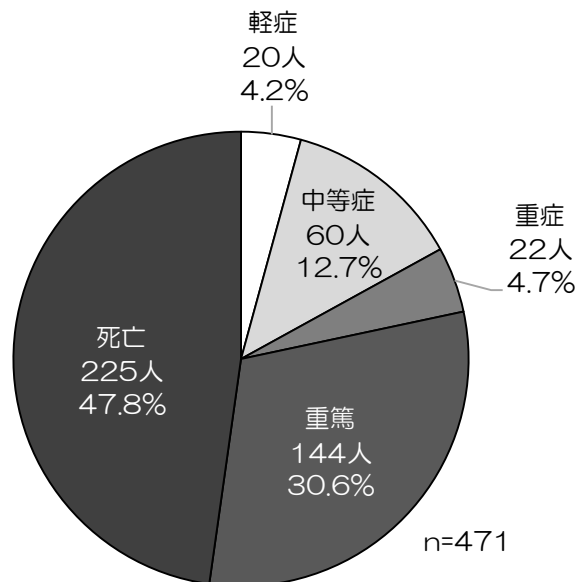


図2-39 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 おぼれる】

なかなか浴室から出てこないため様子を見に行くと、浴槽内で顔を水没させ意識がない状態だった(70代 死亡)。

第3部 年齢から見た事故

ここでは、年齢層別での比較や乳幼児、就学区分、成人、高齢者などの年齢区分ごとに事故の傾向や事故の要因等を取り上げています。

令和3年中の救急搬送人員を年齢層別に見ると、70代が20,000人、80代が30,000人を超え、多く救急搬送されています。

また、若い年代を見ると9歳以下が11,548人と多く救急搬送されています（図3-1）。

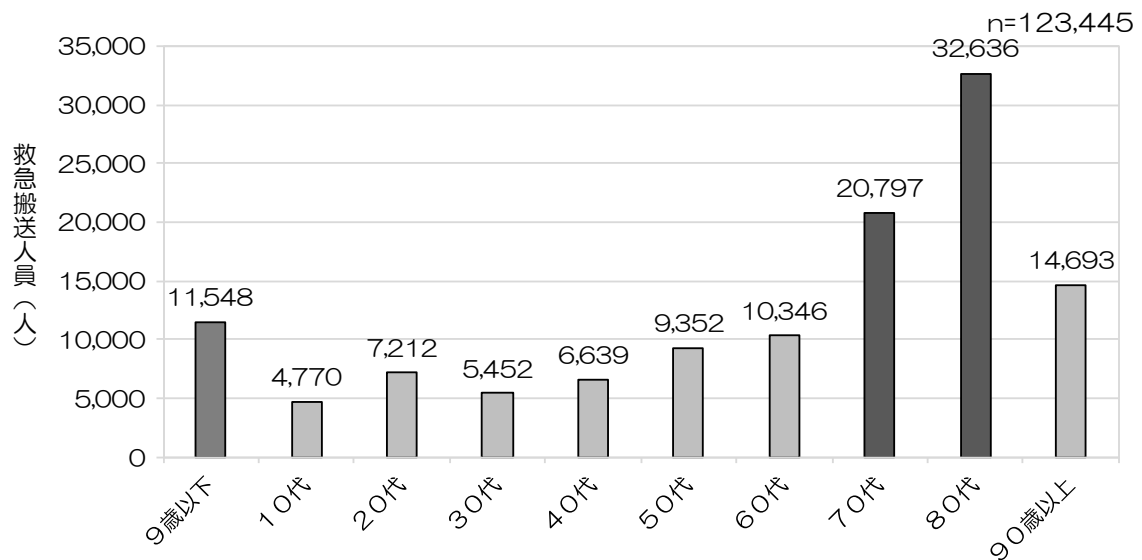


図3-1 年齢層別の救急搬送人員

1. 年齢区分から見た事故

(1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故

① 0歳～5歳

ア 年別搬送人員

0歳から5歳までの乳幼児の事故で、平成29年から令和3年までの5年間に46,124人が救急搬送されています。令和3年は8,936人が救急搬送されています（図3-2）。

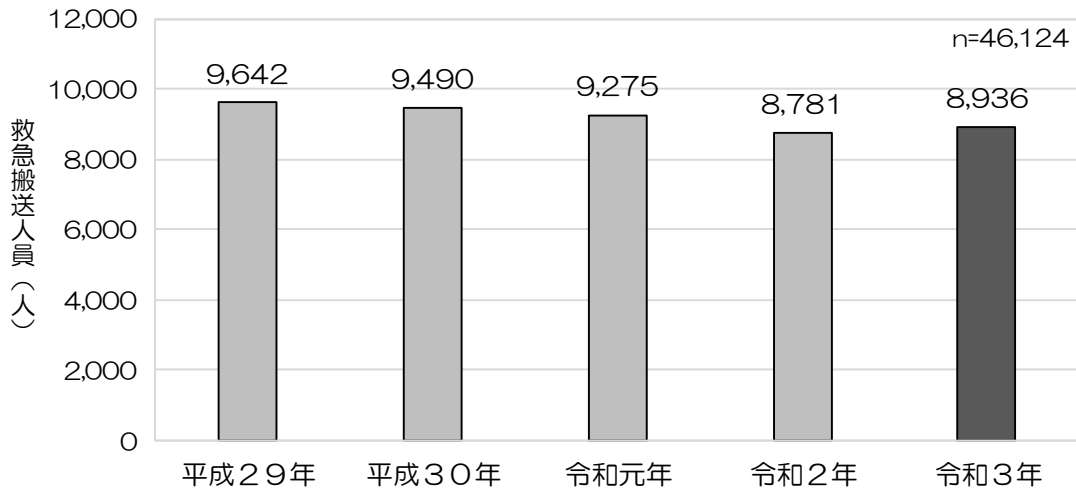


図3-2 年別の救急搬送人員

イ 年齢別搬送人員

年齢別では、1歳児の救急搬送人員が2,076人と最も多く、次いで2歳児が1,819人となっています（図3-3）。

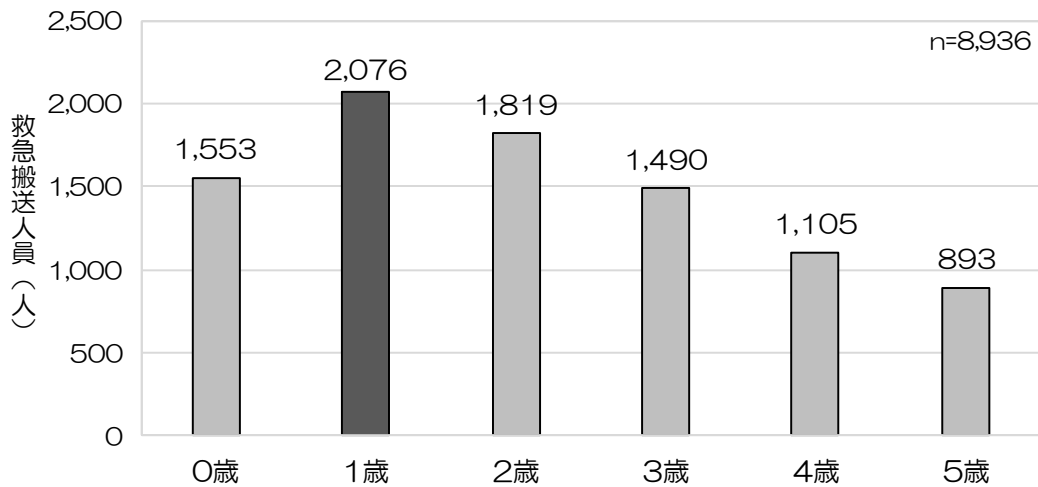


図3-3 年齢別の救急搬送人員

ウ 時間帯別搬送人員

時間帯別では、17時台から20時台までに多く救急搬送されています（図3-4）。

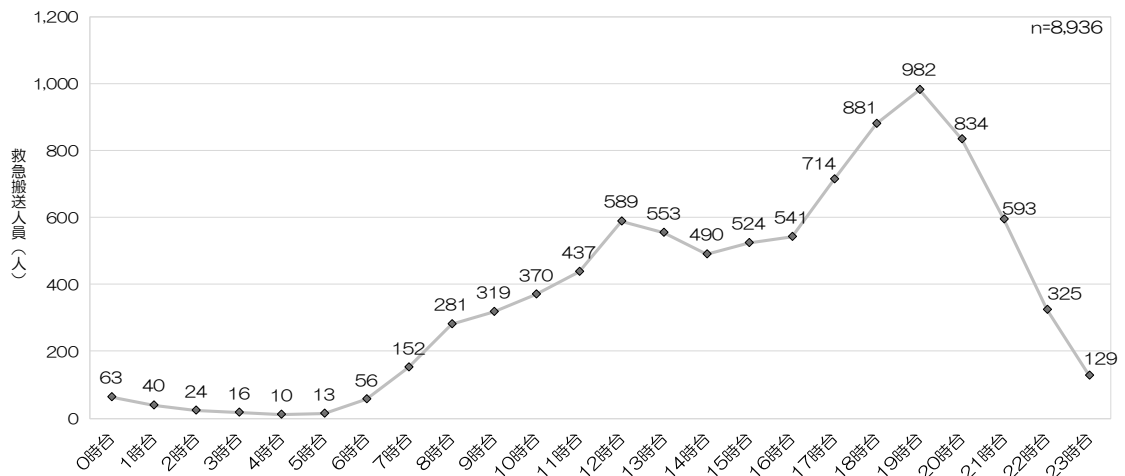


図3-4 時間帯別の救急搬送人員

エ 発生場所別搬送人員

発生場所別では、7割以上が住宅等居住場所となっています（図3-5）。

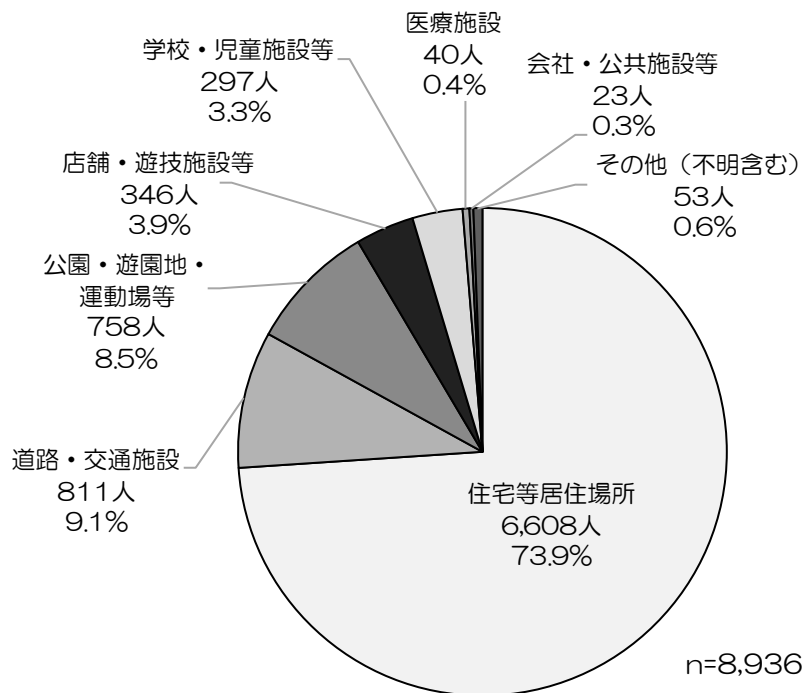
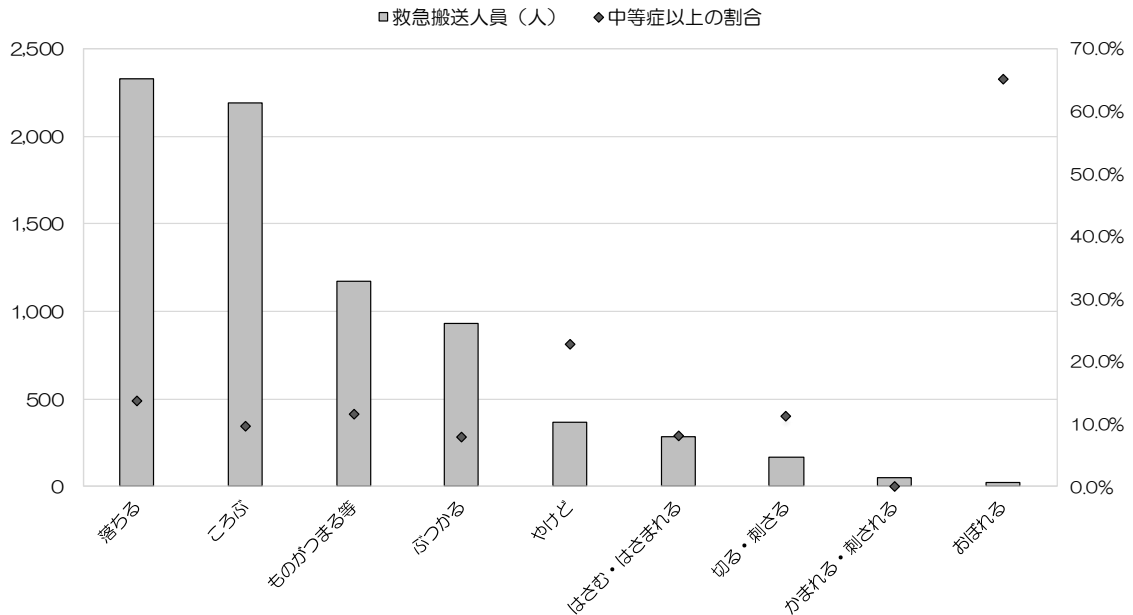


図3-5 発生場所別の救急搬送人員

才 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、乳幼児の事故でもっとも多いのは「落ちる」事故で、2,331人が救急搬送されています。初診時程度で中等症以上の割合が最も高いのは「おぼれる」事故で、約7割と突出して高くなっています。また、「やけど」でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-6）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	2,331人	2,195人	1,174人	930人	369人	281人	169人	49人	23人
中等症以上の割合	13.7%	9.7%	11.6%	8.0%	22.8%	8.2%	11.2%	0.0%	65.2%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-6 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

カ 年齢ごとに見る特徴的な事故の変化

乳幼児は日々成長し、昨日できなかったことが、今日できるようになっているかもしれません。子どもの発達を知り、その時期に起こりやすい事故を知り対策をとることで、重大な事故を防ぐことが出来ます。

0歳

ベッド（148人）や、人（108人）が抱いている状態から「落ちる」事故が多く発生しています。また、包み・袋（93人）、たばこ（57人）、その他の玩具（43人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しており、なんでも口に入れてしまう特徴が見てとれます。

また、味噌汁・スープ（29人）で「やけど」をする事故も発生しています。

1歳

一人歩きを始める頃で、階段（151人）や椅子（79人）などの家具から「落ちる」事故や、その他の家具（31人）や椅子（26人）に起因する「ころぶ」事故が多く発生しています。

そのほかにも、その他の玩具（29人）や野菜・果物（26人）を「誤って飲み込む」事故や、手動ドア（32人）に「はさむ・はさまれる」事故、お茶・コーヒー類（34人）などによる「やけど」の事故など、様々な事故が発生しています。

2歳

階段（126人）や椅子（69人）などに起因する「落ちる」事故が多く発生しており、自転車の補助イス（55人）でも発生しています。「ころぶ」事故では、机・テーブル（57人）などの家具類で多く発生しています。また、「ぶつかる」事故、手動ドア（17人）に「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています。味噌汁・スープ（14人）に起因する「やけど」の事故も発生しており、注意が必要です。

3歳

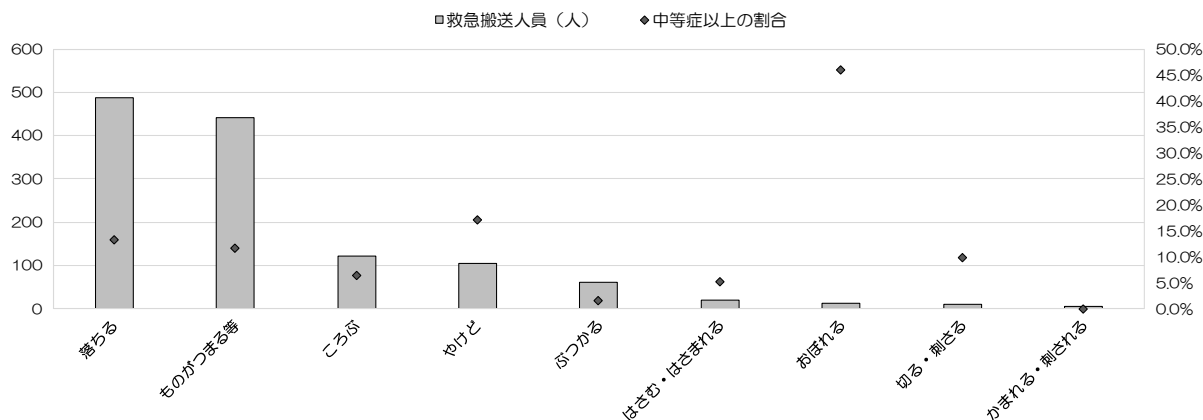
5歳

階段（80人）や机・テーブル（65人）で「ころぶ」事故が多く発生しています。また、2歳児と同じく、階段（127人）や自転車の補助イス（76人）、椅子（74人）から「落ちる」事故も多く発生しています。ビー玉類（39人）などを「誤って飲み込む」事故や、ナイフやハサミ・爪切り（各14人）による「切る・刺さる」事故が発生しており、注意が必要です。

② 0歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

0歳では、「落ちる」事故で487人が救急搬送されています。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が約5割と最も高くなっています（図3-7）。



事故種別	落ちる	ものがつまる等	こぼぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	おぼれる	切る・刺さる	かまれる・刺される
救急搬送人員	487人	441人	122人	105人	61人	19人	13人	10人	4人
中等症以上の割合	13.3%	11.8%	6.6%	17.1%	1.6%	5.3%	46.2%	10.0%	0.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-7 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

0歳では、ベッドから落ちる事故が最も多く、148人が救急搬送されています。「ものがつまる」等の事故ではお菓子の袋やペットボトルのラベルなどの「包み・袋」の誤飲による事故が多く発生しています（表3-1）。

表3-1 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種別	落ちる	ものがつまる等	こぼぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	おぼれる	切る・刺さる	かまれる・刺される
1位	ベッド	148人	包み・袋	ベビーカー	味噌汁・スープ	机・テーブル	手動ドア	浴槽	ナイフ	動物等
	人	108人	たばこ	机・テーブル	ポット・魔法瓶	人	6人	12人	爪切り	4人
2位	人	108人	57人	10人	17人	各7人	ベビーカー	シャワー	各2人	
	階段	55人	その他の玩具	その他の家具	お茶・コーヒー類	その他の家具	3人	1人		
3位	階段	55人	43人	5人	15人	5人	その他の家具		スライサー	
	人	48人	電池	窓・サッシ	熱湯	椅子	2人		食器類	
4位	ソファ	48人	13人	4人	8人	床	自転車		ハンガー 等	
	椅子	41人	異物	段差	種類	各4人	自動車のドア 等			
5位	椅子	41人	12人	3人	7人	各4人	各1人		各1人	
	人	41人	12人	3人	7人	各4人	各1人			

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シール等

※「こぼぶ」におけるその他の家具とは、棚、タンス等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、クローゼット、タンス等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、引き出し、家具の扉

ウ 0歳の事事故事例

【事例1 ソファから転落】

ソファの上に寝かせていたところ、目を離したすきに床に転落した（2か月中等症）。

【事故防止ポイント】

ベッドやソファ、階段などから「落ちる」事故は、0歳児に多く発生しています。昨日までできなかった寝返りが、今日できるかもしれません。目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。また、高い所に寝かせないようにしましょう。

階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

【事例2 ラベルを誤って飲み込む】

娘が苦しそうにしており、確認するとお菓子のビニール袋を一部飲み込んでいた（9か月 中等症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものが子どもの届くところないように、日頃から整理整頓をこころがけましょう。早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。乳幼児は、トイレットペーパーの芯（39mm）を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。

【事例3 入浴中におぼれる】

入浴中に親が目を離していた間に、浴槽に全身が水没していた（6か月 重篤）。

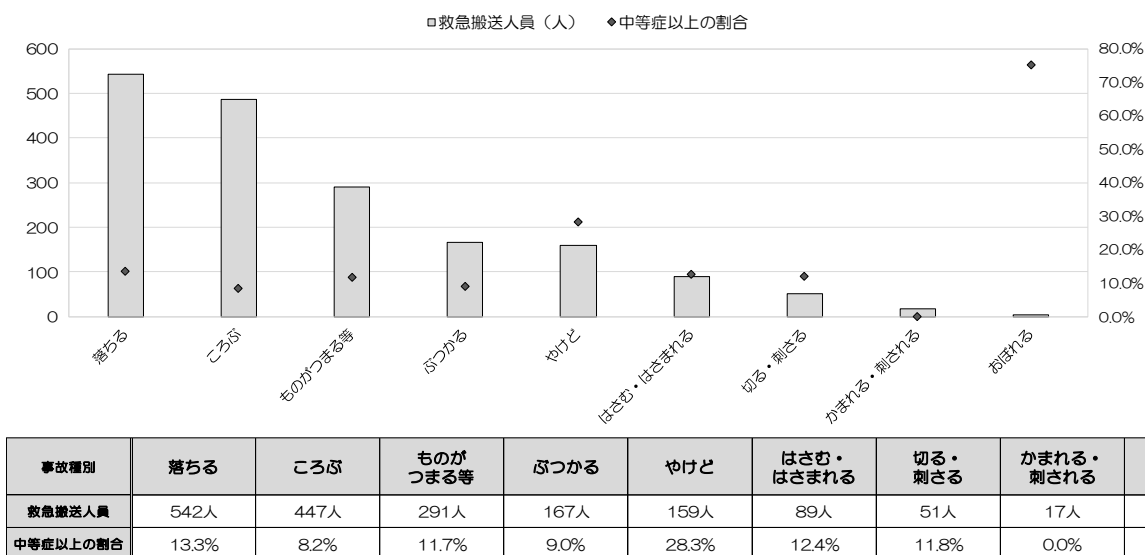
【事故防止ポイント】

おぼれの事故は重症化しやすいため、十分気を付けましょう。また、幼児は水深が浅くてもおぼれる可能性があるため、わずかな時間でも目を離さないようにしましょう。

③ 1歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

1歳では、歩く、走る、といった行動ができるようになる時期なので、0歳に比べ、「落ちる」や「ころぶ」事故が多くなります。「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が最も高く、「やけど」事故でも約3割が中等症以上と診断されています（図3-8）。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-8 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

1歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、手動ドアに「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています（表3-2）。

表3-2 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ころぶ	ものがつまると等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段 151人	その他の家具 31人	その他の玩具 29人	机・テーブル 30人	お茶・コーヒー類 34人	手動ドア 32人	ナイフ 歯ブラシ 各12人	動物等 11人	浴槽 4人
2位	椅子 79人	椅子 26人	野菜・果物 26人	その他の家具 27人	味噌汁・スープ 28人	その他の家具 10人	各12人	虫 6人	
3位	自転車の補助イ ス人	机・テーブル 25人	たばこ 25人	人 10人	ポット・魔法瓶 18人	椅子 7人	ハサミ・爪切り 8人		
4位	各36人	階段 20人	電池 21人	ベッド 壁・天井 等 各8人	熱湯 12人	フェンス・柵・塀 自転車 各6人	耳掻き・綿棒 5人		
5位	ベッド 35人	ベッド、段差 各17人	薬剤等 17人	各8人	カップ麺 11人	各6人	ガラス片、食器類 各3人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ、タンス、鏡等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、クローゼットの扉、鏡等

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具、シール、マグネット等

ウ 1歳の事故事例

【事例1 椅子から落ちる】

食事中に椅子の上に立ち上がり、後方から落下して受傷した（1歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

1歳児は0歳児と比べ、活発に動くようになります。普段から目を離さないよう注意しましょう。また、椅子などに座らせる時は、チェアベルト等を活用し、大きな事故にならないように工夫しましょう。

【事例2 薬の誤飲】

親が普段飲んでいる薬が開封されていることに気づき、子どもを見ると口の周りに薬が付着していた（1歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

医薬品は、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。

医薬品は、薬理作用があるため、保管や管理には細心の注意を払いましょう。

シロップ等、子供が飲みやすいように味付けしてあるものは、冷蔵庫に入れておいても、自ら取り出して飲んでしまうことがあるため、保管・管理には十分注意しましょう。

【事例3 歯ブラシが刺さった事故】

歯ブラシをくわえたまま階段から転落し、歯ブラシが喉に刺さった（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。過去には口腔内に刺さる事例も発生しています。

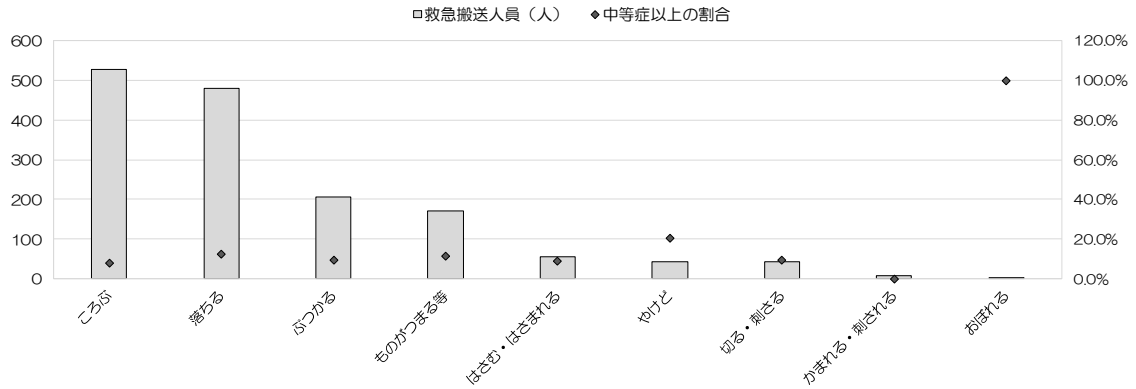
不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきをさせないようにしましょう。

歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多くあるため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。

④ 2歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

2歳では、「ころぶ」事故、「落ちる」事故に次いで、「ぶつかる」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故では10割が中等症以上と診断されています（図3-9）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	527人	480人	205人	172人	55人	44人	42人	8人	3人
中等症以上の割合	8.2%	12.7%	9.8%	11.6%	9.1%	20.5%	9.5%	0.0%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-9 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

2歳では、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、運動機能が発達し、自由に動き回ることができるようになってくるため、家の中を走り回って家具等に「ぶつかる」事故も発生しています（表3-3）。

表3-3 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	机・テーブル 57人	階段 126人	机・テーブル 31人	その他の玩具 16人	手動ドア 17人	味噌汁・スープ 14人	ハサミ・爪切り 10人	動物等 8人	浴槽 3人
2位	階段 32人	椅子 69人	その他の家具 29人	薬剤等 15人	自転車 9人	ポット・魔法瓶 5人	歯ブラシ 9人		
3位	その他の家具 29人	自転車の補助イス 55人	人 17人	ビー玉類 12人	自動車のドア 6人	熱湯 4人	ナイフ 7人		
4位	ベッド 椅子 各23人	滑り台 33人	壁・天井 16人	魚等の骨 洗剤等 各10人	エレベーター 5人	カップ麺 コンセント 鍋 等 各3人	筆記具 3人		
5位		人 26人	ベッド 15人		滑り台、自動ドア等 各2人		フードプロセッサー 2人		

※ 「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、キッチンカウンター等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、引き出し等

※ その他の玩具とは、ブロック型の玩具、シール、マグネット等

ウ 2歳の事事故事例

【事例1 椅子から落ちる事故】

ベランダに置いてあった椅子に上って遊んでいたところ、バランスを崩して転落した（2歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

ベランダや窓の他に、椅子などの家具からの墜落・転落事故も発生しています。高所からの墜落は重症化しやすいため十分注意しましょう。

【事例2 ボタン電池の誤飲】

子どものそばにあった未開封のボタン電池が開封され、中身がなくなっていることに親が気付いた（2歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

子どもが飲み込めそうなものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。

ボタン電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。

【事例3 手動ドアにはさまれる事故】

親が玄関ドアを閉めようとしたところ、指を挟みこんでしまい受傷した（2歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

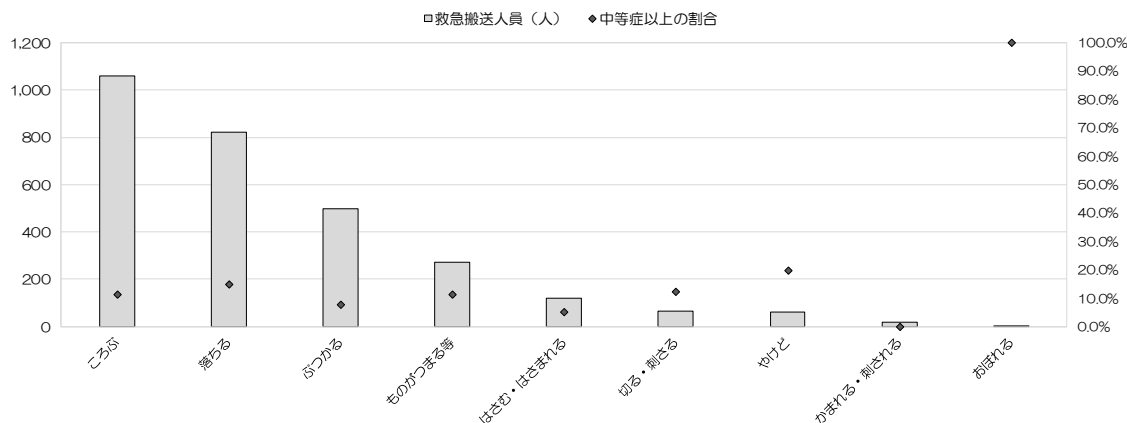
子供の「はさまれ」の原因で一番多いのは「手動ドア」です。子供の手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。指の切断に至ることもあるのでドアの開閉時は、注意しましょう。

ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーすることも事故防止に効果的です。

⑤ 3歳～5歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

3歳から5歳まででは、「ころぶ」事故が最も多くなっています。「おぼれる」事故は全てが中等症以上となっており、「やけど」の事故も、約2割が中等症以上と診断されています（図3-10）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,059人	822人	497人	270人	118人	66人	61人	20人	3人
中等症以上の割合	11.4%	14.8%	7.6%	11.1%	5.1%	12.1%	19.7%	0.0%	100.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-10 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

3歳から5歳まででは、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、階段で「ころぶ」事故も多く発生しています（表3-4）。

表3-4 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段 80人	階段 127人	人 72人	ビー玉類 39人	手動ドア 46人	ナイフ ハサミ・爪切り 13人	味噌汁・スープ 13人	動物等 13人	浴槽 3人
2位	机・テーブル 65人	自転車の補助イス 76人	机・テーブル 58人	その他の玩具 29人	自転車 13人	各14人	カップ麺 8人	虫 7人	
3位	その他の家具 51人	椅子 74人	その他の家具 56人	アメ玉類 28人	自転車の補助イス 12人	食器類 9人	麺類 7人		
4位	椅子 49人	滑り台 66人	壁・天井 30人	魚等の骨 21人	鉄道車両の戸袋 7人	歯ブラシ 8人	お茶・コーヒー類 6人		
5位	自転車 31人	人 43人	柱 23人	菓子 19人	自動ドア、自動車のドア 各5人	耳掻き・綿棒 4人	ポット・魔法瓶 5人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、洗面台、キッチンカウンター等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、メダル等

ウ 3歳～5歳の事故事例

【事例1 ころぶ事故】

キックボードで遊んでいたところ、バランスを崩して転倒し、受傷した（5歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

3歳になると運動能力も高くなり行動範囲が広がっています。危険や安全の判断がまだ十分にできていませんので、危険な行動は繰り返し教えてあげましょう。

【事例2 遊具からの墜落・転落】

公園のジャングルジムで遊んでいて、約1.5m下の地面に落ちて受傷した（3歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

墜落事故は重大事故につながる可能性が高い事故の一つです。
遊具からの転落事故の他、窓やベランダに置いてあったイスや室外機にのぼり、誤って墜落する事故も発生しています。
ベランダや窓の近くには子供がのぼれるものを置かないようにしましょう。

【事例3 カップ麺によるやけど】

机の上に置いてあったカップ麺を引き寄せようとして倒してしまい、大腿部にスープがかかり受傷した（3歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

やけどの恐れのあるものは、子供の手の届くところに置かないようにしましょう。
テーブル上に置かれた熱いものが入った容器を乳幼児が引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。テーブルの隅など、乳幼児の手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。

(2) 6歳～12歳（小学生）の事故

ア 年別搬送人員

小学生の年代では、令和3年中に4,091人が救急搬送されています（図3-11）。

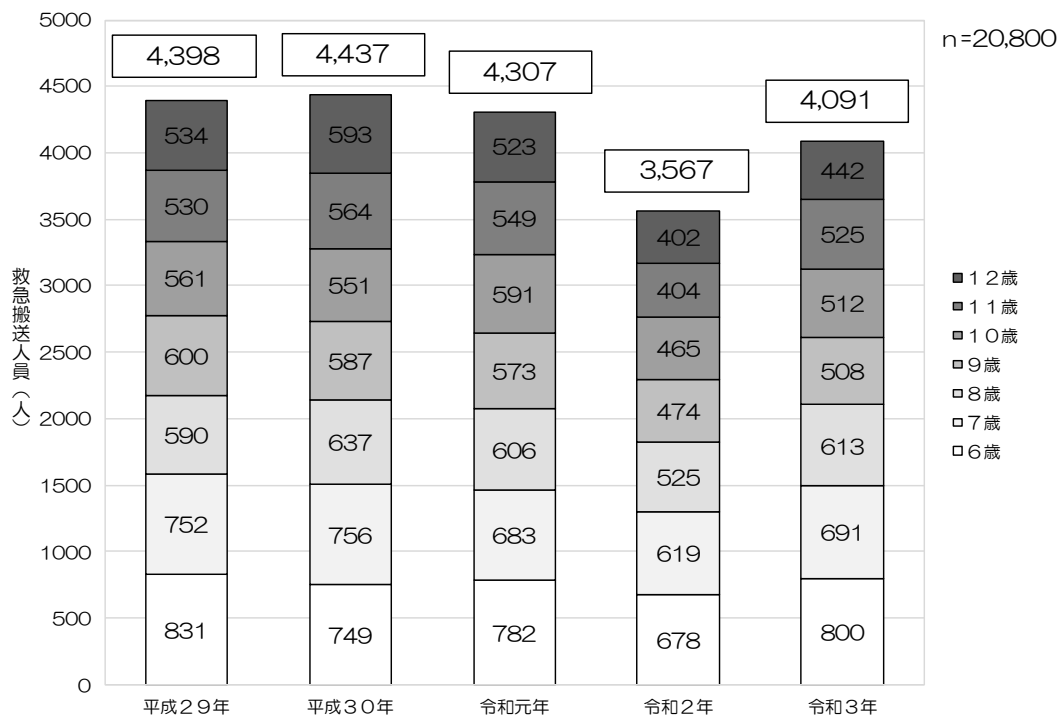


図3-11 年別の救急搬送人員（6歳～12歳）

イ 月別搬送人員

月別では、4月から7月まで及び11月に多く搬送されています（図3-12）。

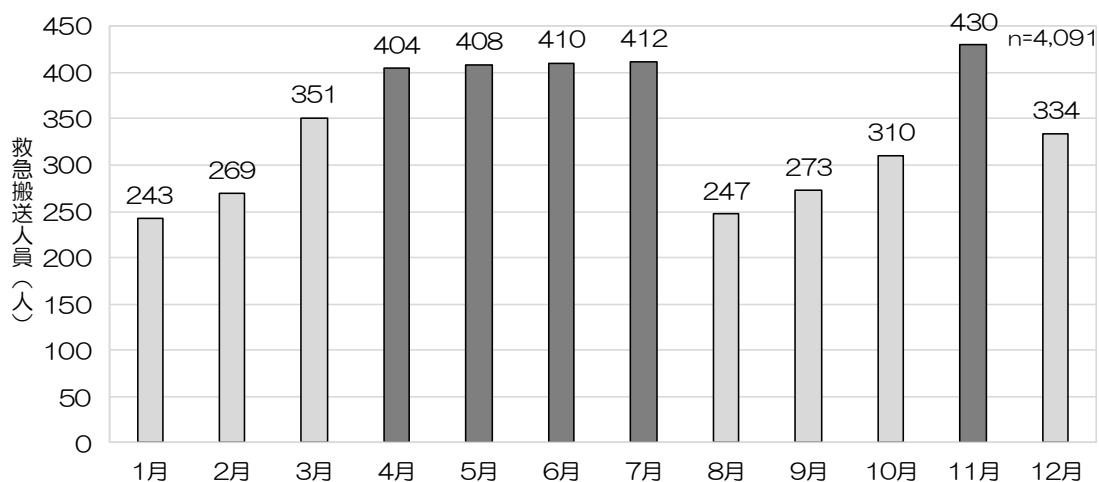


図3-12 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所のほかに公園・遊園地・運動場等が多くなっています。また、学校・児童施設等での事故も多く発生しています（図3-13）。

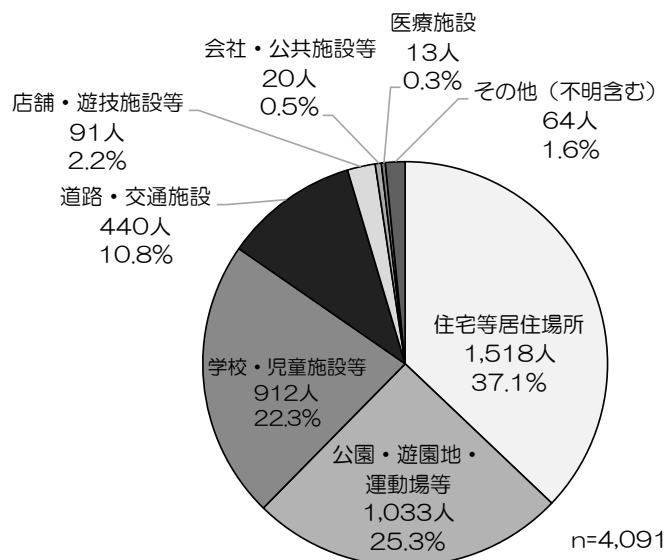
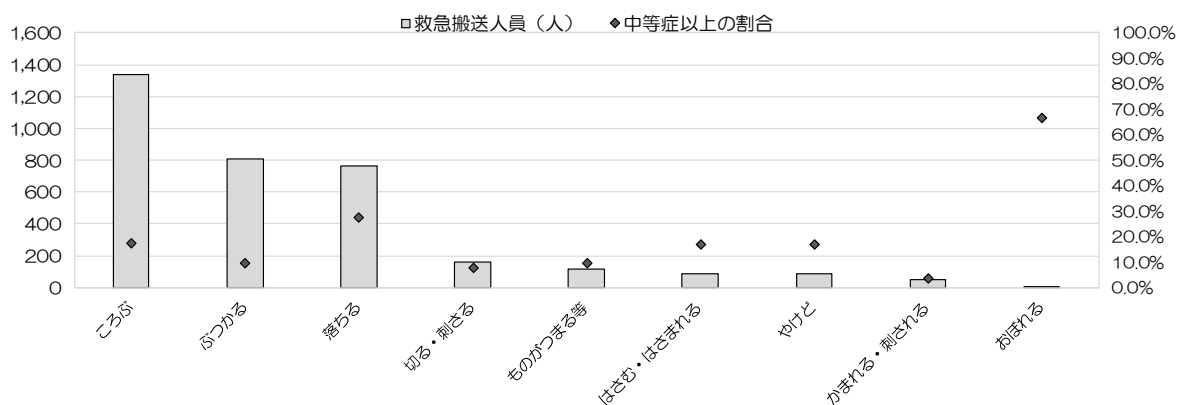


図3-13 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

6歳から12歳まででは、「ころぶ」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故では約7割が中等症以上となっています。また、「落ちる」事故は約3割が中等症以上となっています（図3-14）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	ものがつままる等	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,340人	807人	762人	160人	117人	89人	88人	53人	6人
中等症以上の割合	17.2%	9.8%	27.4%	7.5%	9.4%	16.9%	17.0%	3.8%	66.7%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-14 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

6歳から12歳まででは、スケートボードで「ころぶ」事故が多く発生しています。子ども同士で「ぶつかる」事故も多く発生しています（表3-5）。

表3-5 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	スケートボード 61人	人 189人	階段 97人	ナイフ 38人	魚等の骨 11人	自転車 21人	味噌汁・スープ 19人	虫 31人	河川 5人
2位	階段 59人	ボール 67人	雲梯 71人	針・ヘアピン・釘等 16人	ビー玉類 9人	椅子 植物 各4人	カップ種 熱湯 各14人	動物等 21人	浴槽 1人
3位	段差 35人	その他の家具 41人	滑り台 59人	ミシン（ミシン針含む） 11人	その他の玩具 菓子 各8人	自動車のドア 滑り台 等 各3人	鍋 6人		
4位	フェンス・壁・塀 33人	壁・天井 39人	フェンス・壁・塀 53人	手動ドア 食器類 各10人	アメ玉類 7人	天ぷら油 5人			
5位	机・テーブル 32人	柱 29人	鉄棒 45人						

※その他の家具とは、棚、タンス、ロッカー等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、コイン等

カ 6歳～12歳の事故事例

【事例1 高所から落ちる】

遊んでいて陸屋根のガラス面に乗ったところ、ガラスが割れて地面に墜落し、受傷した（12歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

高所からの墜落は、生命に危険を及ぼす重大な事故となることから、保護者等は、危険性を子どもに教え、理解させましょう。

小学生の年代は、運動能力の発達に加え、身長、体重、運動量、俊敏性、冒険心の増大が事故につながっていると考えられます。危険が予測される行動も多く見られることから、安全教育による事故防止も不可欠です。



(3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故

ア 年別搬送人員

令和3年中は、2,685人が救急搬送されています（図3-15）。

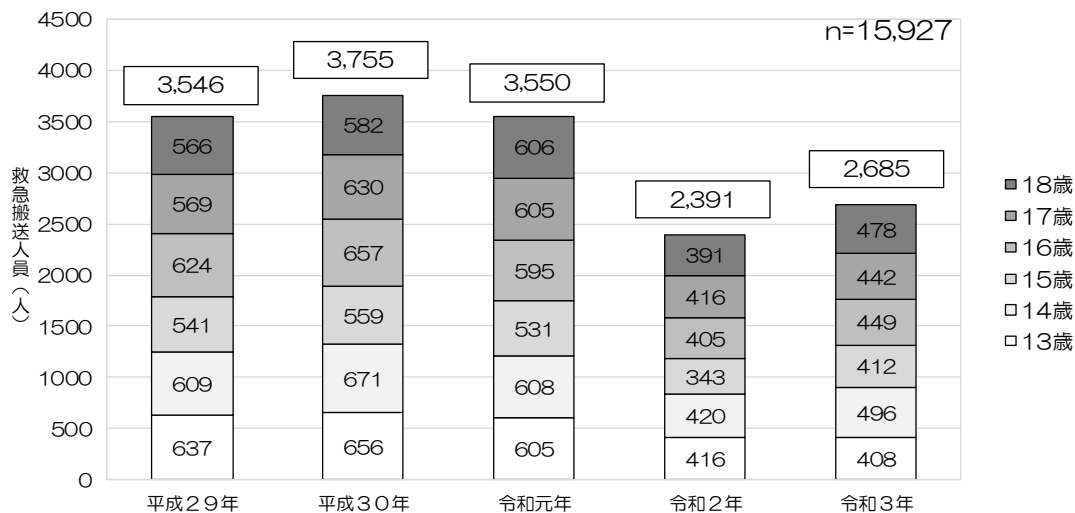


図3-15 年別の救急搬送人員（13歳～18歳）

イ 月別搬送人員

月別に見ると、7月が最も多く搬送されています（図3-16）。

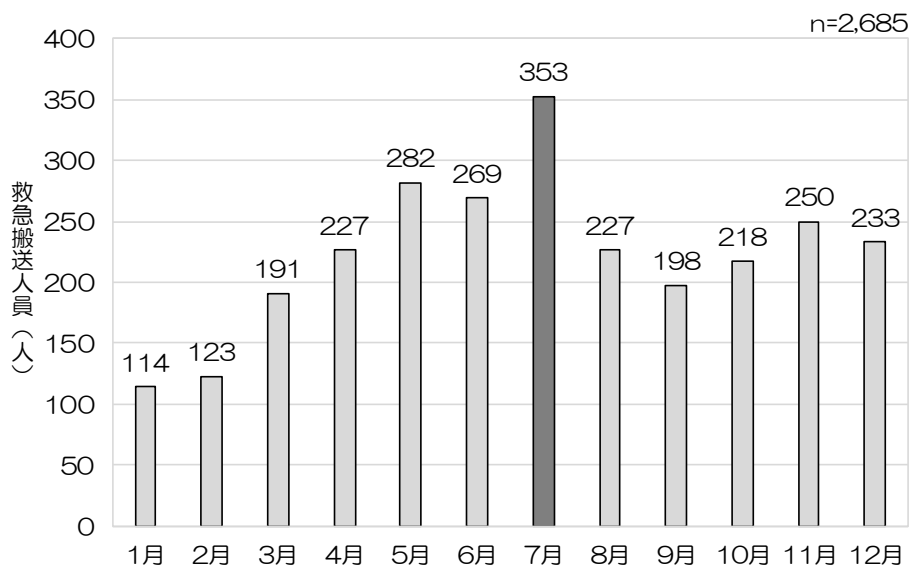


図3-16 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

学校・児童施設等が最も多く、次いで住宅等居住場所が多くなっています（図3-17）。

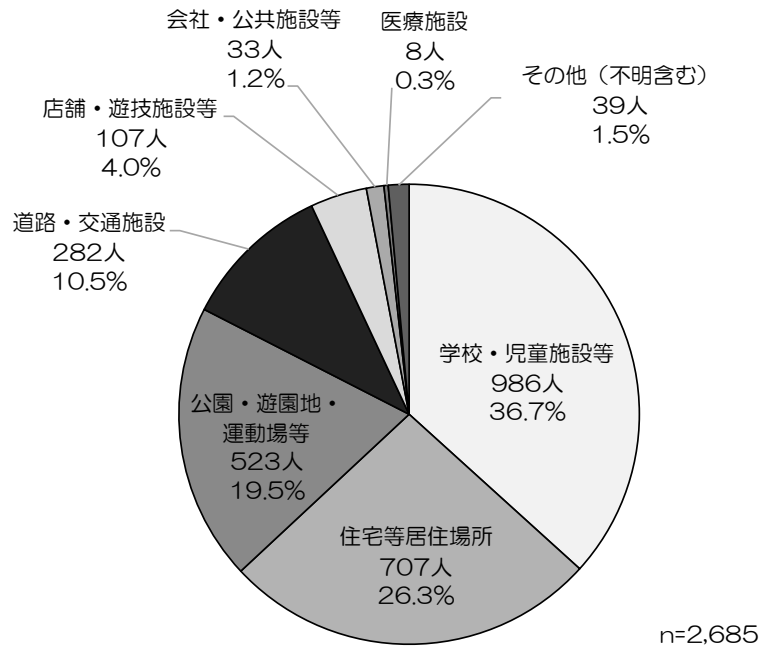
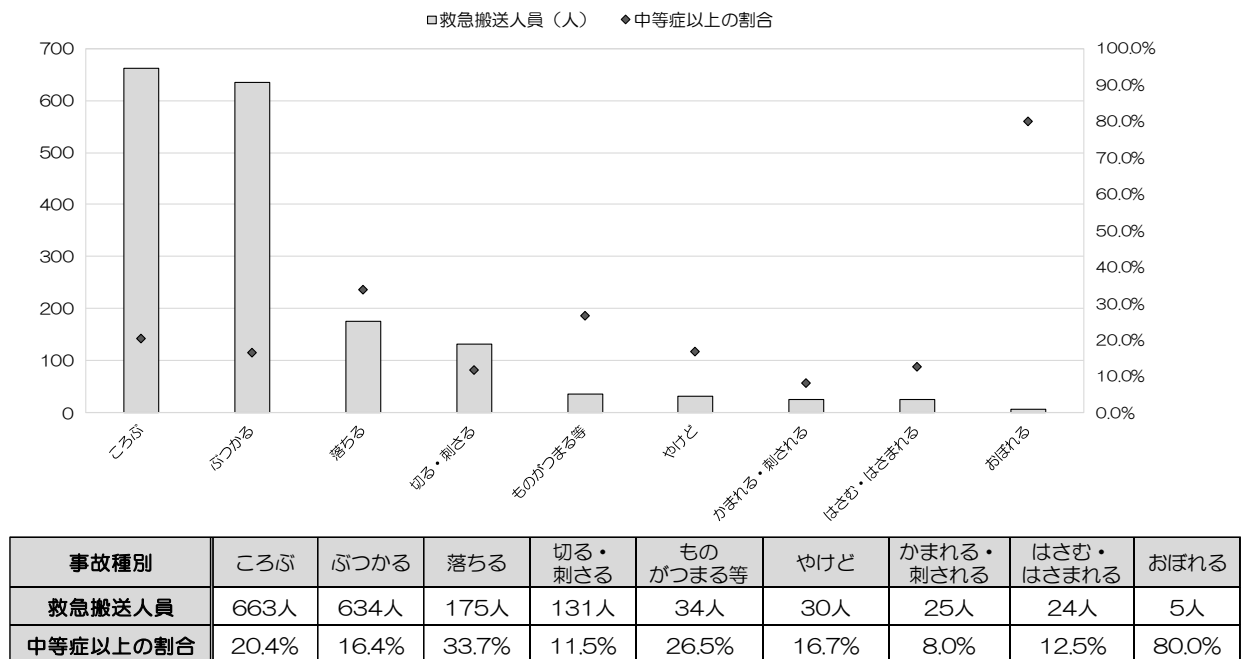


図3-17 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

13歳から18歳まででは、事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が最も多くなっています（図3-18）。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-18 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

13歳から18歳まででは、人と「ぶつかる」事故が多く発生しています。また、スポーツでボールにぶつかる等の事故が多くなっています（表3-6）。

表3-6 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	はさむ・はさまれる	おぼれる
1位	スケートボード	人	階段	ナイフ	洗剤等	天ぷら油鍋	虫	河川		
	35人	227人	73人	50人	5人	17人	4人			
2位	階段	ボール	動物等	食器類	魚等の骨包み・袋	各5人	動物等	各4人	浴槽	
	32人	180人	5人	14人		8人	1人			
3位	段差 壁・天井	壁・天井	エスカレーター 屋根	手動ドア	各3人	カップ種 味噌汁・スープ	自転車			
	23人			10人			3人			
4位	各7人	バット	各4人	窓・サッシ	薬剤等 肉 食物	各3人	自動車			
	18人			5人			2人			
5位	スケート類 等	手動ドア	ベッド、橋 等	針・ヘアピン・ 釘等	各2人	熱湯 等	ぶらんこ 等			
	各6人	16人	各3人	4人		各2人	各1人			

カ 13歳～18歳の事故事例

【事例1 人とぶつかる】

サッカーの試合中に、対戦相手と接触して転倒し受傷した（14歳 中等症）。

【事例2 跳び箱から落ちる】

体育の授業中に跳び箱を飛んだところ、勢いが強く顔からマットに着地してしまい受傷した（14歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

中学生、高校生の年代では、運動中の事故が多く発生しています。

ウォーミングアップやストレッチは入念に行い、けがの予防に努めましょう。

指導者や保護者等は、普段の練習や競技の前には事故防止の注意喚起を行うとともに、不測の事態に備え、応急手当、AED（自動体外式除細動器）の使用方法を身につけましょう。

(4) 19歳～64歳の事故

ア 年別搬送人員

19歳から64歳まででは、令和3年中に34,123人が救急搬送されています（図3-19）。

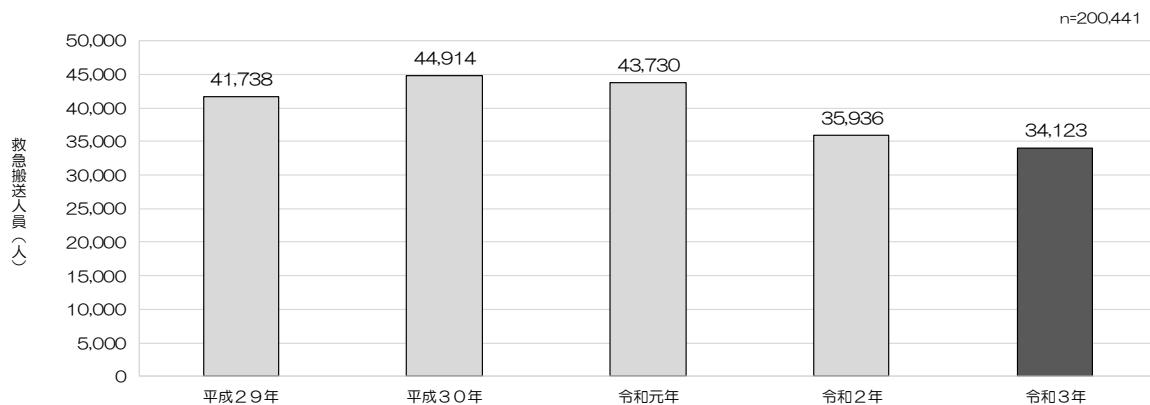


図3-19 年別の救急搬送人員

イ 月別搬送人員

令和3年を月別に見ると、12月に最も多く搬送され、次いで7月が多くなっています（図3-20）。

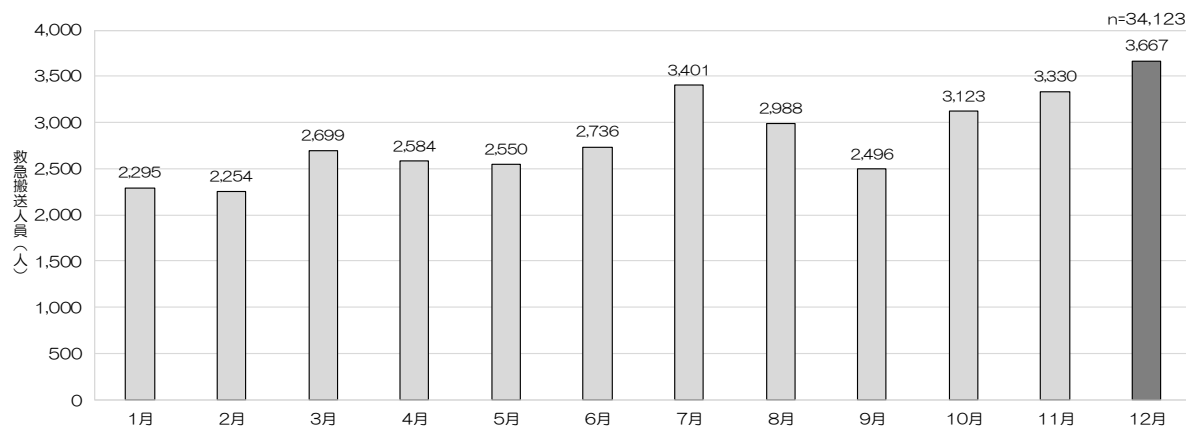


図3-20 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所、道路・交通施設での事故が多く発生しています（図 3-21）。

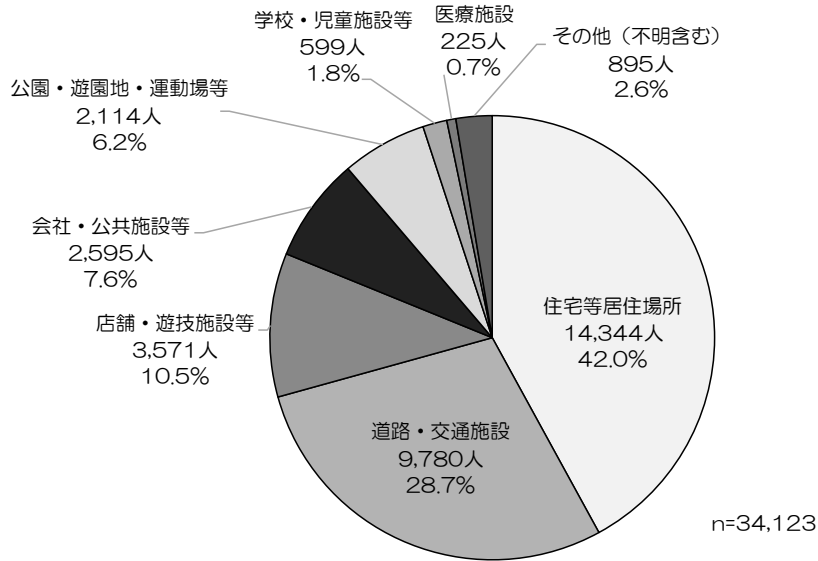
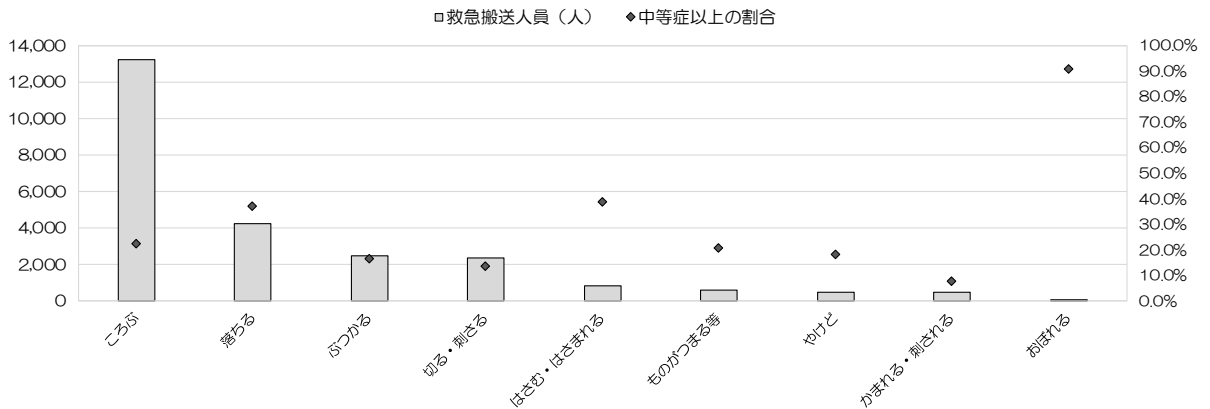


図 3-21 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が最も多く発生しています。また、「おぼれる」事故は中等症以上の割合が最も高く、「落ちる」事故、「はさむ・はさまれる」事故の約4割が中等症以上となっています（図 3-22）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつままる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	13,213人	4,226人	2,475人	2,315人	774人	574人	448人	416人	32人
中等症以上の割合	22.1%	37.0%	16.4%	13.1%	38.6%	20.6%	17.9%	7.5%	90.6%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-22 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

19歳から64歳まででは、「ころぶ」事故、「落ちる」事故ともに「階段」での事故が最も多く発生しています（表3-7）。

表3-7 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段 1,165人	階段 2,158人	人 399人	ナイフ 868人	自動車 68人	洗剤等 73人	鍋 65人	動物等 226人	浴槽 24人
2位	段差 490人	脚立・踏み台・足場 306人	ボール 144人	食器類 246人	手動ドア 67人	肉 57人	天ぷら油 61人	虫 177人	河川 5人
3位	自転車 332人	自動車 146人	その他の家具 137人	スライサー 118人	その他の機械 65人	包み・袋 44人	熱湯 46人	魚貝類 7人	海 2人
4位	椅子 186人	椅子 126人	壁・天井 133人	電気のかざり 112人	フォークリフト 40人	食物 43人	ポット・魔法瓶 44人	人 5人	船 1人
5位	エスカレーター 174人	ベッド 124人	手動ドア 113人	針・ヘアピン・釘等 60人	プレス機 34人	薬剤等 29人	味噌汁・スープ 24人	不明 1人	

※その他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※その他の機械とは、ミンチ機、ローラー、梱包機等

カ 19歳～64歳の事事例

【事例1 ホームから落ちる】

飲酒後、駅のホーム上を歩行していた際に、軌道敷に墜落し頭部を受傷した（40代 中等症）。

【事故防止ポイント】

飲酒後や歩きスマホにより、駅のホームから墜落する事故が多く発生しています。ホームの線路側を歩かないようにし墜落防止をしましょう。

【事例2 機械に指をはさむ】

印刷機を作動させようとしたところ、手順を誤り、機械内のバーに腕を挟まれ受傷した（30代 中等症）。

【事故防止ポイント】

機械によるはさむ・はさまれる事故は重症化しやすいことを認識しましょう。
機械を稼働させたまま詰まりを除去しようとして受傷する事故も発生しています。
機械の点検、掃除、修理をする場合には、機械の電源を切り、コンセントを抜くなど、誤って電源が入ることがないことを確認してから作業しましょう。

(5) 65歳以上（高齢者）の事故

① 65歳以上（高齢者）

ア 年別搬送人員

高齢者の事故は高止まりしています。令和3年中に73,610人が救急搬送されています（図3-23）。

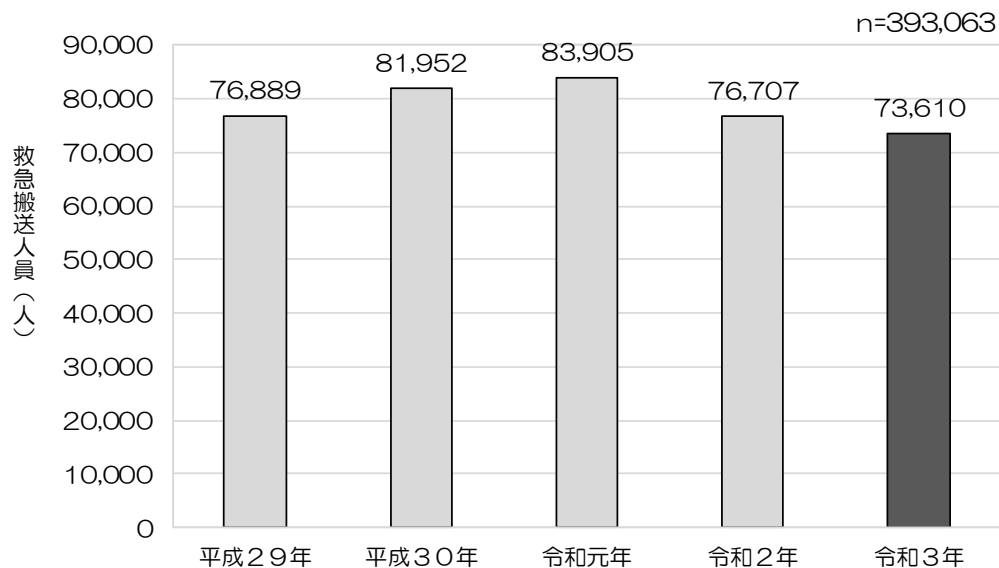


図3-23 年別の救急搬送人員

イ 初診時程度別搬送人員

高齢者は、入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、4割以上となっています（図3-24）。

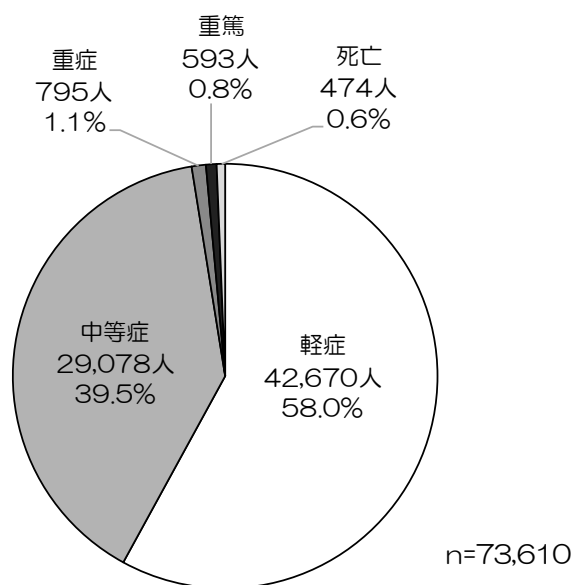


図3-24 初診時程度別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を超え、道路・交通施設での事故と合わせると9割以上を占めています（図3-25）。

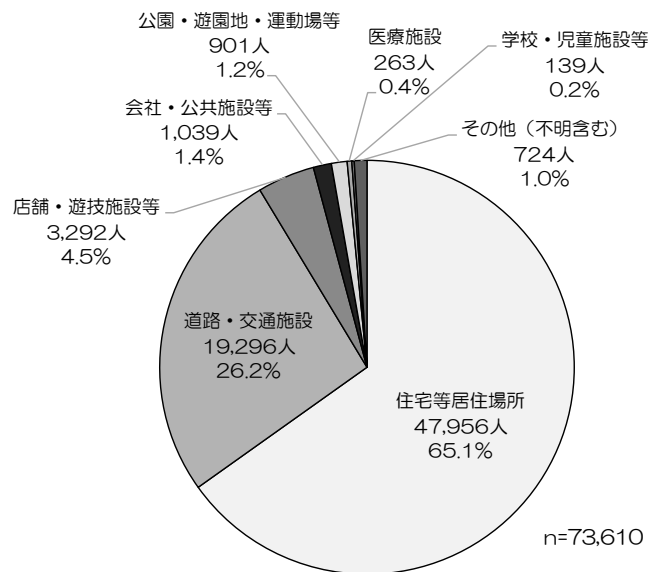
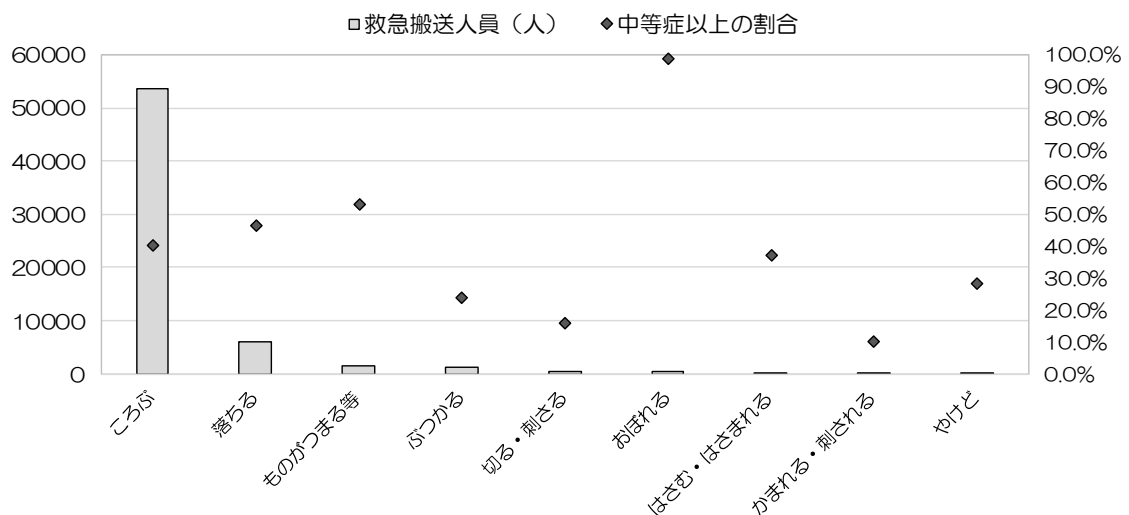


図3-25 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

65歳以上では、「おぼれる」事故は、98.5%が中等症以上と最も高く、「ものがつまる等」の事故は5割以上、「ころび」事故、「落ちる」事故は4割以上が中等症以上となっており、高齢者は他の年代と比べ、重症化しやすくなっています（図3-26）。



事故種別	ころび	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	切る・刺さる	おぼれる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど
救急搬送人員	53,675	6,127	1,632	1,280	505	405	279	226	194
中等症以上の割合	40.0%	46.5%	52.9%	23.7%	15.8%	98.5%	37.3%	10.2%	28.4%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-26 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

65歳以上では、「ころぶ」事故が段差や階段で多く発生しています。また、「落ちる」事故は、階段、ベッド、椅子が多くなっており、「おぼれる」事故は、そのほとんどが浴槽で発生しています（表3-8）。

表3-8 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ものが つまる等	ぶつかる	切る・ 刺さる	おぼれる	はさむ・ はさまれる	かまれる・ 刺される	やけど
1位	段差	階段	食物	人	ナイフ	浴槽	手動ドア	虫	熱湯
	2,478人	2,840人	340人	204人	143人	393人	43人	117人	27人
2位	階段	ベッド	包み・袋	その他の家具	電気のごぎり	船	ベッド	動物等	ヤカン
	1,656人	1,095人	103人	94人	58人	3人	27人	109人	23人
3位	椅子	椅子	野菜・果物	手動ドア 壁・天井	食器類	プール 河川	プレス機		鍋
	608人	414人	98人		29人		19人		18人
4位	自転車	脚立・踏み台・足場	おかゆ類	各85人	ハサミ・爪切り	各1人	その他の家具		ポット・魔法瓶
	572人	367人	97人		25人		15人		15人
5位	エスカレーター	エスカレーター	肉	柱	スライサー		自動車のドア		味噌汁・スープ
	525人	153人	91人	73人	22人		12人		14人

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、棚、タンス、ロッカー等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、棚、タンス、ワイヤーラック等

カ 65歳以上（高齢者）の事故事例

【事例1 餅を詰まらせる】

自宅で団子を食べていた際に、喉に詰まらせ意識がなくなった（80代 重篤）。

【事故防止ポイント】

高齢者の「ものがつまる等」の事故は5割以上が中等症以上と診断されています。

食べ物は小さく切ってよく噛んで食べましょう。



【事例2 包みの誤飲】

テレビを見ながら薬を飲もうとしたところ、誤って薬のパッケージごと飲んでしまった（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者が薬を服用する際は、パッケージを飲み込まないように、適時様子を見るなど注意を払いましょう。

【事例3 ころぶ事故】

床に敷いていたカーペットで足を滑らせて転倒し、大腿部を受傷した（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者のころぶ事故の4割が中等症以上と診断されています。

自宅内では整理整頓を心がけ、家具や敷物による転倒を防止しましょう。

【事例4 脚立から落ちる】

脚立に上り植木の剪定作業中に、バランスを崩して転落し受傷した（60代 中等症）。

【事故防止ポイント】

脚立や踏み台に上がって作業や清掃をしていて転落する事故が多く発生しています。

- 脚立の天板の上、脚立・はしごの上に乗って作業しないようにしましょう。
- 安定した足場を選び、バランスを崩さないようにしましょう。
- 使用時は補助者に支えてもらいましょう。
- 年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えましょう。

事業者の場合、法令では、2m以上の高所作業については、墜落等の危険を防止する措置（墜落制止用器具等の使用）をとることが事業者には義務付けられ、労働者も指示に従う義務があります。



② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）

ア 年別搬送人員

令和3年はどちらも減少しています（図3-27、図3-28）。

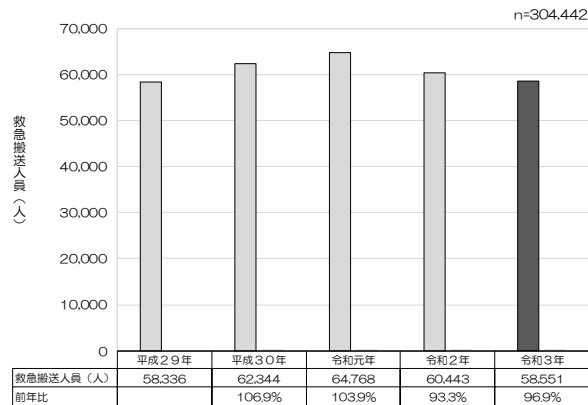
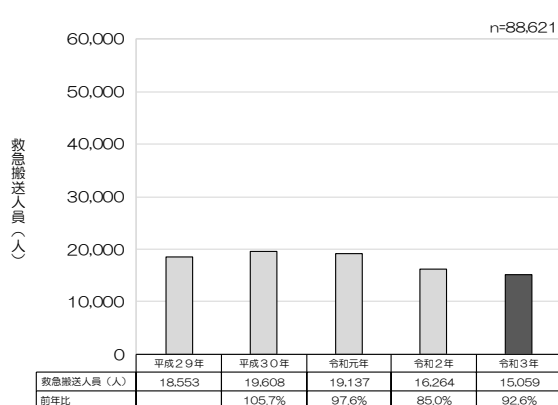


図3-27 年別の救急搬送人員（前期高齢者）

図3-28 年別の救急搬送人員（後期高齢者）

イ 初診時程度別搬送人員

初診時程度別に見ると、前期高齢者では中等症以上の割合が約3割ですが、後期高齢者になると、さらに増加して4割以上を占めています（図3-29、図3-30）。

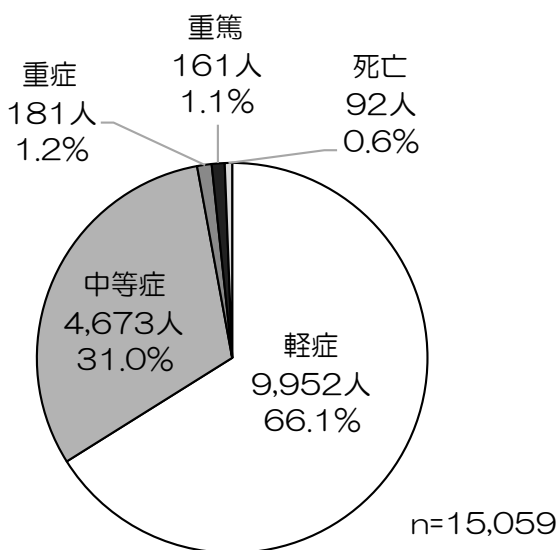


図3-29 初診時程度別（前期高齢者）

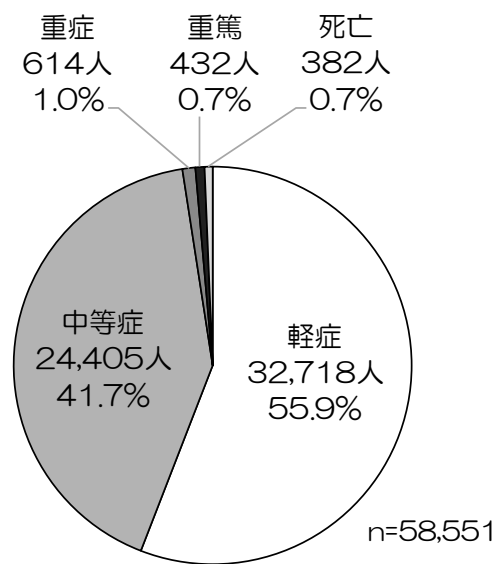


図3-30 初診時程度別（後期高齢者）

イ 発生場所別搬送人員

前期高齢者では住宅等居住場所での事故が最も多く約5割を占めています。次いで多いのが道路・交通施設で3割以上を占めています。一方で、後期高齢者になると住宅等居住場所での割合が増加し、約7割を占めています（図3-31、図3-32）。

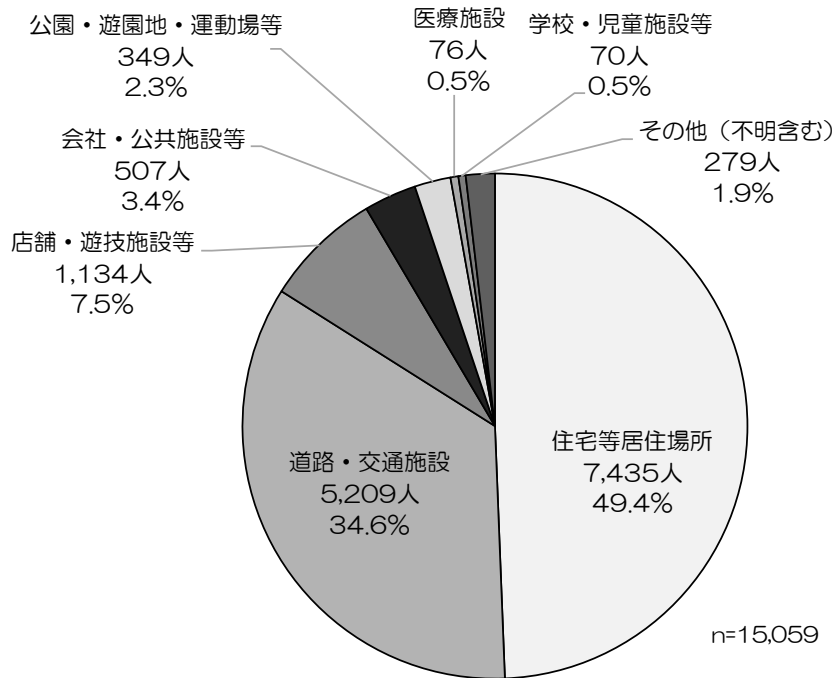


図3-31 発生場所別の救急搬送人員（前期高齢者）

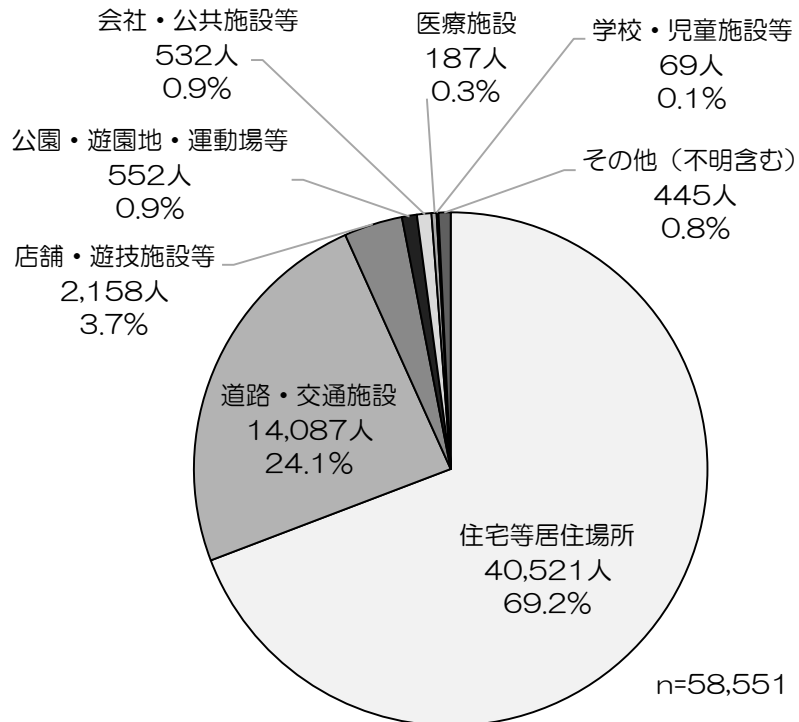
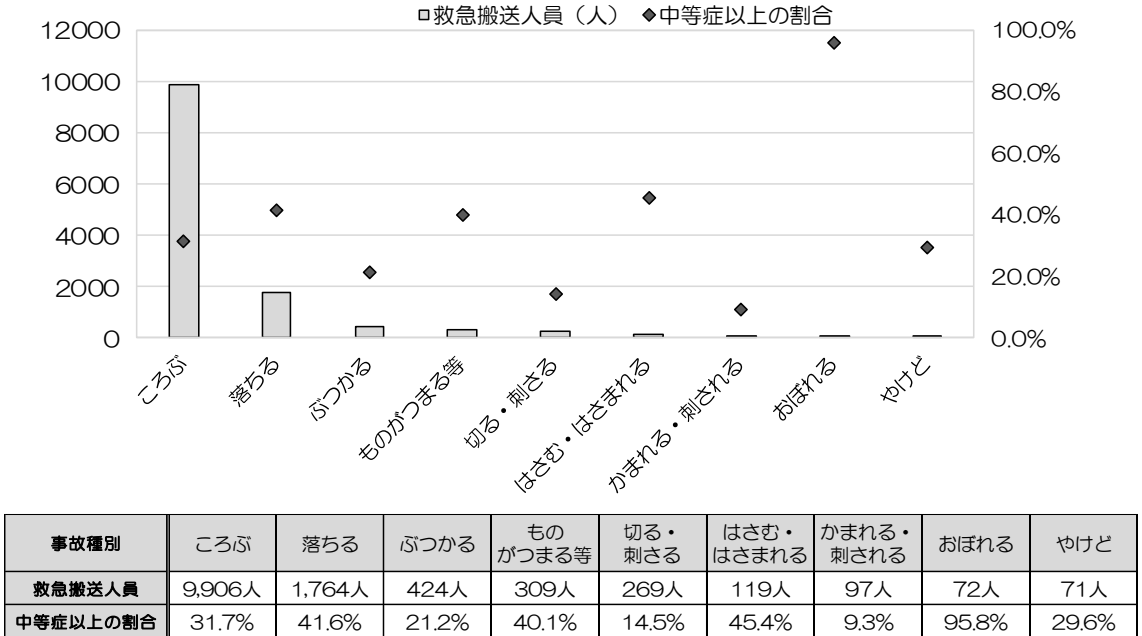


図3-32 発生場所別の救急搬送人員（後期高齢者）

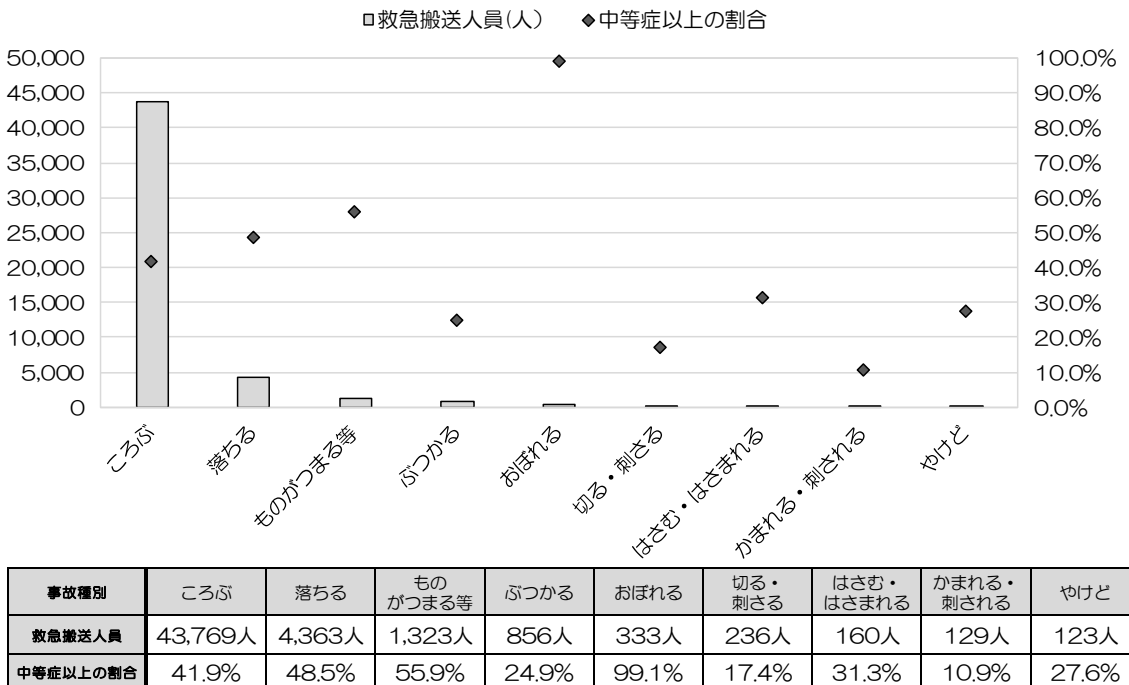
ウ 事故種別ごとの搬送人員

ほぼ全ての事故種別で、前期高齢者に比べて後期高齢者の方が中等症以上の割合が多く、重症化しやくなっています（図3-33、図3-34）。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-33 事故種別ごとの救急搬送人員（前期高齢者）



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-34 事故種別ごとの救急搬送人員（後期高齢者）

2. 年齢層別での比較

(1) 年別搬送人員での比較

過去5年間の救急搬送人員を比較すると、令和3年は令和2年と比較して、20代以下と90歳以上は増加していますが、ほかは減少しています(図3-35から図3-44まで)。

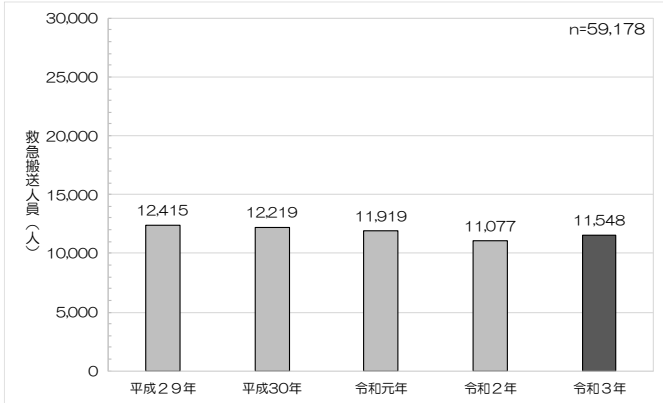


図3-35 9歳以下

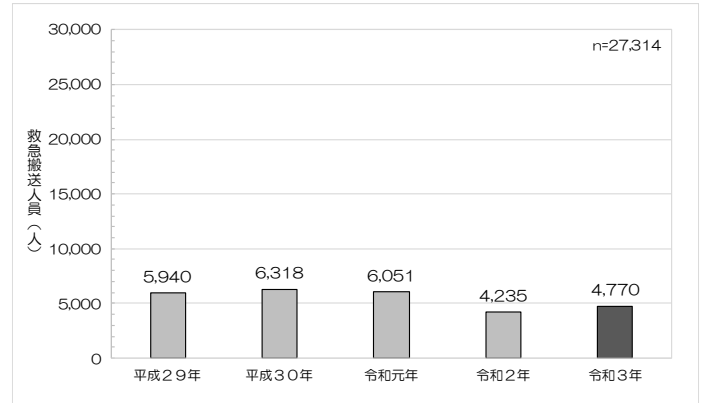


図3-36 10代

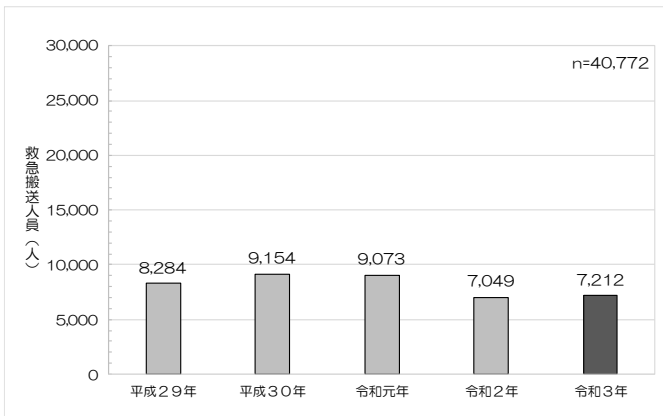


図3-37 20代

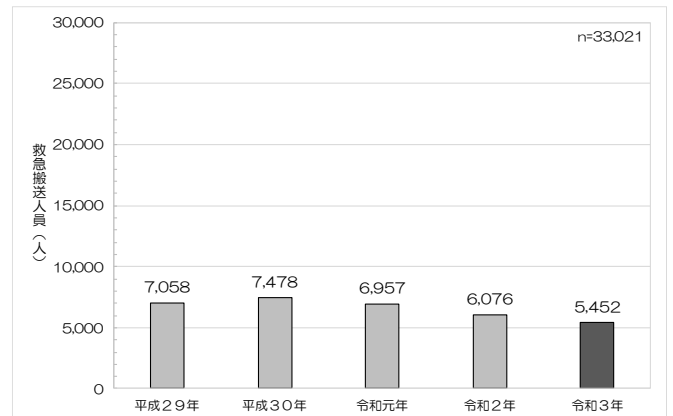


図3-38 30代

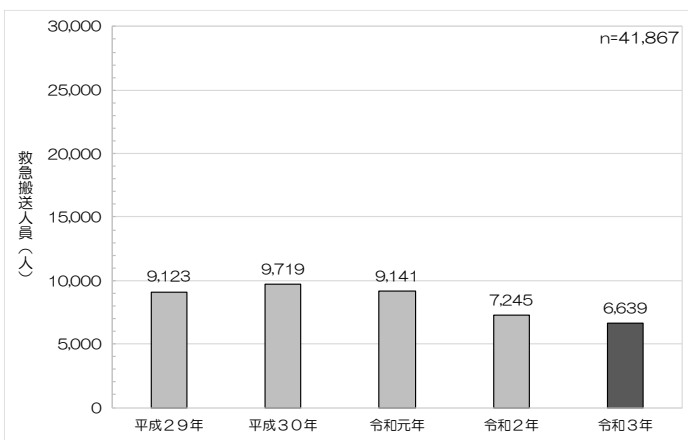


図3-39 40代

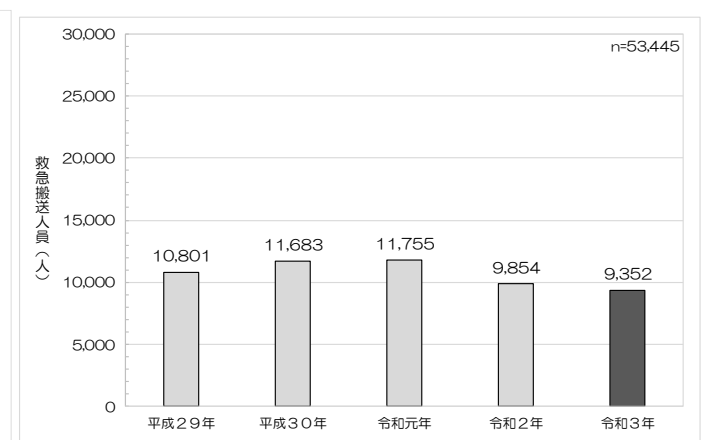


図3-40 50代

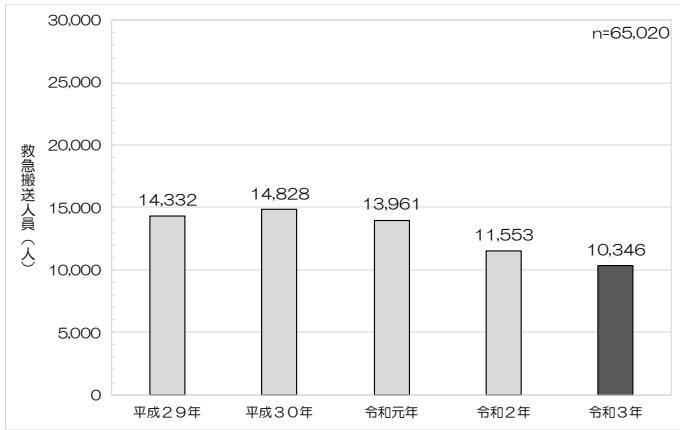


図3-41 60代

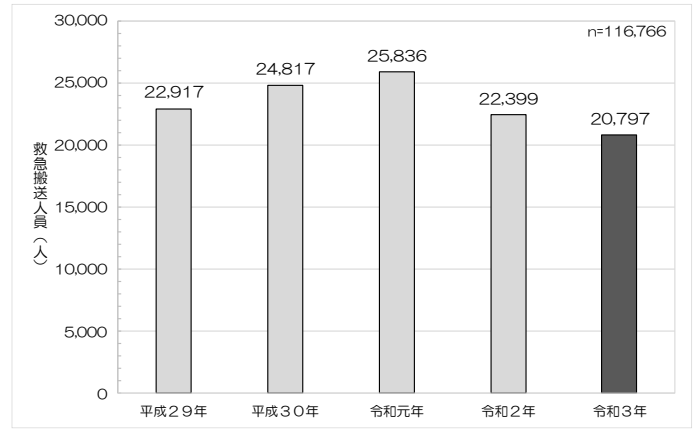


図3-42 70代

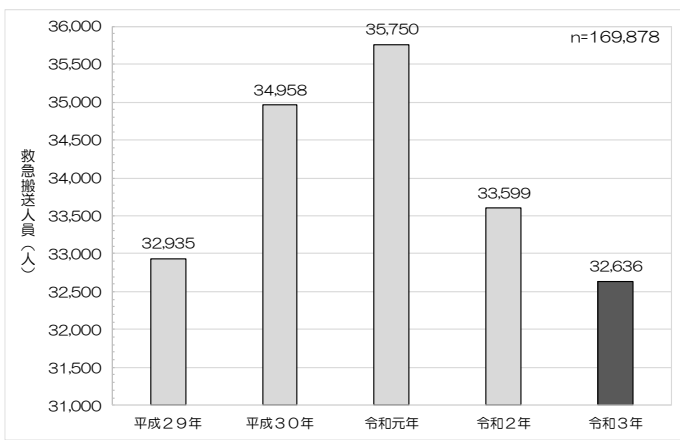


図3-43 80代

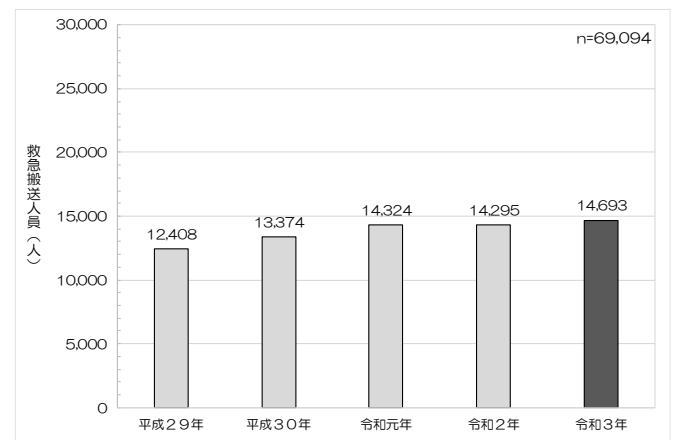


図3-44 90歳以上

(2) 事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較

令和3年を事故種別（その他、不明を除く）ごとに比較すると、「ころぶ」事故の割合は、50代から全体の6割以上を占めています。「落ちる」事故では9歳以下で約3割を占めています。「切る・刺さる」事故では20代と30代で1割以上を占めています。「ものがつまる等」の事故については、9歳以下では1割以上を占めています（図3-45から図3-54まで）。

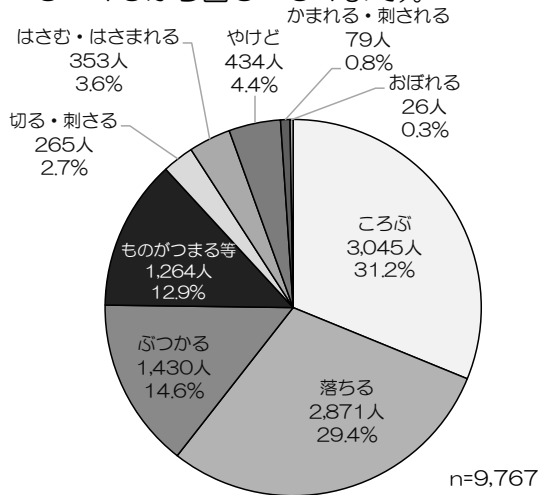


図3-45 9歳以下

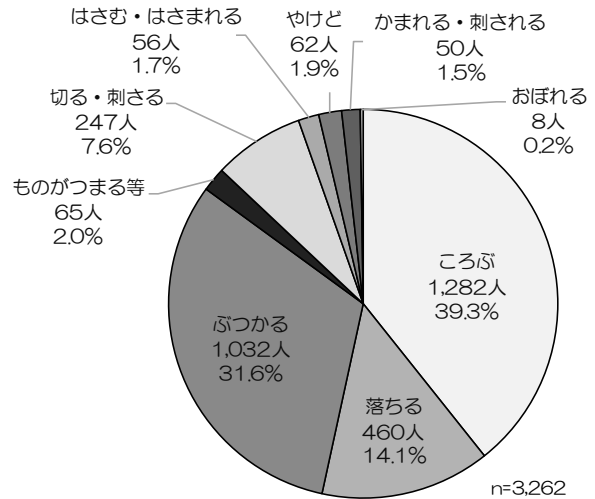


図3-46 10代

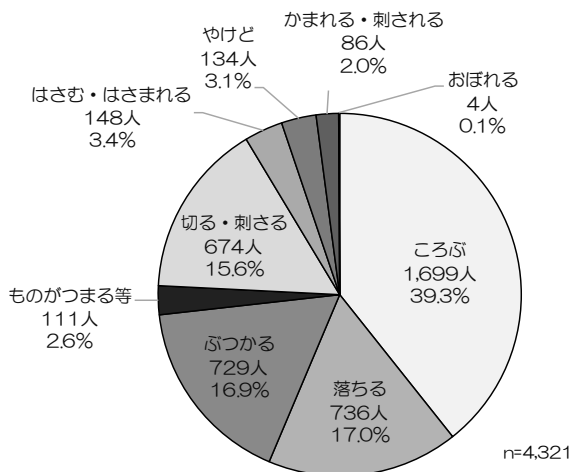


図3-47 20代

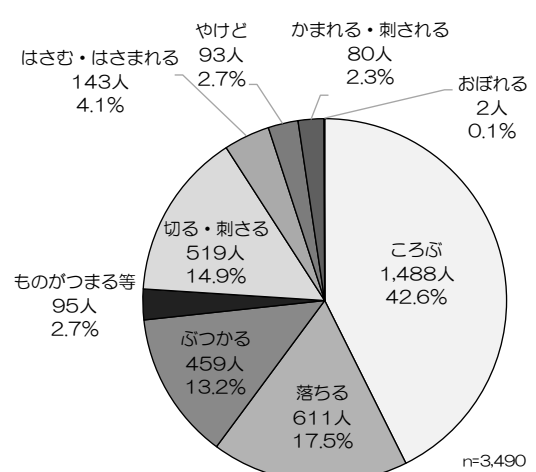


図3-48 30代

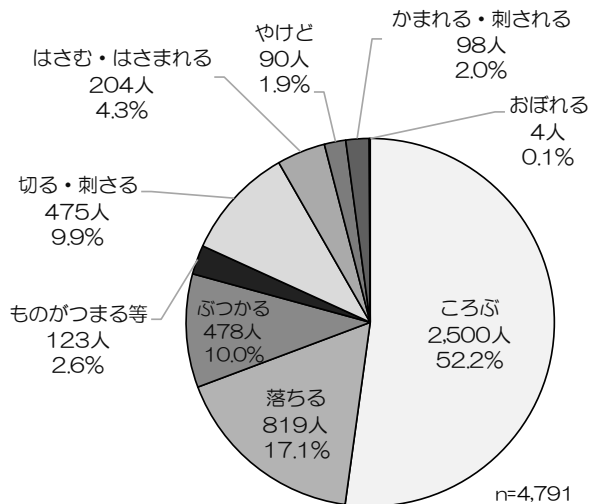


図3-49 40代

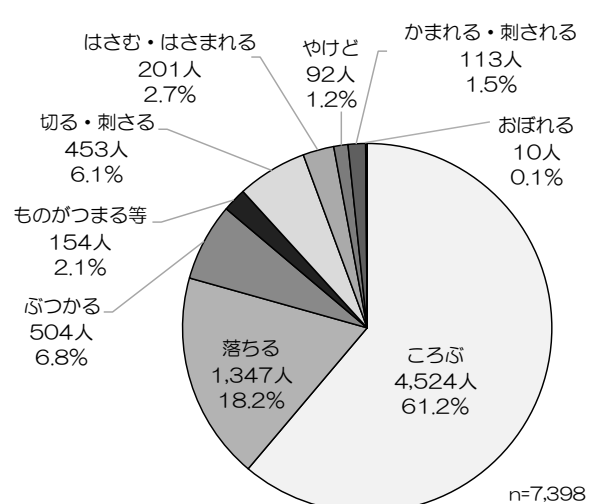


図3-50 50代

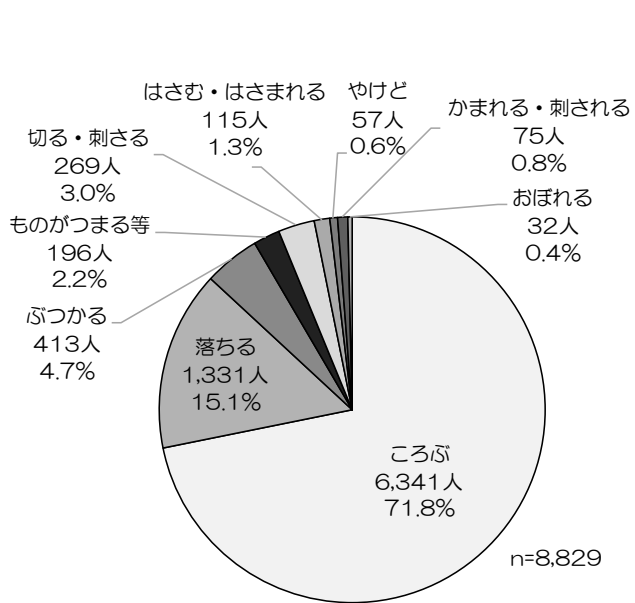


図3-51 60代

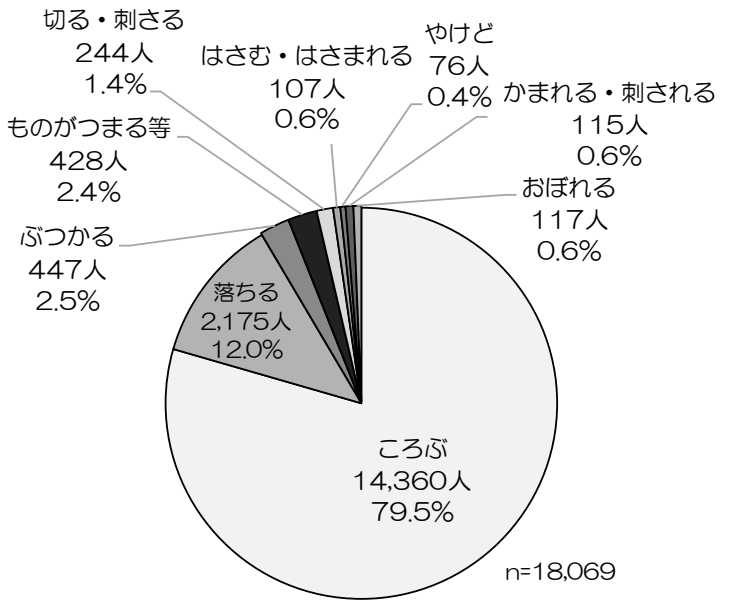


図3-52 70代

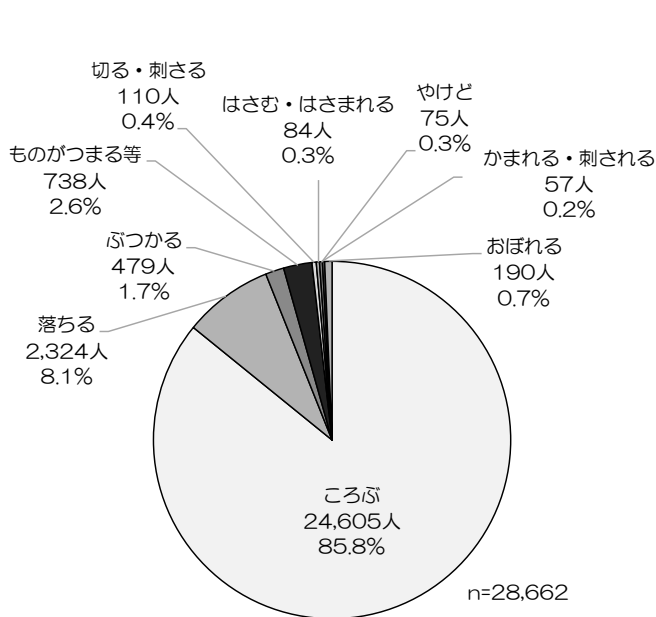


図3-53 80代

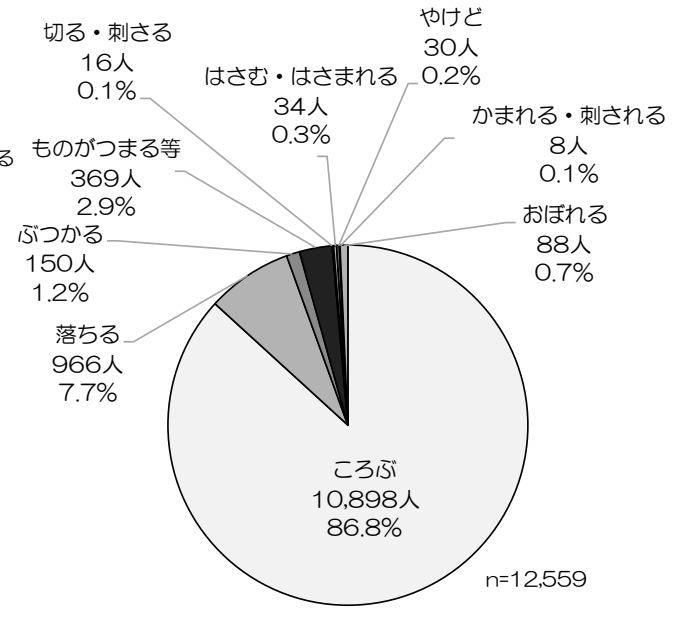


図3-54 90歳以上

(3) 時間帯別の比較

令和3年を時間帯別に比較すると、9歳以下では15時台から20時台までの時間帯で800人以上が救急搬送されています。10代では日中が多くなっており、20代から50代までにかけては夜間に増加しています。60代では夜間に加えて、日中でも多く救急搬送されています。70代以上では夜間の救急搬送が減少し、日中に多く救急搬送されています（図3-55から図3-64まで）。

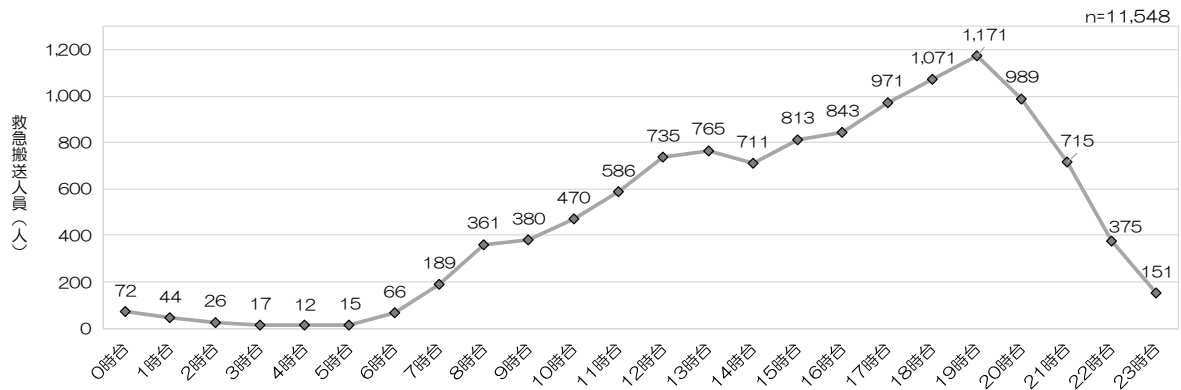


図3-55 9歳以下

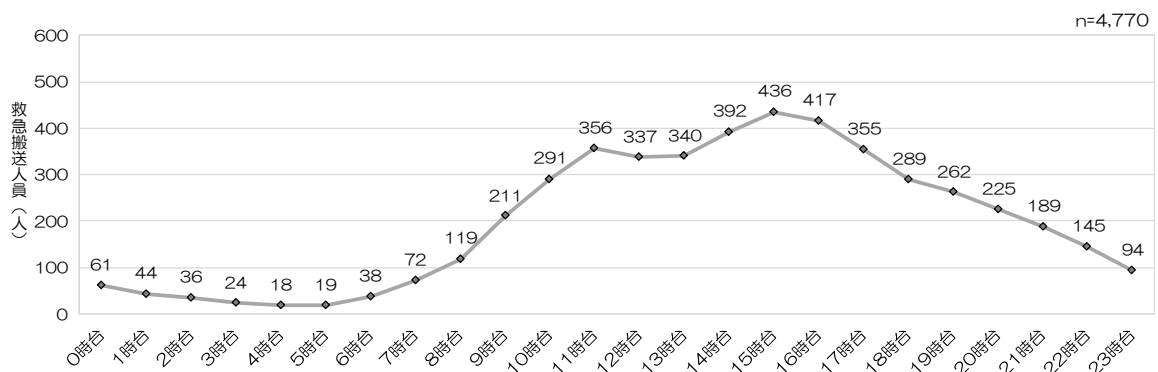


図3-56 10代

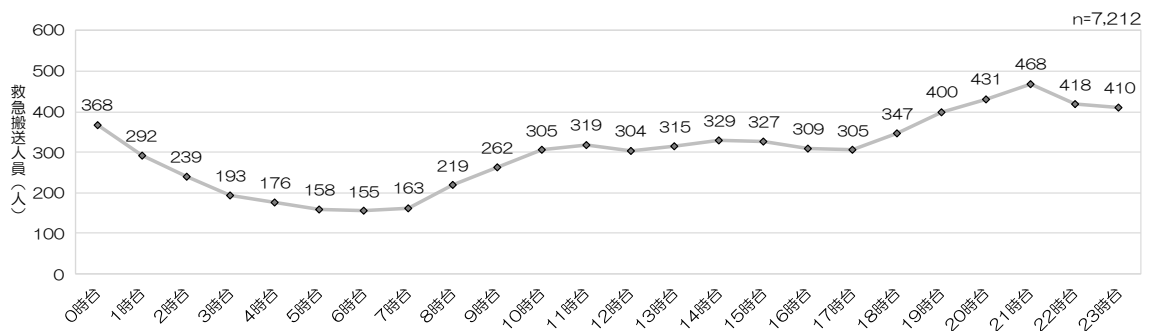


図3-57 20代

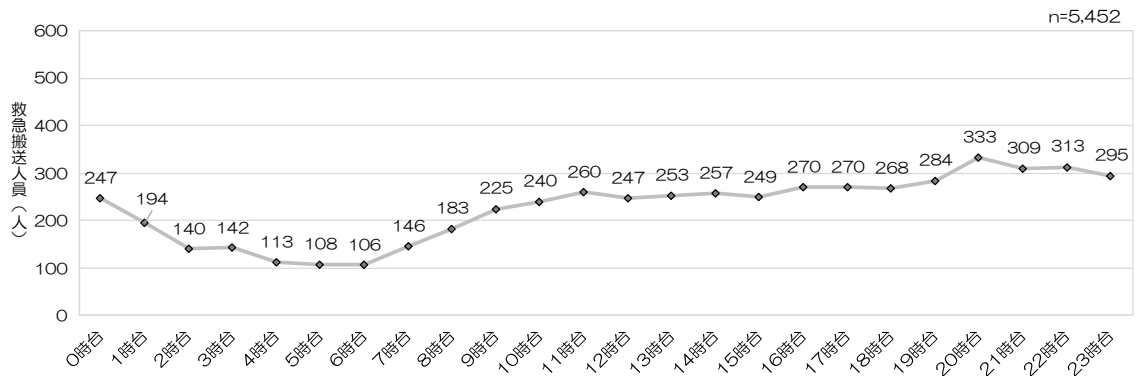


図3-58 30代

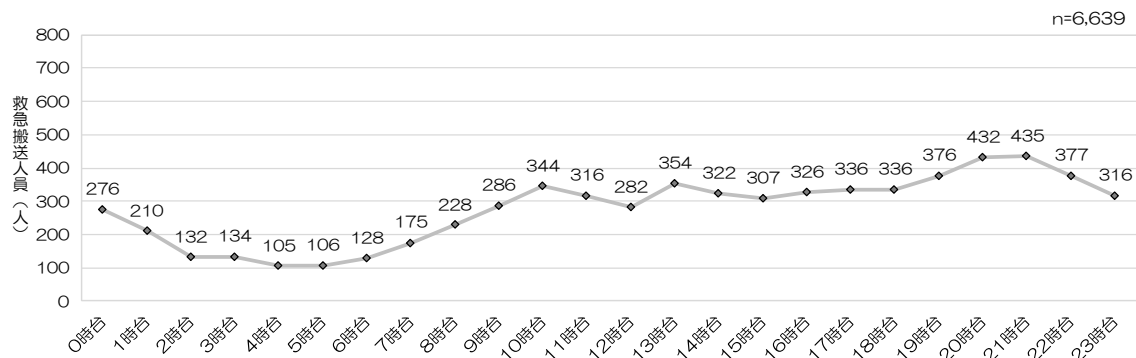


図3-59 40代

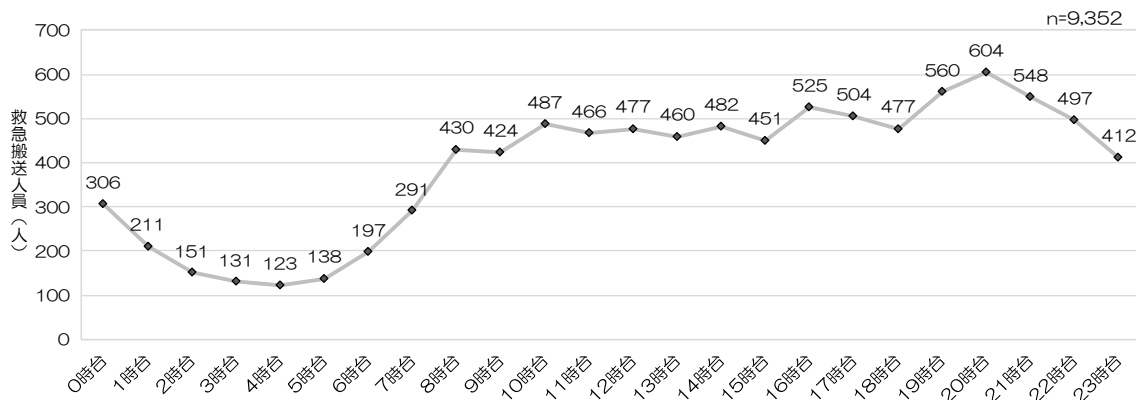


図3-60 50代

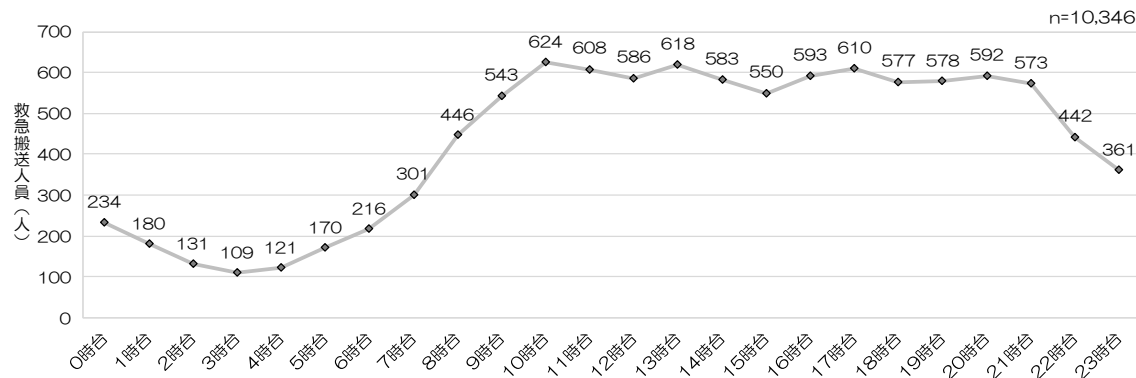


図3-61 60代

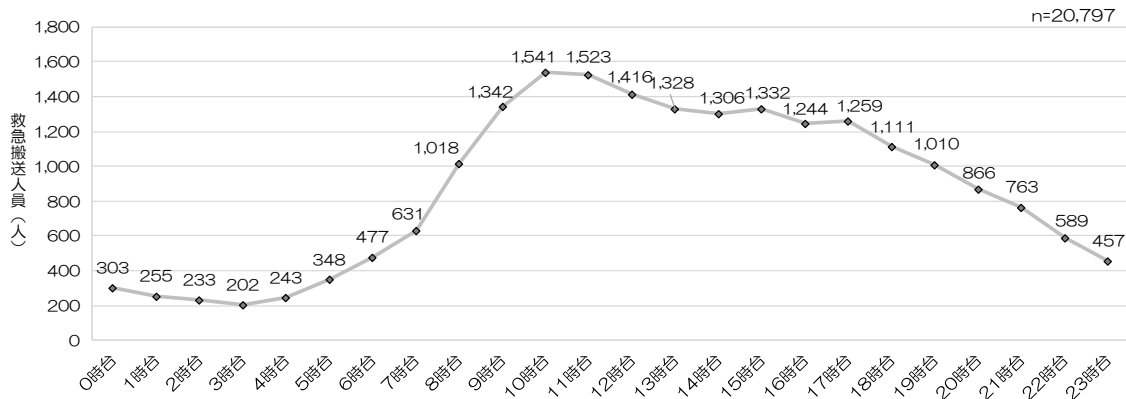


図3-62 70代

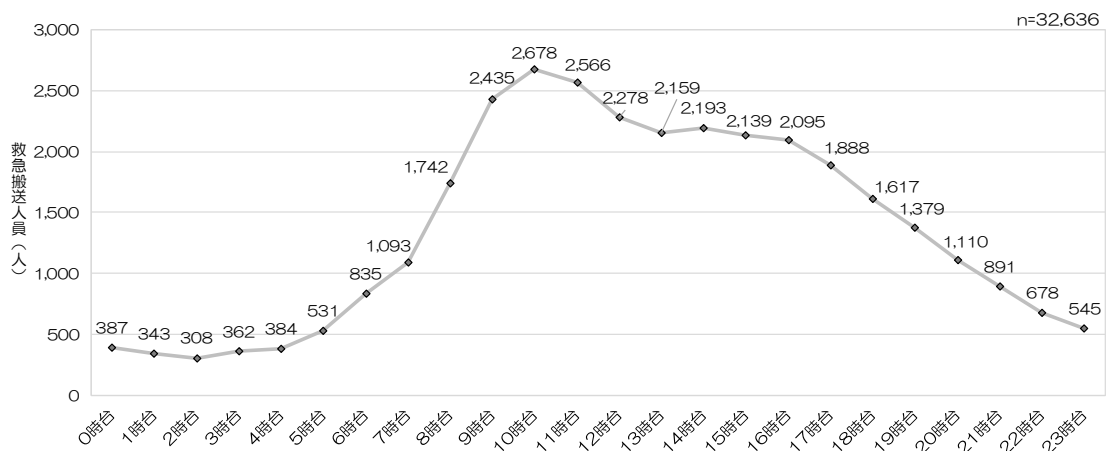


図3-63 80代

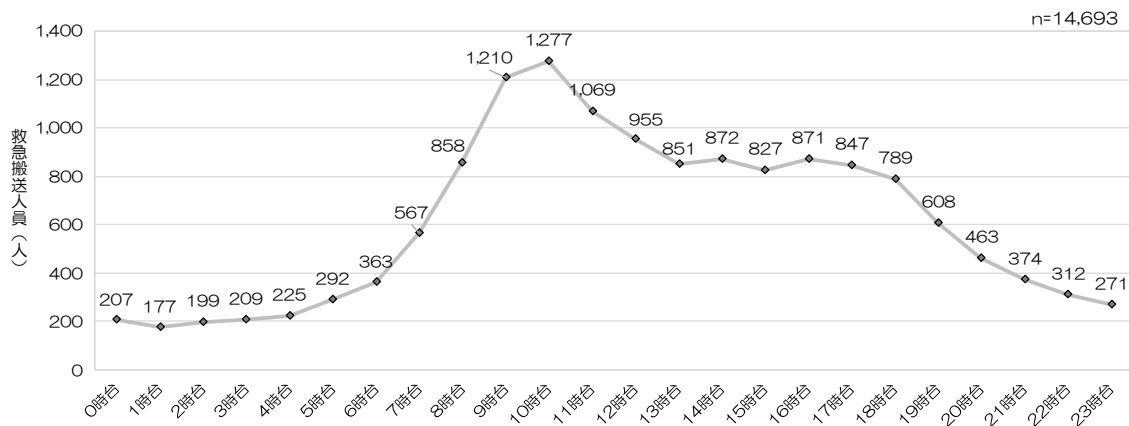


図3-64 90歳以上

第4部 初診時程度（死亡・重篤）から見た事故

1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、平成29年から令和3年までの5年間に日常生活における事故により救急搬送された8,772人が、初診時程度が死亡または重篤でした。

令和3年中は、1,534人が死亡または重篤でした（図4-1）。

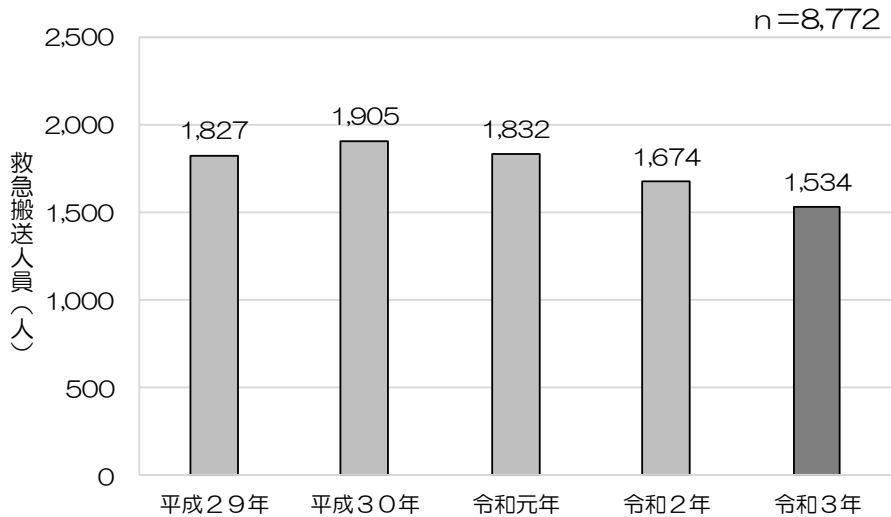


図4-1 年別の救急搬送人員

2. 月別搬送人員

月別に見ると、1月の204人が最も多く、次いで12月、2月に多く搬送されています（図4-2）。

年末年始の餅による「ものがつまる等」の事故、冬の入浴による「おぼれる」事故が増える時期に搬送人員が増える傾向が見られます。

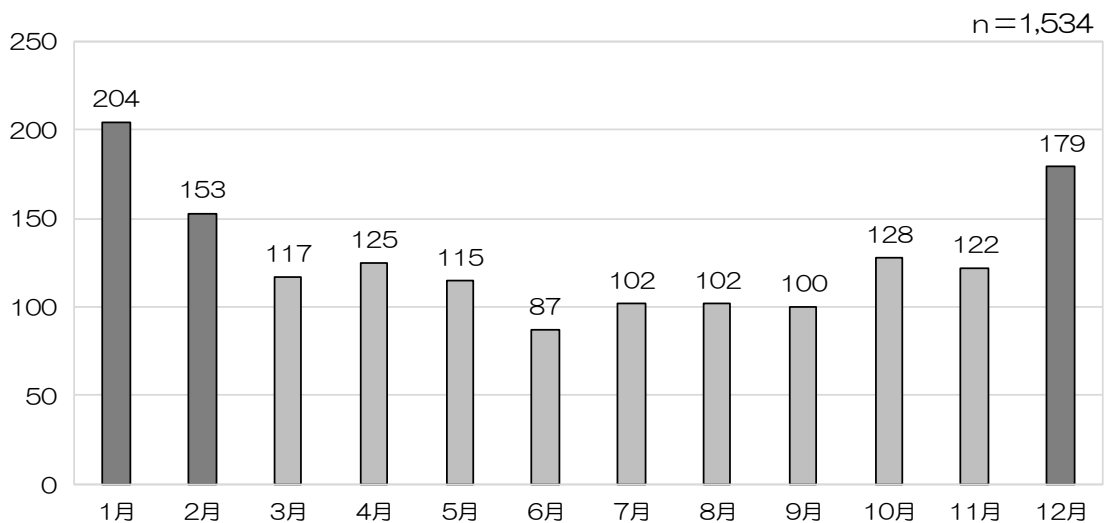


図4-2 月別の救急搬送人員

3. 事故種別ごとの搬送人員

令和3年を事故種別ごとに見ると、「ものがつまる等」「おぼれる」事故が多く、その2つで全体（その他、不明を除く）の7割以上を占めています。

また、落ちる事故も約2割を占めています（図4-3）。

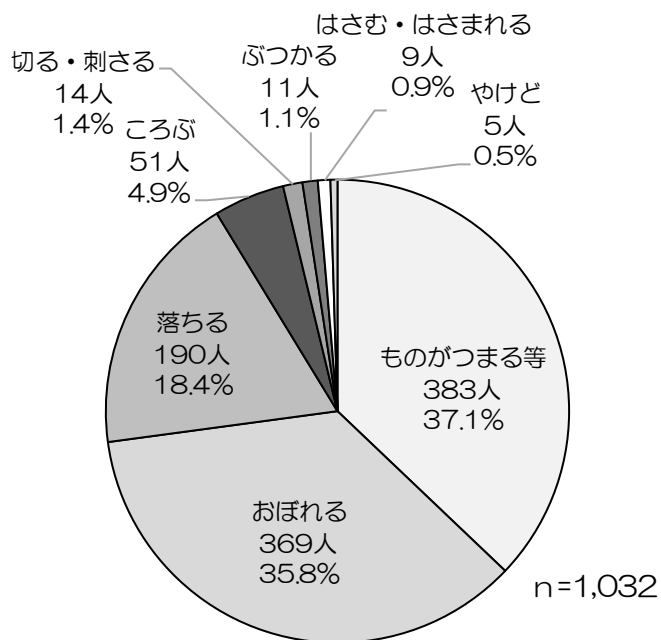


図4-3 事故の種類別構成比割合（その他、不明を除く）

4. 時間帯別・事故種別ごとの搬送人員

時間帯及び事故種別ごとに見ると、時間帯としては12時台及び17時台から21時台までで多くなっています。

食事の時間帯に「ものがつまる等」の事故が多く発生しており、また、入浴をする夜の時間帯に「おぼれる」事故が多く発生しています。

「かまれる・刺される」事故で初診時程度が死亡・重篤のものはありませんでした(図4-4)。

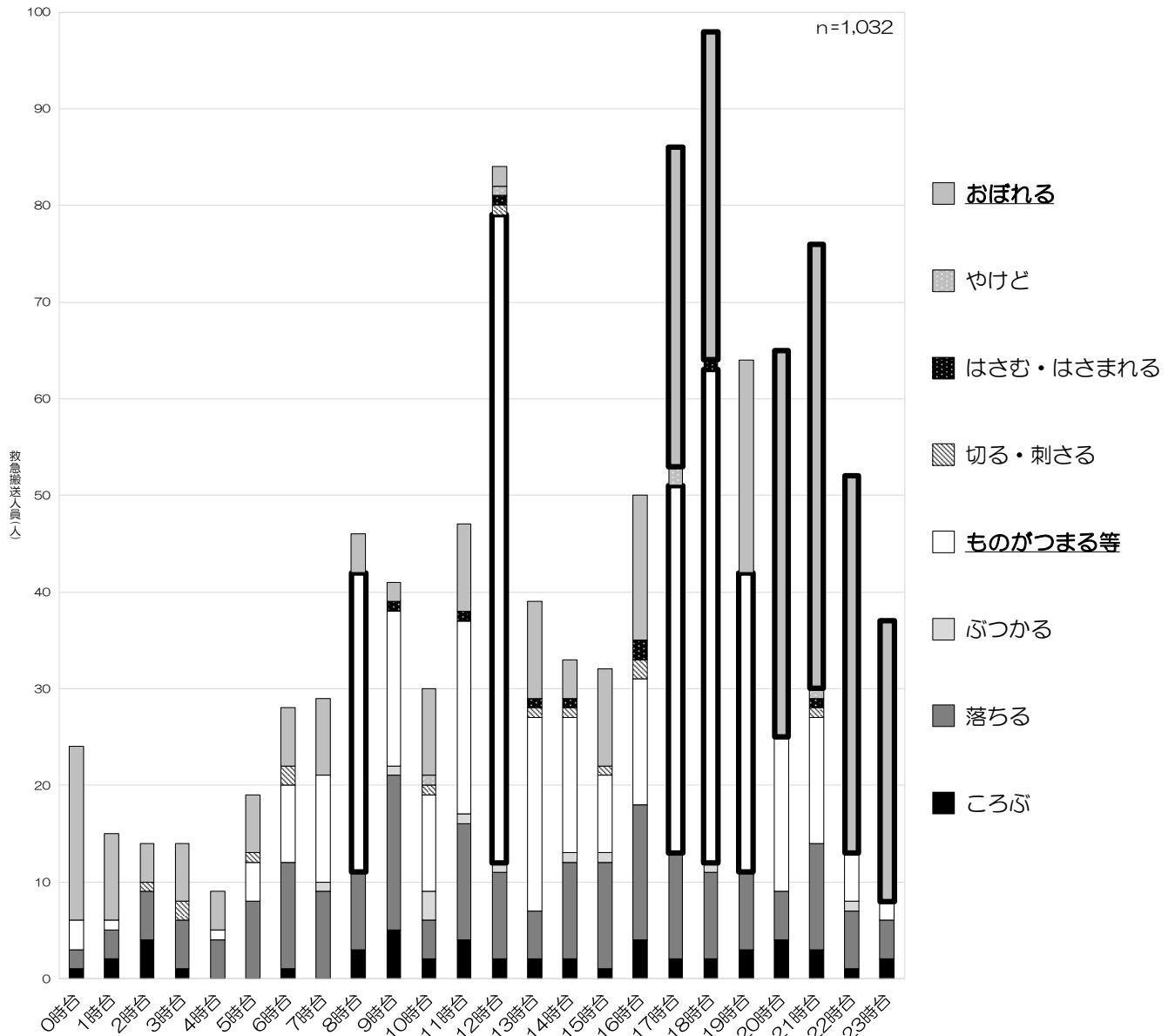


図4-4 時間帯別・事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

5. 年代別・発生場所別の搬送人員

年代別に見ると、70代及び80代が約5割を占めています。発生場所別に見ると、住宅等居住場所が約8割を占めています（図4-5）。

住宅等居住場所を除いて見てみると、年代別では70代が約2割を占めています。発生場所別では道路・交通施設が約5割を占めています（図4-6）。

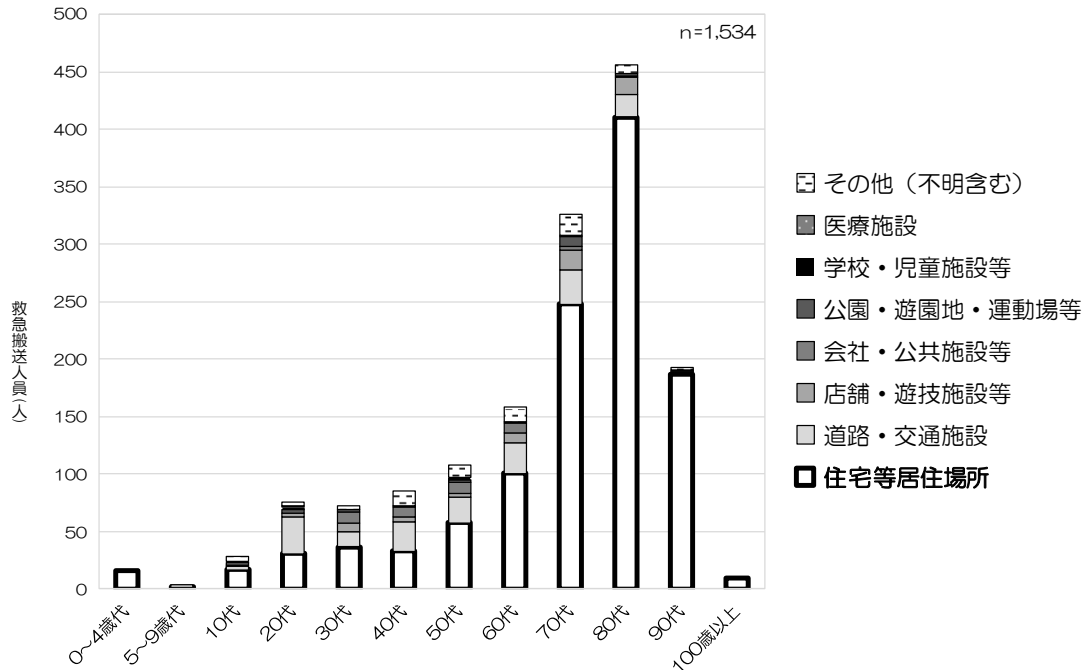


図4-5 年代別・発生場所別の救急搬送人員

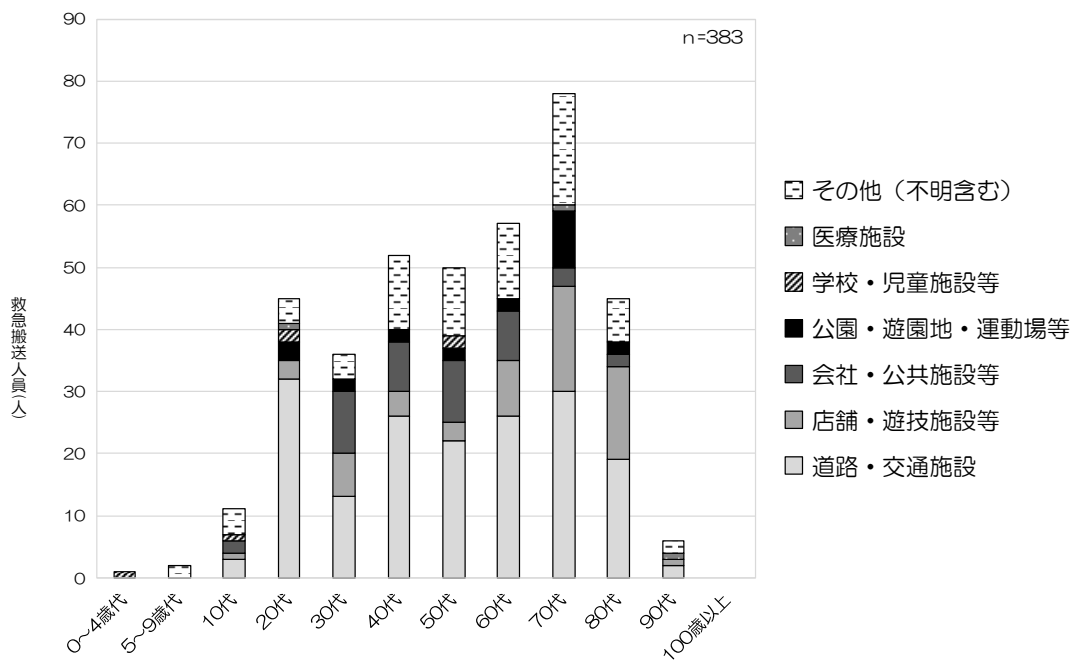


図4-6 年代別・発生場所別の救急搬送人員（住宅等居住場所を除く）

6. 事故種別ごとに見る死亡・重篤事故

(1) ものがつまる等

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、70代から90代までが全体の約9割を占めています（図4-7）。

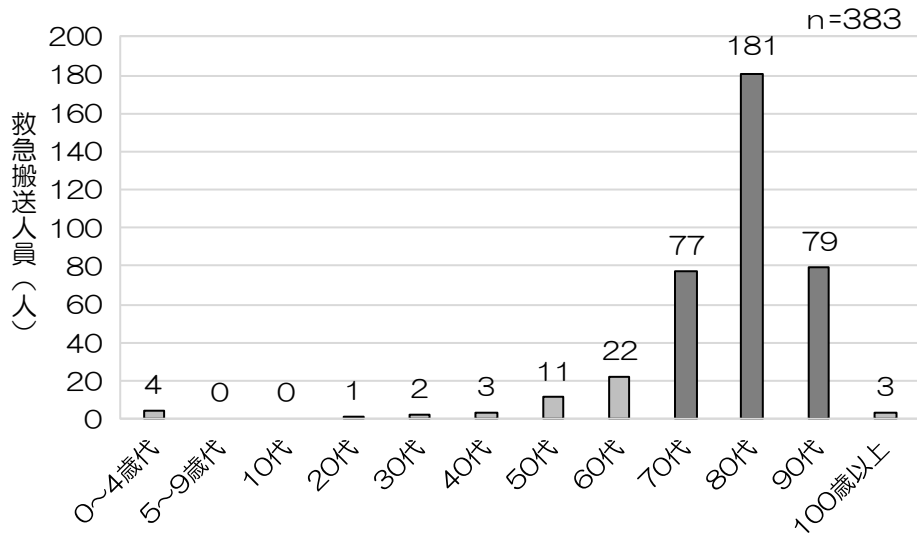


図4-7 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「ものがつまる等」の事故全体では、玩具類、食べ物、洗剤、包み・袋といった要因が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ると、食べ物による事故が多くを占めていることがわかります（表4-1）。

表4-1 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	タバコ、洗剤等、肉、包み・袋 各1人				
20代~50代	食物 5人	おかゆ類、肉 各2人	パン、菓子、野菜 等 各1人		
60代以上	食物 112人	おかゆ類 44人	餅 29人	パン 25人	ご飯、肉 各21人

※その他、不明を除く

【事例 ものがつまる等】

ステーキを食べていて、喉に詰まらせて意識を失った（60代 重篤）。

(2) おぼれる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、70代から90代までが全体の約9割を占めています（図4-8）。

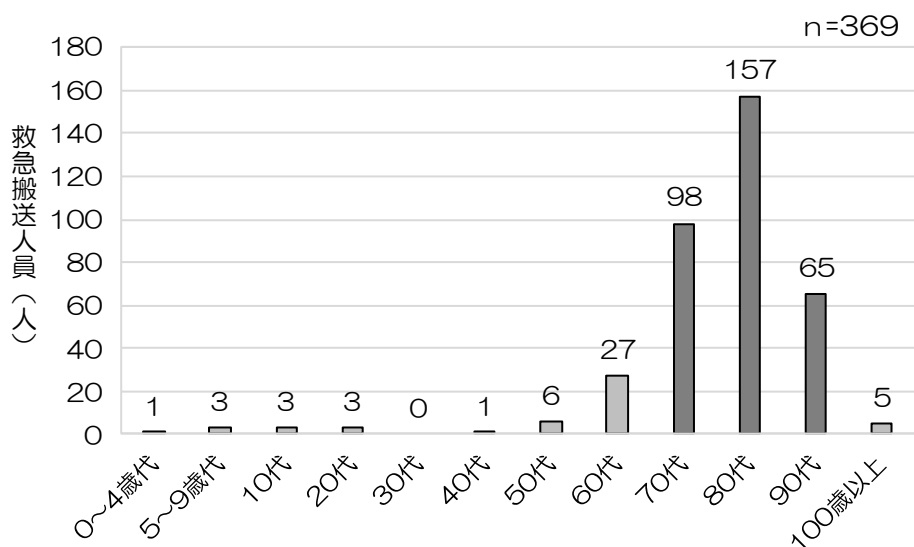


図4-8 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「おぼれる」事故全体では、「浴槽」での事故が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ても、「浴槽」での事故が多くを占めていることがわかります。

10代以下では、河川での事故の割合も高くなっています（表4-2）。

表4-2 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	河川 4人	浴槽 3人			
20代~50代	浴槽 9人	海 1人			
60代以上	浴槽 314	プール、河川、海、船 各1人			

※その他、不明を除く

【事例 おぼれる】
 浴室が静かなことに気づいた家族が様子を見に行ったら、浴槽内で顔を水没させて意識を失っていた（80代 死亡）。

(3) 落ちる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、ほかの事故種別と比較して搬送人員の偏りは少なく、各年代において死亡・重篤事故が発生しています（図4-9）。

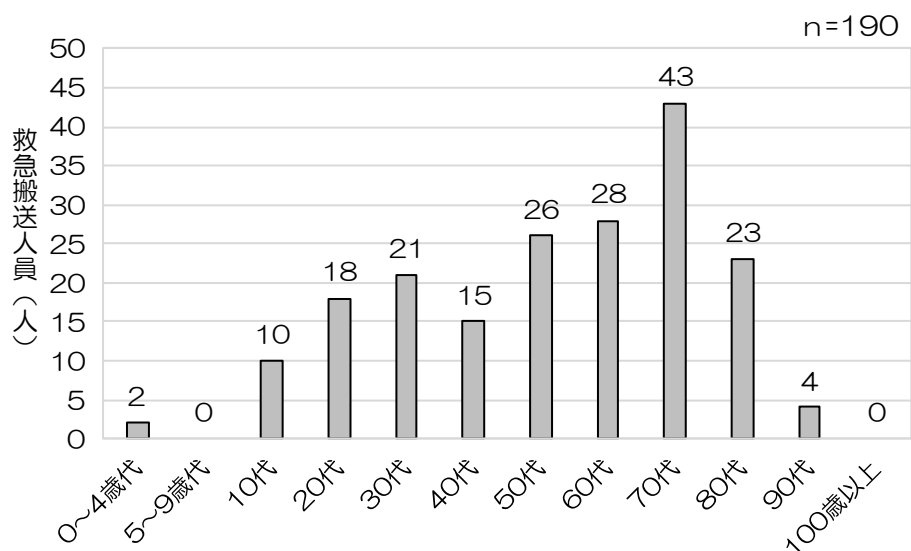


図4-9 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「落ちる」事故全体では、「階段」、「ベッド」、「椅子」といった要因が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ると「階段」が要因の事故が多くなっています。20代以上では「脚立・踏み台・足場」による事故が多くを占めていることがわかります（表4-3）。

表4-3 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	橋 2人	階段、ベランダ、ベッド 各1人			
20代~50代	階段 13人	脚立・踏み台・足場 4人		屋根、橋 各3人	
60代以上	階段 28人	脚立・踏み台・足場 7人	屋根 2人	ベッド、ベランダ 等 各1人	

※その他、不明を除く

【事例 落ちる】
 工事現場にて、バランスを崩して5mの高さの足場から墜落した（50代 重篤）。

(4) ころび

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、60代以上で多く発生しています（図4-10）。

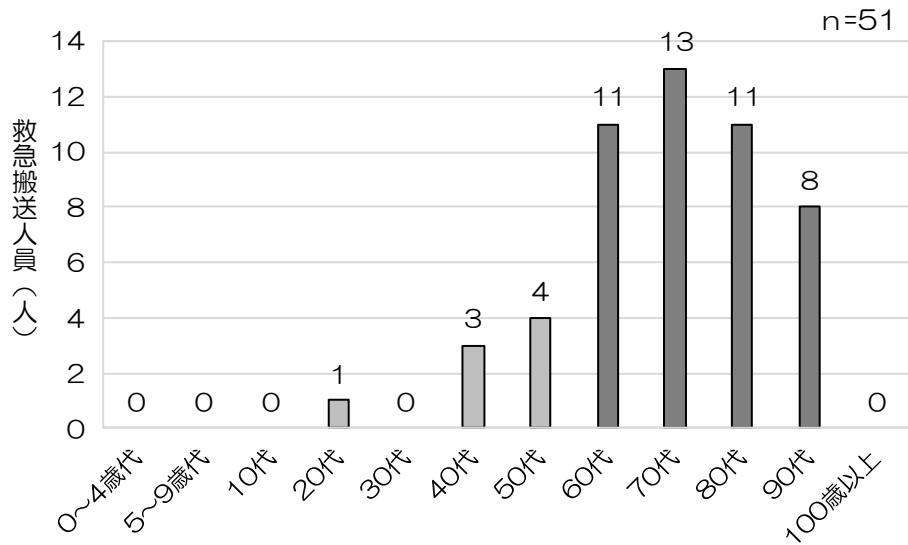


図4-10 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では「ころび」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

60代以上では、「階段」をはじめとして様々な要因で死亡・重篤事故が発生していることがわかります（表4-4）。

表4-4 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	脚立 1人				
60代以上	階段 3人	その他の家具 2人	エスカレーター、自転車 等 各1人		

※その他、不明を除く

※その他の家具とは、流し台等

【事例 ころび】

自宅のキッチンにて、飲み物を飲もうとして誤って転倒し、流し台に胸をぶつけて受傷した（80代 重篤）。

(5) 切る・刺さる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、40代及び60代で多く発生しています（図4-11）。

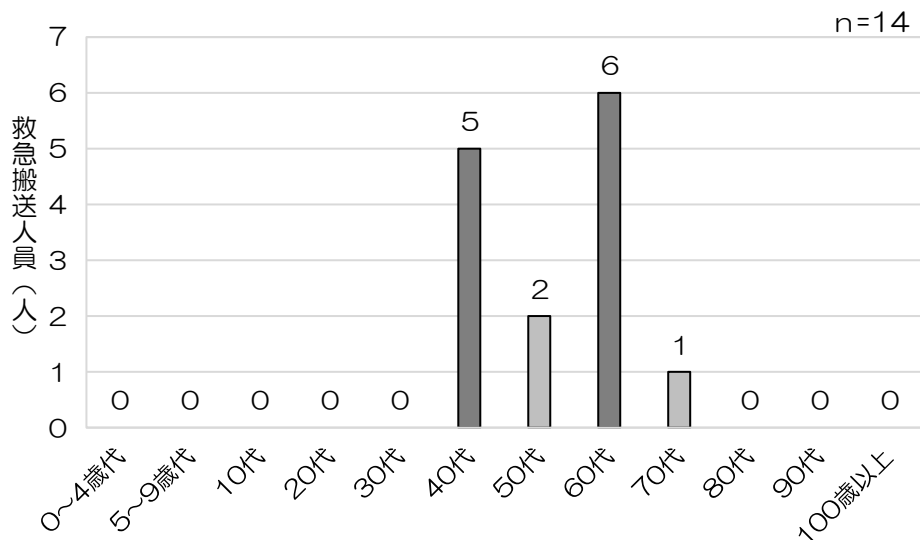


図4-11 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では「切る・刺さる」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

20代以上では、「ナイフ」が多くなっています（表4-5）。

表4-5 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	ナイフ 2人	サンダー、ガラス片 各1人			
60代以上	ナイフ 2人	サンダー 1人			

※その他、不明を除く

【事例 切る・刺さる】

工事作業中に、ディスクグラインダーの刃に誤って接触し、受傷した（50代 重篤）。

(6) ぶつかる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると40代で多く発生していますが、0～4歳代の乳幼児でも発生しています（図4-12）。

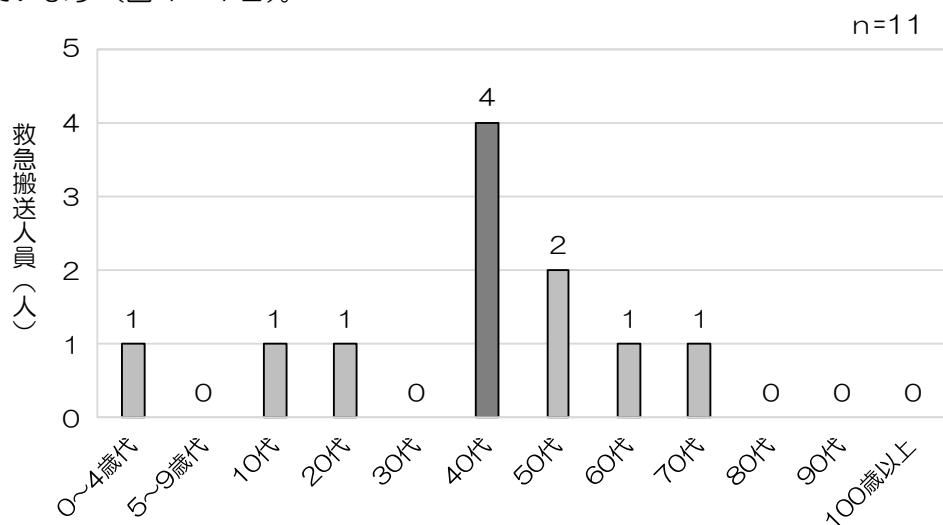


図4-12 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、運動競技中に「ボール」に当たる事故や、「人」に抱かれていたところ抱いていた人が転倒してしまい地面等にぶつかる事故が発生しています。

20代以上では、「建材」や「フォークリフト」等にぶつかる事故が発生しています（表4-6）。

表4-6 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
	10代以下		ボール、人 各1人			
20代～50代		建材 2人	機械、フォークリフト、パイプ 各1人			
60代以上		鉄道車両 1人				

※その他、不明を除く

【事例 ぶつかる】

誤って照明を消してしまった倉庫内で、動いてきたフォークリフトにぶつかり受傷した（40代 重篤）。

(7) はさむ・はさまれる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると30代以上で発生しており、50代の割合が高くなっています(図4-13)。

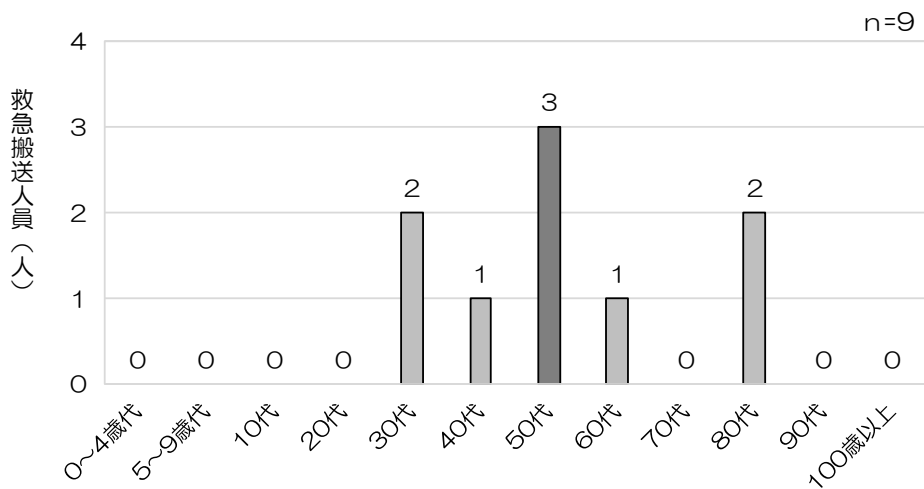


図4-13 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、「はさむ・はさまれる」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

20代以上では、事故の要因にばらつきは見られますが、「印刷機」や「ベルトコンベヤー」等、仕事上の事故の割合が高くなっています(表4-7)。

表4-7 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	印刷機、ベルトコンベヤー、トイレ、荷物 等 各1人				
60代以上	プレス機、粉碎機、ベッド 各1人				

※その他、不明を除く

【事例 はさむ・はさまれる】

倉庫内で荷物の積み下ろし中に、荷物の下敷きになり受傷した(50代 重篤)。

(8) やけど

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると50代以上で発生しており、高齢者の割合が高くなっています(図4-14)。

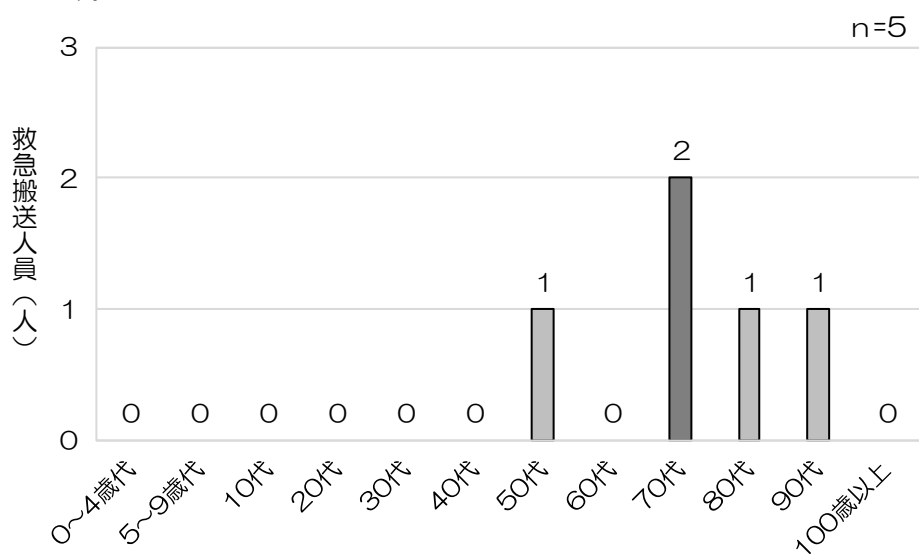


図4-14 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、「やけど」の事故による死亡・重篤事故は発生していません。

数は少ないですが、20代以上では「キュービクル」、「電気こたつ」、「湯たんぽ」が要因となっています(表4-8)。

表4-8 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	キュービクル 1人				
60代以上	電気こたつ、湯たんぽ 各1人				

※その他、不明を除く

【事例 やけど】

熱湯を湯たんぽに入れて搬送していたところ、誤って湯たんぽをひっくり返してしまい、受傷した(70代 重篤)。